



報 會 師 劑 藥 新 大

No.281. 2016(平成28年) 3・4月号



沖 繩 県 薬 劑 師 会

薬 剤 師 倫 理 規 定

平成9年10月 日本薬剤師会改訂

前 文

薬剤師は、国民の信託により、日本国憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、人権の中でもっとも基本的な個人の生命・健康の保持促進に寄与する責務を担っている。

この責務の根底には生命への畏敬に発する倫理が存在するが、さらに、調剤をはじめ、医薬品の創製から供給、適正な使用に至るまで、確固たる薬の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、医療の向上及び公共の福祉の増進に貢献し、薬剤師職能を全うするため、ここに薬剤師倫理規定を制定する。

第1条（任務）

薬剤師は、個人の尊厳の保持と生命の尊重を旨とし、調剤をはじめ、医薬品の供給、その他の薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活の確保に努める。

第2条（良心と自律）

薬剤師は、常に自らを律し、良心と愛情をもって職能の発揮に努める。

第3条（法令等の遵守）

薬剤師は、薬剤師法、薬事法、医療法、健康保険法、その他関連法規に精通し、これら法令等を遵守する。

第4条（生涯研鑽）

薬剤師は、生涯にわたり高い知識と技能の水準を維持するよう積極的に研鑽するとともに、先人の業績を顕彰し、後進の育成に努める。

第5条（最善尽力義務）

薬剤師は、医療の担い手として、常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者の利益のため職能の最善を尽くす。

第6条（医薬品の安全性等の確保）

薬剤師は、常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努める。また、医薬品が適正に使用されるよう、調剤及び医薬品の供給に当たり患者等に十分な説明を行う。

第7条（地域医療への貢献）

薬剤師は、地域医療向上のための施策について、常に率先してその推進に努める。

第8条（職能間の協調）

薬剤師は、広範にわたる薬剤師職能間の相互協調に努めるとともに、他の関係職能をもつ人々と協力して社会に貢献する。

第9条（秘密の保持）

薬剤師は、職務上知り得た患者等の秘密を、正当な理由なく漏らさない。

第10条（品位・信用等の維持）

薬剤師は、その職務遂行にあたって、品位と信用を損なう行為、信義にもとる行為及び医薬品の誤用を招き濫用を助長する行為をしない。

目次

薬剤師倫理規定	
巻頭言	今後の薬局ビジョン……………川満 直紀… (2)
表彰	沖縄県学校保健会長表彰 (小波蔵廣美先生、宮里暁子先生、渡慶次美保子先生) …… (3)
寄附	学校薬剤師部会うるま支部からうるま市教育委員会へ寄附…………… (3)
	沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式……………大城 喜仁… (4)
総会	第73回臨時総会開催…………… (5)
総会資料	平成28年度事業計画および平成28年度収支予算…………… (8)
	第73回臨時総会における議案事項…………… (20)
医療保険	平成28年度調剤報酬改定等説明会報告……………照屋林一郎… (22)
医療安全	平成27年度医療安全講習会報告……………名嘉 紀勝… (24)
医薬分業	日薬eお薬手帳及び不動態在庫・備蓄ネットワークシステム説明会参加報告…伊集 智英… (26)
	平成27年度医薬分業対策委員会主催研修会報告……………川上雄一朗… (28)
	……医薬分業対策委員会主催研修会に参加して……………中野 将仁… (30)
学術研修	第4回「薬剤師のための症例検討入門」研修会報告……………伊差川サヤカ… (34)
地域保健	平成27年度自殺予防対策事業ゲートキーパースキルアップ研修会報告…金城絵理子… (36)
	日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第4回)」伝達研修会…島袋さゆり… (38)
	第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会報告……………上里美矢子… (39)
青年部会	青年部会主催在沖米軍基地内海軍病院見学ツアー報告……………新江 裕貴… (41)
	……在沖米軍基地内海軍病院視察に参加して……………福 大哉… (43)
女性薬部会	薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング開催…………… (44)
	村田美智子・玉澤真理子・與儀明美・建本満枝・儀間祐希
学薬部会	国頭地区養護教諭研修会報告……………国頭地区養護教諭研究会… (48)
卸薬部会	日本医薬品卸勤務薬剤師会福岡県支部平成27年度継続研修会報告(その②)…森下 彰久… (50)
	平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告……………城村 幹彦… (53)
月例相談会	第129回健康とおくすり相談会報告 (八重山地区薬剤師会)……………新嵩 由香… (55)
	第130回健康とおくすり相談会報告 (南部地区薬剤師会)……………伊敷松太郎… (56)
	第131回健康とおくすり相談会報告 (那覇地区薬剤師会)……………小湾 喜彦… (57)
啓発・普及活動	平成27年度健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告……………大城 喜仁… (58)
	未来の産業人材育成事業「職業人講話」について……………大城 喜仁… (59)
新入会員	平成27年10月1日～平成28年3月末日入会分…………… (60)
DI	薬事情報おきなわNo. 238……………薬事情報センター… (61)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報…………… (71)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第25回 ヘチマ・糸瓜・ナーベラー……………狩俣 イソ… (72)
リレー随筆	チャオ！イタリア珍道中記……………平良仔己子… (74)
薬連だより	国会レポート～薬剤師国家試験の見直しについて～……………藤井もとゆき… (76)
転載記事	「お薬手帳」持参で安く かかりつけ薬局促進へ…………… (77)
	薬剤師の在宅訪問 (上) (下)…………… (78)
	困窮世帯に薬代助成 那覇市…………… (80)
	琉球新報連載コーナー「南風」執筆連載……………吉田 洋史… (83)
	「患者さんの笑顔のために」FAXコーナー職員の投稿記事…………… (83)
理事会	平成27年度第6回定例理事会議事概要…………… (84)
	平成27年度第7回定例理事会議事概要…………… (94)
	平成27年度第8回定例理事会議事概要…………… (103)
	平成27年度第9回定例理事会議事概要…………… (109)
会務報告	平成28年2月～3月分…………… (116)
	沖縄県薬剤師連盟会務報告 (平成28年3月～4月分)…………… (120)
訃報	ご逝去 池間 啓先生、古謝紀和先生…………… (120)
社保だより	平成28年度における診療報酬等の納入期日及び支払日予定表…………… (123)
一包一話	友、一番くんを思う……………橋 の 下… (124)
会員作品	誌上ギャラリー (裏表紙) について…………… (126)
編集後記	…………… (126)
お知らせ	表紙に掲載の写真「世界の薬局」を大募集！…………… (102)
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！…………… (102)
	県薬が会員に販売している印刷物等…………… (108)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… (120)
	第30回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について……………学術大会実行委員会… (121)
	会報原稿募集のご案内…………… (125)

・表紙

「香りを自在に操る世界最古の薬局 “サンタマリアノヴェラ薬局”」

題字：豊平峰雲

photo by 平良 仔己子 (調剤薬局クオレ) 撮影地：イタリア フィレンツェ

本号74ページのリレー随筆に平良仔己子氏執筆の「チャオ！イタリア珍道中記」が掲載されていますので、お楽しみください。



巻 頭 言

今後の薬局ビジョン

那覇地区薬剤師会 会長
沖縄県薬剤師会 常務理事 川満 直紀



私ども那覇地区薬剤師会（以下、本会）は新体制でスタートし、早いもので10ヵ月が過ぎようとしています。今回、会長を引き受けたものの、次々と課題が出現し、戸惑うばかりです。これまで本会のためにご尽力いただいた先輩や会員ひとりひとりに支えられ本会の組織作りに励んでいます。

本会は、500人以上の会員が在籍しています。一人薬剤師の薬局も多く、業務多忙な会員の生涯学習を支援するために毎月、臨床講座を開催しています。また今回、政府が発表した薬局ビジョンについても県薬と協力体制を整え、一人薬剤師の薬局でもビジョンを実現できるよう、支援していきたいと思っています。財政に関しても会員皆様の声に耳を傾けて真摯に努めていきたいと思っています。

今回の診療報酬改定において国から、これからの薬局ビジョンが出され、業務が今までの対物から対人へと、変化が求められています。その最たるものが「かかりつけ薬局・薬剤師」であり、「健康サポート薬局」です。

かかりつけ薬剤師・薬局の意義、役割については、患者の薬剤服用歴や現在服用中の全ての薬剤に関する情報等を一元的かつ機能的に把握し、複数診療科を受診した場合でも、多剤・重複投薬等や相互作用が防止されること、また、薬の副作用や期待される効果の継続的な確認を受けられること、在宅で療養する場合においても行き届いた薬学的管理及び指導が受けられること、また、過去の服薬情報等がわかる薬剤師が相談にのって薬について不安なことがあれば電話等でも相談できること、とされています。また、地域包括支援センターや看護ステーションなどの地域の関

係機関と連携し、地域包括ケアの一翼を担い、いつでも相談できる薬局・薬剤師がいることが重要です。さらに、かかりつけ薬剤師・薬局としての機能に加えて積極的なサポート薬局機能を有する薬局について、「健康サポート薬局」「高度薬学管理機能薬局」として住民に公表する仕組みを設けることで、薬局の積極的な取り組みを後押ししていくそうです。このように国は、具体化されたビジョンをもとに、患者に寄り添う医療を提供するように促しています。また、今までは薬局の中だけで業務をこなしていた薬剤師も、在宅などの薬局外での仕事が増え、薬剤師の役割が広がっていきます。あるDr.からは、『これからは薬剤師の地域医療に対して役割も多くなり、いろいろ助けてもらうからよろしく』との声をかけられました。

これまで先輩方が医薬分業を進めてこられ、沖縄県では院外処方比率も7割を超えました。これからは、他職種と連携し患者に対してより良いチーム医療を提供することで、「かかりつけ薬剤師」「健康サポート薬局」へとつながっていくと思います。

しかし、他地区薬剤師会同様、薬剤師不足の本会としても頭が痛いところです。薬剤師不足に関しては、沖縄県薬剤師会は沖縄県より補助をいただいて薬剤師確保事業を行っています。主に沖縄県出身の薬学生が在籍する大学へ出向いて「U・Iターンガイダンス」を行っています。それでも足りない状況は続いています。本会では、会員の皆さんの薬局がうまく機能するように県薬と協力体制をとり、サポートができればと思っています。

沖縄県学校保健会長表彰



小波蔵 廣美先生・宮里 咲子先生・渡慶次 美保子先生
おめでとうございます

期日：平成28年2月5日(金) 会場：うるま市民芸術劇場



第15回沖縄県教育研究大会にて
左より 小波蔵 廣美氏、宮里 咲子氏、渡慶次 美保子氏

寄附

沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会うるま支部（筋初子支部長）が、うるま市教育委員会（栄門忠光教育長）へ御寄付をされました。この御寄付金は、うるま市内全幼稚園へ絵本の寄贈として使われたとのこと。



左より、栄門 忠光うるま市教育委員会教育長、村田 成夫 学校薬剤師部会長、筋 初子 学校薬剤師部会うるま支部長

寄附

沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式報告

日時：平成28年3月2日(水) 14:00～14:30

会場：琉球新報社 社長室

写真左より、富田詢一 交通遺児育成会理事長
比嘉良喬 歯科医師会会長、亀谷浩昌 薬剤師会会長
仲座明美 看護協会会長、宮城信雄 医師会会長

去る3月2日、四師会による沖縄県交通遺児育成会への募金贈呈が、琉球新報社社長室にて行われました。本会は、沖縄県交通遺児健全育成資金造成のため、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会と協力して募金活動を行っています。

四師会の会長を代表して宮城信雄医師会会長より、「経済が少し回復してきているとは言われていますが未だに厳しい情勢にあると思います。そのような中、四師会会員他、関係者の皆様の温かいご支援により、744,320円の寄付をすることができました。平成2年より寄附を始め、今年で27回目になります。平成11年度まではチャリティー写真展を開催、その後も寄附を続けるため四師会が協力、各関連施設へ募金箱を設置し、募金活動を行っています。」と述べられました。

富田詢一沖縄県交通遺児育成会理事長（琉球新報社長）から、「当育成会の事業推進にご理解を頂き、大変貴重な寄附金まで賜り、御礼を申し上げます。この度の尊いご芳志については、遺児達の学業上の不安を和らげ、強く逞しく成長して将来立派な社会人になるよう有効に活用させて頂きます。今後ともご支援下さいますようお願い致します。」とお礼のご挨拶があり、引き続いて、高里宏志沖縄県交通遺児育成会事務局長より、「昭和55



年から交通事故で父母を亡くした小・中・高・特別支援・専門・大学生を対象に“奨学・育成金”等を給付してきました。現在に至る35年間で、延べ8,189人の交通遺児を支援することが出来ました。昨年度は105人の交通遺児に給付し、小・中学校入学及び中学校卒業の交通遺児26人に激励金、新たに交通遺児となった11人に対し見舞金、また、健全育成を目的としたリーダー育成金では遺児3人を九州へ派遣するなど、合わせて145人に対して、9,306,000円を給付する事が出来ました。」と、実績報告がなされ、毎年続けている寄附に感謝の言葉がありました。

亀谷会長ほか三師会会長から、「遺児達の学業上の不安をいくらかでも和らげ、強く逞しく成長して、将来立派な社会人になるよう交通遺児育成事業に有効に活用して下さい。」と述べられました。

本会におきましては、下記の募金額を寄附したことをご報告致します。

(文責：沖縄県薬剤師会事務局 大城喜仁)

○平成27年度四師会募金額

沖縄県医師会	594,320円
沖縄県薬剤師会	50,000円
沖縄県歯科医師会	50,000円
沖縄県看護協会	50,000円
合計	744,320円

**医療4団体が
74万円余寄付**
県交通遺児育成会に

県医師会の宮城信雄会長＝写真右から2人目＝と県看護協会の仲座明美会長＝同3人目、県歯科医師会の比嘉良喬会長＝同右端、県薬剤師会の亀谷浩昌会長は2日、県交通遺児育成会（理事長・富田詢一琉球新報社社長）に計74万4320円

を寄付した。同4団体からの寄付は27回目で、会員や患者らから募った。4人は「貧困問題が深刻だが、ぜひ子どもたちの幸せのために使ってほしい」と手渡した。

平成28年3月3日(木) 琉球新報

総会

第73回臨時総会開催

日時：平成28年3月27日(日) 13:00～15:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜第73回臨時総会次第＞

1. 開会の辞 (議長・副議長選出)	司会 理事 石川 恵市 副会長 江夏 京子
2. 議長・副議長登壇あいさつ (点呼、宣告)	議長 玉城 武範 副議長 西川 裕
3. 会長あいさつ	会長 亀谷 浩昌
4. 議題	
報告 第1号 平成28年度事業計画について	副会長 前濱 朋子
第2号 平成28年度歳入歳出予算について	常務理事 山里 勇
議案 第1号 平成28年度会費額に関する件	常務理事 山里 勇
第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会役員報酬等規程の変更について	常務理事 山里 勇
5. 閉会の辞	常務理事 宮城 敦子

上記の日程にて、司会の石川恵市理事により、第73回臨時総会が進行された。開会の辞が江夏京子副会長から述べられた。議長は那覇中央支部の西川裕代議員、副議長に沖縄支部の玉城武範代議員が選出され、代議員48名中過半数の37名（総会終了時には39名）の出席を確認し、総会の成立が宣言された。

亀谷浩昌会長の挨拶では、「平成28年度調剤報酬改定の内容は厳しい結果となった。今後も国民医療費の増大に伴い、さらに厳しい状況となっていくことが予想される。反面、医療費抑制に薬剤師の職能が期待されている。薬剤の効率的な使用やセルフメディケーションを推進することで、薬局・薬剤師の存在価値を示せるのではないだろうか。我々は、国民から指示されるように職能を持続的に向上させ、国民の健康維持には薬剤師が絶対に必要であることを示していきたい。会員の皆様と薬局のあるべき姿を目指して取り組んでいきたい。」と述べられた。

会長挨拶の後、議題に入った。

報告第1号「平成28年度事業計画について」は、前濱朋子副会長から事業計画が滞りなく述べられた。代議員から、地域保健開局委員会の事業計画に「患者のための薬局ビジョン推進事業」が明記されているが医薬分業対策委員会は関わらないのか、との質問に江夏京子副会長が、平成28年度調剤報酬改定において重要事項であるため、地域保健開局委員会と医薬分業対策委員会で連携して取り組んでいく、と回答された。

報告第2号「平成28年度歳入歳出予算について」、議案第1号「平成28年度会費額に関する件」、議案第2号「一般社団法人沖縄県薬剤師会役員報酬等規程の変更について」は、山里勇常務理事から説明がなされた。

報告第2号では、一般会計の平成27年度決算見込額と平成28年予算額の比較で経常収益がほぼ同額であることに対して事業費が1千万円程増額されているのはなぜかとの質問があり、山里勇常務理事が健康サポート薬局制度に対応する研修会等開催の経費や沖縄

[次頁へ続く→]

県薬剤師会創立90周年記念事業も予定されている。また平成27年度は、専務理事不在等もあったことから経費が少なくなっている。無駄のないように監査しながら支出していきたい、と回答された。

議案第1号では、一般社団法人に移行する際に会費規程が制定されていることで、会費額に変更等なければ議案とする必要はないとのご意見をいただいた。

報告第2号、議案第1号については、前記以外に特に質問も無く、賛成多数で承認された。

議案第2号について、現行では、理事の報酬額は基本額2万円、理事別係数で会長7.5となり月額15万円の支給となっている。現在の会長は常勤であることから理事別係数を15とし月額30万円の支給としたいとの説明がなされた。これに対し、常勤とは月曜日から金曜日の午前9時から午後6時までの勤務と考えてよいか。また参考として九州各県の状況をお

聞かせ願いたいとの質問があった。山里勇常任理事より、常勤の定義はそのとおりである。九州各県の会長への報酬についてはばらつきがある。支給額が高い県で月額30万円を支給している。低い県では1万円程の県もある。但し、ほとんどの会長が薬局を営んでいる状況である、と回答され、続いて亀谷会長より、今後、薬局開設者でない方が会長職を担う場合、またはそういう方を推薦したい場合に、はたしてこの低い報酬で引き受けて頂けるのか不安である。また会長職は片手間のできる職務ではないと考える。それらのことをご理解いただきご審議願いたい、と述べられた。

議案第2号は、賛成方への挙手を求め、賛成多数で承認された。

議長と副議長が降壇し、閉会の辞が宮城敦子常務理事から述べられ、予定より早い時間で閉会となった。



会長あいさつ
亀谷 浩昌会長



議長：西川 裕 代議員(左) 副議長：玉城 武範 代議員(右)



司会
石川 恵市 理事



閉会の辞
江夏 京子 副会長



報告第1号
前濱 朋子 副会長



報告第2号
議案第1号・議案第2号
山里 勇 常務理事



閉会の辞
宮城 敦子 常務理事

[第73回臨時總會出席者]

敬称略

<理事・監事>

- | | |
|---------------|----------------|
| ○亀谷浩昌(会長) | ○姫野耕一(那覇地区代表) |
| ○江夏京子(副会長) | ○新垣秀幸(南部地区代表) |
| ○前濱朋子(副会長) | ○下地仁(宮古地区代表) |
| ○山里勇(常務理事) | ○幸地良信(八重山地区代表) |
| ○村田美智子(常務理事) | ○吉富弓江(医療安全担当) |
| ○我喜屋美香(常務理事) | ○石川恵市(青年部会) |
| ○宮城敦子(常務理事) | ○笠原大吾(保健福祉担当) |
| ○成川賢一(北部地区代表) | ○大城桂子(監事) |
| ○佐藤雅美(中部地区代表) | |

<代議員>

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| ○玉城純(名護支部) | ○池間正(浦添支部) | ○塚本隆之(小禄支部) |
| ○屋嘉比康作(名護支部) | ○大城博次(浦添支部) | ○具志堅興信(小禄支部) |
| ○川平浩子(うるま支部) | ○大塚成一郎(首里支部) | ○上原陽子(南風原支部) |
| ○福地健治(うるま支部) | ○金城清二(首里支部) | ○川上雄一朗(南風原支部) |
| ○村田成夫(嘉手納支部) | ○村上市子(首里支部) | ○川上善久(南風原支部) |
| ◎玉城武範(沖縄支部) | ○狩俣イソ(那覇北支部) | ○伊敷松太郎(糸満支部) |
| ○鈴木直志(沖縄支部) | ○与儀和子(那覇北支部) | ○高良武和(糸満支部) |
| ○上原卓朗(沖縄支部) | ○鈴木一徳(那覇中央支部) | ○松本圭五(糸満支部) |
| ○長濱照美(沖縄支部) | ○渡慶次全康(那覇中央支部) | ○名嘉紀勝(糸満支部) |
| ○新垣慶朗(宜野湾支部) | ☆西川裕(那覇中央支部) | ○古謝真己(平良支部) |
| ○仲座方利(宜野湾支部) | ○上原幸代(那覇東支部) | ○山城専(石垣支部) |
| ○武富弘記(浦添支部) | ○仲村喜久子(那覇東支部) | |
| ○日高久美子(浦添支部) | ○比嘉真三(那覇東支部) | |

☆：議長、◎副議長



代議員席側

第73回臨時総会資料

＜報告第1号 平成28年度事業計画の件＞

平成28年度 沖縄県薬剤師会事業計画

～はじめに～

昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2015」では、薬剤師による効果的な投薬・残薬管理や医師との連携によるかかりつけ薬局の推進と、診療報酬における調剤業務の妥当性と保険薬局の貢献度による評価や適正化の方向性が明確にされた。

かかりつけ薬剤師が常駐する「健康サポート薬局」のあり方が厚生労働省の検討会より公表され、併せて患者本位のかかりつけ薬局に編成するための「患者のための薬局ビジョン」が厚生労働省より公表された。薬局ビジョンでは「門前からかかりつけ、そして地域へ」と目指すべき医薬分業の方向性が明確化されている。ビジョンの実現に向け、かかりつけ薬局強化のためのモデル事業に関する予算を厚生労働省が要求していることから、薬局・薬剤師への期待が読み取れる。

また2016年度の診療報酬改定では、診療報酬本体は0.49%プラス改定ではあるが、薬価、材料価格を合わせるとネット（全体）でマイナス改定と考えられる。また、調剤0.17%のプラス改定ではあるが、大型駅前薬局の調剤報酬適正化を加味すると、事実上のマイナス改定となるなど厳しい状況である。

医薬分業については、患者・住民が医薬品、薬物療法に関して安心して相談でき、最適な薬物療法を受けられるような医薬分業を目指していくことが明確化された。

これらの課題に対応するとともに、組織強化を図り、地域住民・地域社会の健康の維持・増進に寄与することを目的に、以下の事業を行う。

1. 医薬分業の推進とかかりつけ薬局の普及啓発

医薬分業の原点に立ち返る目的で、昨年10月に、現在の薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するため「患者のための薬局ビジョン」が策定された。患者本位の医薬分業の実現に向けて、服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導そして24時間対応・在宅対応、医療機関等との連携など、かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿を明らかにすると共に、中長期的視野に立ってかかりつけ薬局への再編の道筋が示された。

「健康サポート薬局」はかかりつけ薬剤師・薬局として機能することに加えて、医薬品等の安全・適正使用に関する助言と健康の維持・増進に関する相談を受けつけ、かかりつけ医等の専門職種や関係機関と連携して地域住民の健康サポートを実施する一方で、地域への情報発信等に取り組むことも求められている。

以上を踏まえ、かかりつけ薬剤師・薬局の推進を図り、患者・住民から真に評価される医薬分業の実現に向け、以下の事業を行なう。

(1) かかりつけ薬局・薬剤師の普及

患者本位の医薬分業の実現に向け「門前からかかりつけ薬局、そして地域へ」と薬局ビジョンが明確化され、かかりつけ薬剤師に対する評価もされることから、薬と健康の週間事業等を始め、あらゆる機会を通し、かかりつけ薬局・薬剤師について県民への周知、啓発をしていく。薬局薬剤師による処方薬の一元的な薬歴管理（お薬手帳）の他、後発医薬品の適正使用の推進、

健康相談や一般用医薬品の販売を通じたセルフメディケーションの支援等を行なう。

自殺対策のゲートキーパーとして、業務の中でリスクの高い患者を早期に見つけだし、適切な医療に結びつける役割も担っていく。

また「禁煙支援薬剤師」ならびに「禁煙サポート薬局」の認定をとおして、薬局における禁煙支援の取り組みをしていく。

(2) 在宅医療支援薬局の普及

在宅医療を担う薬剤師の養成・支援を目的として、在宅医療支援薬局の啓発活動、アンケートによる在宅医療の実態調査、在宅医療推進のための講演会、無菌調製の実践講座、無菌調剤共同利用施設（会営薬局うえはら）の利用推進を図る。これらの活動を行ない、薬剤師の職能と薬局機能の拡充、新しい在宅医療支援制度を構築することで地域医療に貢献できると考える。

(3) 夜間・休日等の対応

今後の薬局ビジョンを踏まえ、24時間対応の薬局が求められていることから、地区薬剤師会とも連携をとり、夜間・休日等における医薬品等の供給を行なう体制整備を推進し、医療提供施設としての役割を担っていく。

(4) 薬薬連携の推進

患者本位の医薬分業を推進していくためには、薬局・病院等の薬剤師が患者の医療情報を共有して充実した医療に結びつける薬薬連携は必須である。

超高齢社会における在宅医療への参画は重要で、入退院時の薬薬連携により、安全で良質な切れ目のない薬物治療を継続していかなければならない。

今年度も医薬分業対策会議、医薬分業担当者会議を開催し充実させていく。

2. 医療安全対策への取り組み（～根付かせよう安全文化～）

医療の担い手である薬剤師の職能拡大と同時に、その責任も重くなっている。加えて、国民の権利意識の高まりに伴い、薬剤師に関する医療過誤訴訟の増加が予想される。昨今の現状を見るにつけ、開局・病診薬局において、資質向上や内部チェック体制整備などの医療安全体制の構築に努めていく必要がある。

下記を確認、順守し、取り組んでいく。

- (1) 薬局における医療安全管理指針、業務手順書の定期的な見直し（薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令「体制省令」による）
- (2) 薬局における安全管理のための職員研修の支援（研修を実施した場合は、開催要綱を3年間保存する）
- (3) 薬局管理者へのヒヤリ・ハット報告の徹底
- (4) 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の登録・報告の促進
- (5) その他

3. 生涯学習

生涯学習については各種認定制度があり、何れの制度においても積極的に取得することが望ましい。また各種研修会、講演会などの学習機会は豊富にあるが、その学習成果を日本薬剤師会認

定薬剤師制度などの認定の取得、あるいは学術大会で発表するなど、業績として残していくよう推進していく。

本会においては、論文作成や学会発表の支援、研修会等を企画するなど、生涯学習を推進するための支援体制の充実を図る。

以下の事項を推進する。

- (1) 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」の登録及び利用促進
- (2) 日本薬剤師研修センター認定薬剤師の認定薬剤師取得の支援
- (3) 沖縄県薬剤師会学術大会の開催
- (4) 九州山口薬学大会、日本薬剤師会学術大会への参加・発表促進
- (5) 地域薬剤師会生涯研修の計画及び実施の支援
- (6) 病院薬剤師会との共催による学術講演会の開催
- (7) 他団体の実施する研修会・講演会への積極的参加の促進
- (8) 新任・新人薬剤師研修会及び調剤実務研修の実施
- (9) 認定実務実習指導薬剤師の育成
- (10) 実務実習及び研修受入体制の整備と強化
- (11) 健康とお薬に関する県民公開講座の開催
- (12) 会員から望まれている新しい生涯学習の企画、開催

4. 関連事業

- (1) 月例「健康とおくすり相談会」
- (2) 「薬と健康の週間」事業（10月17日～10月23日）
- (3) 各種関連協議会への参加協力
- (4) 関連機関団体との協議及び懇談
- (5) 関係行政当局との定期的連絡協議
- (6) 賠償責任保険への加入促進
- (7) 県薬会報の発行
- (8) 薬剤師求人求職斡旋事業、薬剤師確保対策事業
- (9) 財政基盤の強化
- (10) 麻薬覚せい剤及び薬物乱用防止対策行事への参加協力
- (11) 公的介護保険制度への積極的参加
- (12) 「健康おきなわ21」の企画実践

5. 委員会・部会

(1) 学術研修委員会

- ① 沖縄県薬剤師会学術大会の開催
- ② 新任・新人薬剤師研修会の開催
- ③ 九州山口薬学大会、日本薬剤師会学術大会への参加・派遣・発表促進
- ④ 「JPALS」の登録及び利用促進
- ⑤ 薬剤師生涯学習の支援
- ⑥ 生涯教育担当者連絡会議等への参加
- ⑦ その他研修会・講演会の共催及び支援

(2) 医薬分業対策委員会

- ① 医薬分業対策会議の開催（薬薬連携及び医療従事者間の連携事業推進）
- ② 委員会主催研修会、講演会の開催
- ③ 不動産庫・備蓄ネットワークシステムの推進
- ④ お薬手帳・電子お薬手帳の啓発活動
- ⑤ DEM事業に関すること
- ⑥ 高度管理医療機器継続研修会の開催
- ⑦ FAXコーナー担当者会議の開催
- ⑧ その他

(3) 医療保険委員会

平成28年は調剤報酬改定が行われる。そのため、調剤報酬改定等説明会を九州厚生局集団指導と合同で3月に開催する。また3年に一度実施される共同指導が平成29年に行われることが予想される。共同指導は個別指導と違い厳しい指導になるので、不測の事態に備えての研修会を本年度開催する。それと個別指導での指摘事項についての研修会も併せて行う。さらに日々の調剤業務を行う上での保険調剤Q&Aを会報に掲載する。

以下、次年度も次の事項について行う。

- ① 共同指導における指摘事項についての研修会
- ② 適正な調剤報酬請求業務及び個別指導の研修会
- ③ 「管理薬剤師業務講習会」の開催
- ④ 会報への「調剤報酬請求業務Q&A」の掲載
- ⑤ その他

(4) 医療安全対策委員会

- ① 調剤業務・医薬品販売業務に関する過誤対策及び支援（継続）
- ② 薬局・薬店における「ヒヤリ・ハット」事例の収集と解析の推進
- ③ 医療安全講習会の開催
- ④ その他

(5) 在宅医療委員会

- ① 在宅医療支援薬局の啓発活動
- ② アンケートによる在宅医療の実態調査
- ③ 在宅医療推進のための講演会の開催
- ④ 無菌調製の実践講座の開催
- ⑤ 無菌調剤共同利用施設（会営薬局うえはら）の利用推進
- ⑥ その他

(6) 地域保健開局委員会

- ① 一般用医薬品販売に関する事業
 - 一般用医薬品の適正使用と安全対策のためのスキルアップ研修会の開催（生理学、症候学、トリアージ、人体の構造と薬の特性、症状からみた医薬品の適用とその作用等）
 - 第一類OTC薬の取り扱い方法ならびにOTC薬等販売の推進

- 改正薬事法施行後の医薬品販売制度の啓蒙（継続）
- 劇物・毒物及び規制医薬品等の取り扱いに関する研修会の開催（行政・警察との連携）
- 薬機法・医療法等の変更による会員支援の対応（研修会開催等）
- 他機関（行政、製薬会社等）との連携
- 療養介護に使用する器具の紹介および使用方法についての啓発（他委員会等と協働）
- ② 患者のための薬局ビジョン推進事業
 - 「かかりつけ薬局・薬剤師」「健康サポート薬局」に係る研修の開催
 - 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）における薬剤師認知症対応力向上研修の開催
 - 薬剤師によるフィジカルアセスメントの支援ならびに研修会の開催
 - 検体測定室の届出、運用のための支援ならびに講習会の開催
 - 基準薬局制度の周知ならびに促進に関する内容
 - 残薬調整のための“おくすり整理お役立ちバッグ”活用に関する内容
- ③ 禁煙支援事業
 - 県薬剤師会認定禁煙支援薬剤師ならびに禁煙サポート薬局対象のフォローアップ研修会の開催
 - 禁煙サポート薬局（平成27年1月現在17薬局）の認定拡大
 - 行政とのタイアップ事業：県の長寿復活県民健康づくり事業ならびに“健康情報拠点推進事業”における「禁煙補助薬を使った薬局での禁煙支援の拡充
 - 学校薬剤師部会と連携した、学校における未成年の禁煙支援の強化
- ④ 健康とおくすり相談会事業等薬剤師の予防医療に関わる事業
 - 健康チェック（動脈硬化度、体成分分析等）、生活習慣指導ならびにおくすり相談の支援
 - なごみ会（沖縄県医療保健連合）主催第6回県民健康フェア企画準備（平成28年8月21日（日）に開催予定）
 - “薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業”の推進（平成27年度は、“検体検査室事業”について実施した）
- ⑤ 地域保健に関する事業
 - 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の一環としての地域ケア会議開催時の専門職種としての参加に関する派遣ならびに人材育成講習会の開催
- ⑥ 自殺対策に関する事業
 - 行政が行う自殺予防対策事業への協力
 - 会員を対象とした自殺予防につながる研修会の開催（ゲートキーパースキルアップ研修会など）
 - 気づき、つなぐための体勢づくり（自殺予防対策に関する情報提供書の利用の推進）
 - 学校薬剤師会と連携し、くすり教育に協力して命の大切さを伝える活動を展開
- ⑦ 救命活動に関する事業
 - BLS（一次救命救急）訓練、講習会の開催
- ⑧ 薬と健康の週間に関する事業
 - 企画立案に関する内容
- ⑨ 県薬の他委員会・部会等との連携における事業推進
 - 講習会等の開催（内容に合わせて、学校薬剤師部会、女子薬剤師部会、青年部会等との共催）
- ⑩ その他

(7) 広報委員会

- ① おきなわ薬剤師会報の年6回隔月発行・会報掲載用取材
- ② 薬剤師職能のPR（県民への啓蒙・薬学生との懇談）
- ③ 広報に関すること（本会主催行事の司会役等）
- ④ 「熟年の集い」企画・開催
- ⑤ マスコミへのタイムリーな情報提供
- ⑥ くすりと健康フェア（薬と健康の週間）PR活動
- ⑦ その他

(8) 薬学生実務実習受入委員会

薬学生実務実習は7年目を迎える。今年度の受け入れは、最多だった一昨年に匹敵する35名である。生まれ育った地元で実習をおこない、その地域の医療を知ってもらうためにも、地域の協力体制がますます重要になる年である。

また、認定実務実習指導薬剤師の更新講習会が昨年からスタートした。ワークショップの内容も今年度より平成31年度から始まる新コアカリキュラム対応のものに切り替えられる予定である。さらにその実習に向けてのトライアルも始まり、さらに施設の受け入れ体制の充実を図らなければならない。

よって、以下の事業項目を行う。

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成事業
 - 認定実務実習指導薬剤師養成のため九州山口地区ワークショップへ参加派遣
 - 認定実務実習指導薬剤師養成のための講座開催（本島・石垣地区予定）
 - 更新講習会の開催
 - 指導薬剤師のスキルアップ研修会の開催　ーコアカリキュラムとガイドラインの周知
- ② 薬学生受け入れ事業
 - 実務実習指導薬剤師の適正配置と実習生のマッチング
 - 実務実習受入薬局の開始前研修会開催（薬学生実務実習受入施設指導薬剤師対象）
 - 実習サポート体制の充実（実務実習オリエンテーションの開催、実習協力施設の案内、企画策定、トラブル対応、相談応需等）
- ③ 地区薬剤師会との連携
 - 地区を中心としたサポート体制づくりのため地区との連携を強化（当委員会委員の各地区での実務実習を取り巻く環境等の情報提供・受け入れ協力体制の整備等々）
- ④ 薬剤師会・他部会及び委員会、他協力施設との連携
 - 地域保健委員会・学校薬剤師部会・在宅委員会・地区委員会
 - 実習協力施設（在宅、学校薬剤師・薬局製剤・薬事情報センター、一般用医薬品・医薬品卸・等）との連携強化
- ⑤ その他

(9) 災害対策委員会

- ① 県の防災計画・訓練等への積極的な参画
- ② 災害時の沖縄県薬剤師会BCP（事業継続計画）の作成・訓練
- ③ 災害時の救援活動等への医薬品・支援用品の準備
- ④ 災害拠点薬局・事前登録支援薬剤師の募集・訓練

- ⑤ 新型インフルエンザへの対応
- ⑥ その他

(10) 財務委員会

- ① 一般会計、収益事業部の予算決算に関すること
- ② 本会職員の賃金、退職金に関すること
- ③ 会費徴収に関すること
- ④ 公益法人移行への検討について
- ⑤ 収益事業部の運営・経済面での監督、指導
- ⑥ その他

(11) 学校薬剤師部会

- ① 学校薬剤師としての資質の向上：講習会・研修会の実施（くすり教育に関する研修）/県内外研修会派遣と伝達講習会の実施/県薬学術大会・学校保健研究大会での発表/図書等の購入・斡旋/公認スポーツファーマシスト認定取得の推進
- ② 学校保健に関する調査、研究：「全国学校保健調査」の実施ならびにデータ解析
- ③ 学校環境衛生検査：未実施項目の実施への働きかけ（特に、日常点検の実施）
- ④ 学校薬剤師部会組織の強化：支部活動の活性化/学校薬剤師未配置校（公立学校では3校）を無くす/県薬試験検査センターへの検査委託の推進/部会員名簿の作成と学薬実施希望者のウェイティングリストの作成
- ⑤ 関係団体（県・市町村教育委員会/県・地区学校保健会/沖縄県医師会/沖縄県歯科医師会/沖縄県薬物乱用防止協会等）との協力と連携の推進（講習会へ講師派遣等）
- ⑥ 学習指導要領に基づいた“くすり教育”の充実（ゲストティーチャーとしての授業への参加の推進）/薬物乱用防止教室の開催を通じた未成年の喫煙・飲酒防止ならびに薬物乱用防止活動の推進/授業用資料の充実（カプセル・軟膏模型等）
- ⑦ 県薬、各種委員会・部会との連携：薬学部実務実習生の受け入れと集合研修の実施/新人薬剤師研修会への講師派遣/地域保健開局委員会への協力“健康とおくすり相談会”への参加
- ⑧ 幼保連携こども園への薬剤師の配置/関係機関への学校薬剤師活動の周知
- ⑨ 県薬ホームページ“学薬の頁”の充実と県薬会報“学薬だより”への投稿
- ⑩ 沖縄県学校薬剤師会40周年記念誌作成

(12) 病院診療所薬剤師部会

- ① 組織と役員会の強化拡大
- ② 学術・教育研修活動の推進
- ③ 認定・専門薬剤師育成
- ④ 薬薬連携の強化・拡大
- ⑤ 学会・学術大会に対する協力
- ⑥ 病薬会誌発行とホームページの活用と充実
- ⑦ 実務実習の充実と新規事業への取り組み
- ⑧ その他

(13) 女性薬剤師部会

- ① 一般社団法人日本女性薬剤師会研修講座
「平成28年度薬剤師継続学習通信教育講座」の斡旋とスクーリングの実施
- ② 漢方講座の定期的継続開催（年4回）
- ③ 沖縄の薬草への知識を深める活動
○県薬会報誌連載「暮らしの中の薬草学」
○ミニ薬草園の充実
- ④ 地域貢献活動として、行政主催の「乳幼児健診」参加に向けて取り組む「妊娠・授乳と薬」についての定期的勉強会の開催と情報収集をする。沖縄県病院薬剤師会「妊娠・授乳婦と薬」分科会との連携活動
- ⑤ なごみ会主催「健康とおくすり相談会」への参加
- ⑥ 「沖縄県女性の翼の会」活動に参加し、沖縄県の他女性団体との連携を図る
- ⑦ その他

(14) 青年薬剤師部会

- ① 青年部組織強化（各地区での情報交換会）
- ② 研修会・勉強会・交流会の開催
- ③ 他県薬青年部との交流（九州各県との交流）
- ④ なごみ会主催県民健康フェアへの参画
- ⑤ 薬剤師職能に関する啓発活動（グッジョブ事業など）
- ⑥ 薬学生とU・Iターンに関する相談（薬剤師無料職業紹介所との協働）
- ⑦ その他（施設見学など）

(15) 卸勤務薬剤師部会

- ① 学術大会、研修会、フォーラム等への派遣
日本薬剤師会、日本医薬品卸勤務薬剤師会主催の学会、研修会、フォーラムへの派遣、九州山口薬学大会、沖縄県薬剤師会学術大会への派遣、参加
- ② 薬学生実務実習生の受け入れ対応
卸の業務説明や事業現場の見学等、実務実習支援には積極的に協力する
- ③ 継続研修の充実
平成28年度の継続研修テーマに則った研修の実施
- ④ その他（おきなわ薬剤師会報への投稿）

(16) 行政薬剤師部会

- ① 組織の強化拡大
- ② 全国又は地方学会等への参加
- ③ その他

平成28年度 薬事情報センター事業計画

1. 薬剤師会関連機関及び医師会等他機関との機能連携業務
 - (1) 全都道府県薬事情報センターの協同事業：DI図書館、情報バンク、「文献データベース Bunsaku」等の事業の運用に協力（担当雑誌：新薬と臨床、総合診療、臨床薬理、おきなわ県薬会報、産科と婦人科）
 - (2) 沖縄県医師会医療事故調査委員会としての活動
2. 医薬品情報の管理業務
 - (1) 医薬関連書籍の整備・管理
 - (2) 医薬品情報データベース等の充実等
 - (3) 文献DB、適応外使用情報、質疑応答、ドーピング使用可能薬リスト等
 - (4) 関係各機関からの医薬品情報の収集・整理・評価・文書管理
3. 会員への情報提供業務
 - (1) 電話による質疑応答業務
 - (2) 会報（薬事情報おきなわ）の発行
 - (3) 医療事故インシデント・アクシデント事例収集
 - (4) 緊急安全性情報等
4. 一般への情報提供業務
 - (1) 一般県民に対するお薬相談業務「おくすり相談室」
 - (2) ホームページ及び会報
5. ドーピング防止活動
 - (1) 薬剤師会ドーピング防止ホットライン業務
 - (2) 沖縄県体育協会スポーツ医・科学委員会への協力
6. 地域公衆衛生活動の推進
 - (1) 禁煙指導活動の支援
 - (2) 薬物乱用防止活動の支援
7. その他
 - (1) 薬学生・実務実習受け入れ
 - (2) 会営薬局への支援

平成28年度 試験検査センター事業計画

1. 平成28年度計画的試験
 - (1) 委員会で選定された計画的試験の品目についての試験及び成績書発送
 - (2) 期間は、平成28年12月から平成29年3月頃まで
2. 学校関係の水質及び空気検査委託業務
「学校環境衛生の基準」に則った環境検査
 - (1) 飲料水及びプール水の水質検査
 - (2) 教室等の空気環境検査「ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物」
 - (3) 教室等の空気環境検査「ダニ又はダニアレルゲン」
 - (4) 期間は、平成28年5月から平成29年2月頃まで
3. 試験検査センター委員会の開催
 - (1) 試験検査センターの運営、機器購入、計画的試験品目の選定など
4. 会員並びに調剤薬局等から医薬品等の分析依頼に対応する
5. 試験検査センター業務に関連する医薬品医療機器等法（旧 薬事法）上の事項に関する問い合わせへの対応
 - (1) 薬局等の開設手続きに関し、薬局等構造設備規則に係わる器具等の相談に与る
6. 学校薬剤師業務に対する支援

第73回臨時總會資料

＜報告第2号 平成28年度歳入歳出予算について＞

平成28年度 収支予算

(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
	小 計	小 計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
【 経 常 収 益 】				
基本財産運用益	1,000	0	0	1,000
基本財産受取利息	1,000	0	0	1,000
特定資産運用益	3,000	9,300	7,700	20,000
特定資産受取利息	3,000	9,300	7,700	20,000
受取入金会金	0	0	600,000	600,000
受取入金会	0	0	600,000	600,000
受取会費	0	6,000,000	92,600,000	98,600,000
正会員受取会費	0	0	49,500,000	49,500,000
賛助会員受会費	0	0	1,000,000	1,000,000
賛助会員受会費(応能会費)	0	6,000,000	42,000,000	48,000,000
特別会員会費	0	0	100,000	100,000
事業収益	81,350,356	1,677,187,000	0	1,758,537,356
出版物事業収益	2,175,000	3,325,000	0	5,500,000
広告料事業収益	500,000	0	0	500,000
その他事業収益	4,654,000	1,120,000	0	5,774,000
調剤報酬収入	31,363,000	1,477,563,000	0	1,508,926,000
一部負担金収入	8,846,000	182,819,000	0	191,665,000
小分治療剤収入	14,540,000	0	0	14,540,000
保険除外	780,000	8,100,000	0	8,880,000
受取手数料	150,000	4,260,000	0	4,410,000
保険等調整増減	0	0	0	0
新規契約賦課金	100,000	0	0	100,000
利用契約金	2,900,000	0	0	2,900,000
医薬品検査手数料	50,000	0	0	50,000
水質検査手数料	11,379,052	0	0	11,379,052
空気検査手数料	3,913,304	0	0	3,913,304
保険受託収入	0	0	0	0
受取補助金	4,279,181	0	0	4,279,181
受取地方公共団体補助金	2,700,000	0	0	2,700,000
受取補助金等振替額	1,579,181	0	0	1,579,181
受取寄付金	0	0	338,720	338,720
受取寄付金	0	0	1,000	1,000
募金収入	0	0	0	0
寄付金等振替額	0	0	337,720	337,720
雑収入	152,000	240,300	2,574,000	2,966,300
受取利息	2,000	20,300	14,000	36,300
受取賃借料	0	0	0	0
雑収益	30,000	170,000	30,000	230,000
事務受託収益	120,000	50,000	2,530,000	2,700,000
経常収益計	85,785,537	1,683,436,600	96,120,420	1,865,342,557

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
	小 計	小 計		
【 経 常 費 用 】				0
事 業 費	165,610,887	1,646,800,624	0	1,812,411,511
期 首 棚 卸 高	3,500,000	72,655,076	0	76,155,076
仕 入 高	24,443,000	1,433,250,000	0	1,457,693,000
期 末 棚 卸 高	△ 3,500,000	△ 72,655,076	0	△ 76,155,076
役 員 報 酬	2,881,000	765,000	0	3,646,000
給 与 報 手 当	44,015,125	78,252,875	0	122,268,000
雑 給 与	14,942,800	33,307,200	0	48,250,000
賞 与	2,564,800	18,300,000	0	20,864,800
退 職 給 付 費 用	1,663,900	2,131,000	0	3,794,900
法 定 福 利 費	6,004,000	18,500,000	0	24,504,000
福 利 厚 生 費	300,000	1,015,000	0	1,315,000
会 議 費	3,486,000	844,000	0	4,330,000
旅 費 交 通 費	12,630,000	5,460,000	0	18,090,000
通 信 運 搬 費	2,763,226	2,478,774	0	5,242,000
減 価 償 却 費	12,544,658	2,686,342	0	15,231,000
消 耗 品 費	4,110,000	4,850,000	0	8,960,000
修 繕 費	400,000	460,000	0	860,000
研 修 費	50,000	200,000	0	250,000
出 版 物 印 刷 費	4,440,000	3,160,000	0	7,600,000
会 報 発 行 費	0	0	0	0
地 代 家 賃	1,080,000	20,630,000	0	21,710,000
光 熱 水 料 費	2,083,200	4,032,600	0	6,115,800
賃 借 料 費	1,170,000	1,742,000	0	2,912,000
広 報 費	3,065,000	△ 400,000	0	2,665,000
保 険 料	405,443	662,676	0	1,068,119
諸 謝 金	750,000	50,000	0	800,000
租 税 公 課	3,336,000	628,000	0	3,964,000
支 払 負 担 金	1,400,000	0	0	1,400,000
支 払 補 助 金	4,800,000	1,200,000	0	6,000,000
支 払 寄 附 金	155,000	0	0	155,000
委 託 費	0	0	0	0
外 注 費	2,300,000	0	0	2,300,000
支 払 手 数 料	1,882,000	7,283,000	0	9,165,000
交 際 費	120,000	95,000	0	215,000
管 理 諸 費	0	0	0	0
管 理 維 持 費	2,896,400	3,562,400	0	6,458,800
新 聞 函 書 費	820,000	305,000	0	1,125,000
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	0	0	0	0
雑 費	0	0	0	0
支 払 利 息	1,929,335	249,757	0	2,179,092
商 品 廃 棄 損 失	180,000	1,100,000	0	1,280,000
雑 損 失	0	0	0	0
法 人 会 計 (管 理 費)	0	0	36,783,000	36,783,000
役 員 報 酬			2,268,000	2,268,000
給 与 報 手 当			6,720,000	6,720,000
雑 給 与			0	0
賞 与			0	0
退 職 給 付 費			250,000	250,000
法 定 福 利 費			840,000	840,000
福 利 厚 生 費			75,000	75,000

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
	小 計	小 計		
表 彰 費			0	0
会 議 費			1,000,000	1,000,000
旅 交 通 費			3,500,000	3,500,000
通 信 運 搬 費			700,000	700,000
減 価 償 却 費			1,200,000	1,200,000
消 耗 品 費			400,000	400,000
修 繕 費			200,000	200,000
出 版 物 印 刷 費			0	0
会 報 発 行 費			0	0
地 代 家 賃 費			0	0
光 熱 水 料 費			220,000	220,000
賃 借 料 費			360,000	360,000
広 報 料 費			0	0
保 険 料			150,000	150,000
諸 謝 金			200,000	200,000
租 税 公 課 金			600,000	600,000
支 払 負 担 金			14,500,000	14,500,000
支 払 補 助 金			0	0
支 払 手 数 料			1,100,000	1,100,000
交 際 費			900,000	900,000
管 理 維 持 費			1,300,000	1,300,000
雑 費			0	0
支 払 利 息			300,000	300,000
経 常 費 用 計	165,610,887	1,646,800,624	36,783,000	1,849,194,511
評 価 損 益 等 調 整 前 額	△ 79,825,350	36,635,976	59,337,420	16,148,046
当 期 経 常 増 減 額	△ 79,825,350	36,635,976	59,337,420	16,148,046
2. 経常外増減の部	0	0		0
(1) 経常外収益	0	0		0
経常外収益計	0	0		0
(2) 経常外費用	0	0		0
固 定 資 産 除 却 損	0	0	0	0
什 器 備 品 除 却 損	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	0
他 会 計 振 替 額	0	△ 5,203,123	5,203,123	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 79,825,350	31,432,854	64,540,543	16,148,047
法 人 税 等	38,000	7,872,000	0	7,910,000
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 79,863,350	23,560,854	64,540,543	8,238,047
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	△ 42,969,323	301,356,469	414,224,104	672,611,250
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	△ 122,832,673	324,917,323	483,967,770	686,052,420
Ⅱ 指定正味財産増減の部	0	0		0
受 取 補 助 金 等	0	0	0	0
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	0	0	0	0
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 2,479,181	0	△ 337,720	△ 2,816,901
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 2,479,181	0	△ 337,720	△ 2,816,901
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	△ 2,479,181	0	△ 337,720	△ 2,816,901
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	684,983	3,669,426	25,866,909	30,221,318
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	△ 1,794,198	3,669,426	25,529,189	27,404,417
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 124,626,871	328,586,749	509,496,959	713,456,837

第73回臨時総会資料

＜議案第1号 平成28年度会費額に関する件＞

平成28年度会費額は、次の基準により徴収する。

1. 正会員

- (1) ＜入会金＞ 10,000円
- (2) ＜会 費＞ 正会員A 年額 54,000円（県薬会費36,000円＋日薬会費18,000円）
正会員B 年額 39,400円（県薬会費32,400円＋日薬会費 7,000円）

※新規入会者に対して、上記会費内訳に示す日薬会費は、次のとおりとする。

正会員A →（9月までに入会 18,000円）（10月以降に入会 9,000円）

正会員B →（ " 7,000円）（ " 3,500円）

(3) ＜納付方法および早期納入割引＞

- ※ 会費納入は原則一括納入とする。
- ※ 納入方法は、口座引き落としを原則とし、やむをえない場合は振込とする。
- ※ 一括納入支払期限は平成28年7月末日とする。
- ※ 平成28年7月末日までに一括納入の場合、早期納入割引として

正会員A 3,000円、正会員B 2,700円を還付する。

参考（会員規程より）

正会員Aとは、薬局の開設者および管理薬剤師又は正会員Aであることを希望する者

正会員Bとは、正会員A以外の者

2. 賛助会員

(1) ＜会 費＞

賛助会員A 年額 15,000円

賛助会員B 処方せん受付回数1回あたり8円（上限48万円）

(2) ＜賛助会員B会費の納付＞（会費規程より）

第7条 賛助会員Bは、薬剤師職能の向上に係る事業の経費として賛助会員B会費を毎月納付しなければならない。

2 前項の賛助会員B会費の額は、1箇月の処方せん受付回数に別表3に掲げる額を乗じて得た額（100円未満の端数は切り捨て）とする。

3 前項の処方せん受付回数は、前年1月から12月までの総処方せん受付回数とし、これを12等分した額を当年度4月から翌年3月にかけて支払うこととする。但し、上限を48万円とする。

4 年度途中の入会等、過去の実績の無い賛助会員Bは、入会後の処方せん受付見込み回数により、1箇月の平均回数を算出するものとし、その方法は理事会で定める。

5 賛助会員B会費の納付は、原則として会員の銀行等の口座からの口座振替によるものとする。

参考（会員規程より）

第9条 定款第5条に定める賛助会員の種別は、次のとおりとする。なお、この中で、(1)から(4)及び(6)に該当する者を賛助会員A、(5)に該当する者を賛助会員Bとする。

- (1) 薬局経営者
 - (2) 薬剤師以外の薬品の製造業及び卸業者等の関係者
 - (3) 医薬品販売に従事する者
 - (4) 薬科学生（薬剤師以外）
 - (5) 薬局
 - (6) その他希望する個人及び団体
- 2 正会員Aが在籍する薬局は、賛助会員Bとして入会するものとする。

3. 特別会員

- (1) <会 費>
 - 特別会員A 年額 10,000円
 - 特別会員B 年額 1,000円
- (2) <納付方法>
 - ※ 会費納入は原則一括納入とする。
 - ※ 納入方法は、口座引き落としを原則とし、やむをえない場合は振込とする。
 - ※ 一括納入支払期限は平成28年7月末日とする。

参考（会員規程より）

特別会員Aとは、年齢が満80才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者
 （特別会員Aは沖縄県薬剤師会の会員資格のみを有するものとする）

特別会員Bとは、正会員、賛助会員以外の個人で、薬学を専攻する学生その他薬学及びそれに関連する知識・業務経験を有し、この法人の目的、事業に賛同するため入会を希望する者

<議案第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会役員報酬等規程の変更について>

現 行	変更後
（理事の報酬額） 第5条 理事の報酬は、基本額に理事別係数を乗じた額を月額とする。 2 基本額は、金2万円とする。 3 理事別係数は、次のとおりとする。 (1) 会長 7.5 (2) 副会長 1.5 (3) 専務理事 2.5（但し常勤の場合は職員としての給与を支給する） (4) 常務理事 0.5 (5) 上記以外の理事 0.25 4 費用については、この法人の職員の旅費規程等に準じて支給する。	（理事の報酬額） 第5条 理事の報酬は、基本額に理事別係数を乗じた額を月額とする。 2 基本額は、金2万円とする。 3 理事別係数は、次のとおりとする。 (1) 会長 7.5（但し常勤の場合は係数 <u>15.0とする</u> ） (2) 副会長 1.5 (3) 専務理事 2.5（但し常勤の場合は職員としての給与を支給する） (4) 常務理事 0.5 (5) 上記以外の理事 0.25 4 費用については、この法人の職員の旅費規程等に準じて支給する。

医療保険

平成28年度 調剤報酬改定等説明会報告

会期：平成28年3月21日(月・振替休日)

第1部 13:00～15:00 第2部 16:00～18:00

会場：浦添市てだこホール

＜プログラム＞

1. 開会の挨拶

2. 九州厚生局 沖縄事務所 所長挨拶

3. 集団指導「施設基準等について」九州厚生局 沖縄事務所 医療事務専門官

4. 「平成28年度調剤報酬改定概要」について

5. 「平成28年度調剤報酬改定等」について

6. 閉会の辞

司会：沖縄県薬剤師会 医療保険委員会 池間 記世

沖縄県薬剤師会 会長 亀谷 浩昌

西富 義朗

比嘉 敬

九州厚生局 沖縄事務所 保険指導薬剤師 仲真 良重

医療保険委員会 副委員長 吉田 洋史

沖縄県薬剤師会 常務理事 川満 直紀

今年は診療報酬改定の年で、去る3月21日、浦添市てだこホールで説明会が開催されました。今回も多くの方が予測され、2部に分けて行われましたが、北部・中部・南部の参加となる第1部には定数の1,000人を超える希望があり、1薬局4名までと制限されました。1部が約950人、2部が約750人の計1,700余人の参加がありました。また、3月30日には八重山地区で46人、3月31日には宮古地区で25人の参加がありました。

初めに、亀谷会長の挨拶があり、国民医療費の増大と医薬分業への厳しい意見もあり、延長線にかかりつけ薬局の再編についての道標が示されたということでした。

調剤報酬改定の概要について、九州厚生局保健指導薬剤師の仲真良重先生から説明があり、その後に報酬改定の詳しい説明を医療保険委員会副委員長の吉田洋史先生に話していただきました。

冒頭で、今回は医薬分業バッシングへの対応を求められた改定でもあるということで、国民・患者から信頼できる保険薬剤師・保険薬局として生まれ変わるよう、国民・患者の視点に立っての改訂になっています。そのた



医療保険委員会
照屋 林一郎

め、今回初めて薬剤師に対しての評価・点数が付きました。これは、患者さんのためにサービスやサポートを行い、患者さんに喜ばれる対応が求められていることを示しています。厚生労働省が進めているのが、かかりつけ薬剤師・薬局です。2025年までに全ての薬局をかかりつけ薬局にしていく構想なので、算定できるためには患者さんとの信頼関係を築くことが大事だと思います。今でも患者さんに親身になって対応している薬剤師の先生方は



司会
池間 記世
医療保険委員



開会の挨拶
亀谷 浩昌
会長



九州厚生局沖縄事務所
西富 義朗
所長挨拶



＜講師陣＞



九州厚生局沖縄事務所
比嘉 敬 医療事務専門官



九州厚生局沖縄事務所
仲真 良重 保険指導薬剤師



医療保険委員会
吉田 洋史 副委員長

多いと思います。患者さんの負担が少し増えても頼れる薬剤師を求める患者の声は多くなると思います。

次に、調剤基本料についてでしたが、前回よりも複雑になったと感じました。処方せんの集中率や受付回数により基本料が5段階に振り分けられ、頭を悩ますこともあると思います。減算規定もあるので、基本的業務である加算や指導料などにしっかり対応していくことが重要です。九州厚生局からの説明でもありましたが、届け出期間が短いので、薬局全体で考えて素早い対応が必要と思います。

薬剤服用歴管理指導料では、お薬手帳を継続的に持参しているかどうかで点数が変わってきます。ここでは、お薬手帳の持参について患者さんへの説明が大事になると思います。値段が安くなるとかの経済的な説明よりも、お薬手帳の有用性を納得していただけるような説明をすることが大事です。また、この点数改正に伴って、お薬手帳の持参率を落とさないようにするような努力も必要になり

ます。算定が高くなるような誘導があっては いけません。今まで通りにお薬手帳を持参するよう促していただきたいと思います。

処方箋様式の変更もあり、残薬調整の対応は重複投薬・相互作用等防止加算か服薬情報提供料として算定できます。お薬手帳をしっかりと活用して、これらを算定することで、患者さんの薬の管理や意識を高めることもできると思うので、積極的に対応してほしいと思います。在宅業務も薬剤師一人当たりの算定が取りやすくなったと思うので、積極的に介入するよう求められているように感じました。

これからは薬剤師一人一人が選ばれて評価されるようになり、かかりつけ薬剤師・薬局の方向へ進んでいきそうです。健康サポート薬局として地域の信頼を得るためには、薬剤師と他職種との協力が大事になると思います。対人業務に力を注ぎ、地域に貢献していくためにも、患者さんと充実したコミュニケーションを取って評価を得られるように頑張っていきたいと思います。

医療安全

平成27年度 医療安全講習会 報告

会期：平成28年2月14日(日) 13:00～14:45

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



医療安全対策委員会
書記 名嘉 紀勝

平成27年度医療安全講習会が開催され、123名の参加者があった。

亀谷会長より、「医薬品の適正使用は医薬分業の大きな目的の一つであり、今日の講習会の内容を持ち帰って他の薬局の職員とも情報共有していただきたい。」と挨拶をいただき、講習会が始まった。

講習1 「会営薬局医療センター前における 医療安全対策」

柴田忠佳先生より会営薬局の役割と歴史、そして会営薬局の医療安全対策について丁寧な説明があった。会営薬局は昭和50年に設置計画書を日薬で協議し、公益法人として設立し、運営責任を薬剤師会が持つとした。また設置・運営に関しては地域の医師会ならびに歯科医師会から、それぞれ賛同・協力を得る事とした。その目的には公共的立場から、教育研修及び情報提供活動を行う。地域の薬局を育てる。処方箋を応需する保険薬局であること等を厚労省から発令された通知等を引用しその根拠を示した。

その後、制度・体制の編成を続けていき、平成3年には医薬分業の中核的存在として、地域の調剤薬局のモデルとして、医薬品の備蓄、供給、医薬品情報の収集および提供、業

務研修、休日・夜間の処方箋応需、薬剤師派遣・斡旋などを行い、会営薬局として、前記の諸機能の維持と向上を図ってきた。

平成7年には次の医療安全管理指針を定めている。

1. 基本理念
2. 医薬品安全管理責任者の設置
3. 事故報告に関する体制整備
4. 手順書を作成し手順書に基づく業務の実施
日常業務ではこの指針に基づき業務手順書を作成し、その徹底に取り組んでいる。

最後に、沖縄における会営薬局は大型病院や県立病院の処方箋を中心に応需してきたが、これからは、地域の薬局の支援を行ない、「人財育成」のための研修・教育を行うことで、薬剤師並び、地域の薬剤師会活動の発展を支援していきたい。と今後の会営薬局の展望と柴田先生の熱意ある報告で終えた。



今年も多くの参加があった



講習1 講師
柴田 忠佳氏



司会を務めた
新川 祥平氏

<式次第>

○あいさつ

司会：医療安全対策委員会 新川 祥平
 沖縄県薬剤師会会長 亀谷 浩昌

講習1 『会営薬局医療センター前における医療安全対策』

会営薬局医療センター前 輪番薬剤師 柴田 忠佳

講習2 『全日本民主医療機関連合副作用モニターの取り組み医薬品・医療の評価方法』

日本薬剤師会医薬品情報評価検討委員

全日本民医連医薬品評価委員・船橋二和病院薬剤科 中村 建

座長：医療安全対策委員会委員長 平良 栄子

○質疑応答

○閉会の辞

医療安全対策委員会副委員長 高良 武志

講習2

「全日本民主医療機関連合の副作用モニターの取り組み、医薬品・医療の評価方法」

全日本民主医療機関連合（以下、民医連）の副作用モニターは外部医療機関へも情報を発信している。その活動は、厚生省より早く副作用を把握し注意喚起を行った例も過去多数ある。

過去の副作用モニターの成果として、当時まだ機序が不明であったACE阻害薬の「空咳」の報告や、アダラートLの頻尿の報告で添付文書改訂の申し入れを行ったこと等多数の実績がある。

民医連では独自の副作用モニターを1977年に発足し、その理念を「製薬企業・国任せでは患者を守れない！」とし、医薬品の副作用を防止するために40年近くの実践を続けてきた。

副作用の発生状況から、既知か未知かの分類、重篤度の分類を行い、その後、職場等のDI会議で再度検討を行う。また、民医連にオ

ンライン報告と、PMDAにも報告する、とする一連の体制ができています。そこまでの体制を構築するまでには多くの課題があったようですが、「症例から学ぶ事が大きな財産になる。」とし、症例について、薬剤師が「経過を観る、様々な角度から分析をする。」と副作用モニターを現場に活かす活動に努めてきた。その活動の中で「医師と副作用問題を共有する事ができる」と中村先生は強調する。

今後の副作用モニターの活動では保険薬局と病院（医師・薬剤師）との協力・連携は不可欠であり、私たち（薬剤師）がつかんだ医薬品情報を患者に理解しやすい表現で伝えることが、『医療の質向上・患者の自己管理の向上』になり、『患者様の安全に繋がる』とし、今後も積極的に活動を継続していくとした。

[次頁へ続く→]



講習2 講師
中村 建氏



座長を務めた
平良 栄子氏



左より、柴田忠佳氏、平良栄子氏、中村建氏
高良武志氏、新川祥平氏

医薬品の評価については、「効くか、効かないか」をどうやって考える？という問いかけに、薬剤師はまず、企業から提供される文献情報を見ると思われるが、その情報が信頼できる文献であるかどうか疑って観るべきであり、私たち薬剤師からの患者説明においてもEBMが必要になる。文献情報において、① そうなる割合の程度（全員そうなるか・10人に1人か・100に1人か…）② そうなる原因が他にないのか（別の治療を行っていないか。病気に対して積極的に対処しているのでは。等）など比較するデータが不足している場合がある。文献の評価は次の3つ①真実 ②偶然 ③バイアス（事実ではあるが、真実ではない）。逆に、信頼できない文献情報とは① 1症例のみの「症例報告」② 少数症例（比較対照なし）③ 動物実験の成績のみ。④ 他著の引用「孫引き」⑤ 臨床試験がされていないのに、現在では（最近では…）〇〇と評価されている。⑥ サブ解析の結果を強調している。が挙げられる。厳しいことを言うが「薬は人を長生きさせる目的だけで開発されるわけではない。」と認識すること。製薬会社は自社の

薬の効果を既存の薬と比較するのではなくプラセボと比較する傾向がある。製薬会社は自社製品に不利な結果は公表したくない。製薬会社の開発中の新薬には、画期的な新薬は少なく、今後も良い薬が必ずしも売れるわけではない。ということ視野に入れて情報を分析しなくてはならない。しかし、医薬品を評価することそのものが目的になってはいけない、と注意を促す。従来EBMにおける「エビデンス」、「医薬品評価」とは患者のための医療であるのだから、薬剤師もその情報を知った上で医師と対等に議論ができる必要があり、薬剤師はそうであって欲しい、と参加者へ自身の想いとエールを伝え、会場からの盛大な拍手で終了した。

今年度も盛会のうちに終了することができ、受講者には認定証を発行した。

最後に、本講習会は薬局開設者の義務である「医療の安全を確保するための従業者に対する研修」として位置づけられており、来年度も多数の参加をお待ちしている。

医薬分業

日薬eお薬手帳及び 不動在庫・備蓄ネットワークシステム説明会参加報告

日時：平成28年1月30日（土）19:30～21:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

日常業務の中で患者さんが、安全で適切な薬物治療を行うために紙媒体の「お薬手帳」を利用推進していますが、スマートフォンなどを利用したアプリケーションの「電子お薬手帳」が大阪府薬剤師会や一部の大手チェーン薬局で活用されています。ところが現在の調剤報酬ルールでは電子版に記入した場合は340円に減額されます。厚生労働省は、平成



くはら薬局
伊集 智英

26年度からは電子お薬手帳への記入でも紙の手帳と同額の報酬を認める方向であるとの情報が出されています。今後普及していくことになる「電子お薬手帳」についての説明会に参加しました。

<会次第>

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 開会あいさつ | 司会：医薬分業対策委員会委員長 池間 記世
沖縄県薬剤師会副会長・医薬分業担当理事 江夏 京子 |
| 2. 日薬eお薬手帳について | 大阪府薬剤師会理事・日本薬剤師会情報システム検討委員会副委員長 堀越 博一 |
| 3. 不動態庫・備蓄ネットワークシステムについて | 沖縄県薬剤師会理事・医薬分業対策委員会副委員長 吉田 洋史 |
| 4. 閉会あいさつ | 医薬分業対策委員会委員長 池間 記世 |

厚生労働省が定める「電子お薬手帳」の認定要件は、平成28年1月28日の中医協 総-4「個別改定項目について」285ページ～286ページの「2. 電子版お薬手帳について」<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000110788.pdf>を参照してください。

スマートフォン用のアプリは、「Google play」と「App Store」より入手できます。データは、患者さんのスマートフォンと日薬のインターネット上のサーバー（STNet）に保存されます。

チェーン薬局などが運営する「電子お薬手帳」とも「リンク付けサーバー」を介して接続がなされますので、違和感なく閲覧できるそうです。

薬局が行うこととして、

- 患者さんにデータを渡す：レセコンよりQRコードを印刷し提供。
- 患者のデータを見る：パソコン（タブレット）を使いインターネット経由でSTNetより参照（契約が必要。会員価格税別 年間1万8千円）
- 患者さんに説明する：患者説明用資材を入手し、スマホ用アプリの入手・使用方法の説明などです。

日薬よりのシステム提供開始は平成27年7月1日より始まっています。（日本薬剤師会：http://www.nichiyaku.or.jp/e_okusuritecho/index.html）

すでに同じシステムが大阪府薬剤師会にて平成25年4月から運営されており、ホームページを参照してくださいとのことです。（大阪府薬剤師会：<http://www.e-okusuritecho.jp/>）

後々、医師会が構築運営する地域医療情報連携システムとの連携を想定しているそうです。簡単に要約してみましたが、各施設の実状に合わせてご検討下さい。

併せて「不動態庫・備蓄ネットワークシステム（MEDISS）」の説明がありました。これは登録薬局へ納入されている医薬品データやデットストックデータなどが閲覧できます。沖縄県薬剤師会と株式会社リレーションズ、医薬品卸さん方のご協力のもと稼働しているシステムで無料で利用できます。利用申し込み及び提出書類が必要ですので、ご希望の御施設は沖縄県薬剤師会へご相談ください。



堀越 博一氏



吉田 洋史氏

医薬分業

平成27年度 医薬分業対策委員会主催研修会報告

日時：平成28年2月7日(日) 14:00～16:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜医薬分業対策委員会主催研修会次第＞

1. 会長あいさつ
2. 「健康サポート薬局の実現に向けて」
3. 意見交換会

テーマ＝「健康サポート薬局の実現に向けて」

「かかりつけ薬剤師・薬局の実現に向けて」

進行：医薬分業対策委員会委員長 池間 記世

4. 各グループからの報告（各グループ5分程度）及び質問

5. 閉会のあいさつ

司会：医薬分業対策委員会 川上雄一郎

沖縄県薬剤師会会長 亀谷 浩昌

医薬分業対策委員会 仲真 良重

医薬分業対策委員会 西川 裕

晴々した心地よい空気の中、今年も医薬分業対策委員会主催研修会が開催されました。午前中は那覇地区薬剤師会主催医療安全講習もあり、連続で受けられた方は大変お疲れさまでした。今回は、例年より多くの方にご参加いただき盛会な研修となりました。以下に今研修会の内容を報告します。

ご存じの通り、医薬品等の安全・適正な使用と専門職種等と連携した地域住民の健康維持・増進を支援する機能を有する健康サポート薬局のあり方が厚生労働省の検討会より昨年9月に公表され、併わせて、10月には薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するための「患者のための薬局ビジョン」が厚生労働省より公表されました。「健康サポート薬局」は、かかりつけ薬局・薬剤師として機能することに加えて、医薬品等の安全・適正使用に関する助言と健康の維持・増進に関する相談を受け付け、かかりつけ医等の専門職種や関係機関と連携して地域住民の健康サポートを実施する一方で、地域への情報発信等に取り組むことも求められています。患者本位の医薬分業を一層普及させていくとともに、地域住民の健康をサポートしていくことは、超高



医薬分業対策委員会
書記 川上 雄一郎

齢社会において私たち薬剤師が担う重要な使命となっています。

そこで当委員会では、私たち薬剤師・薬局が、それらに向かって取り組んでいく上でヒントやきっかけを見つけるために、「健康サポート薬局の実現に向けて」をテーマとし、研修会を開催するに至りました。当日は多数の方にご参加いただき、4グループでの発表を行うことができました。かかりつけ薬局・薬剤師というキーワードの中で、各々が何をできるのか、何に取り組めるのか、今何が必要なのかを様々な角度から議論できたのではないのでしょうか。

はじめに、会長よりかかりつけ薬剤師・薬局の機能について触れ、それに見合った施設要件をめざし、会としても実現に向けて応援すると激励の言葉を頂きました。また、薬局の現状に触れ、これまでの反省を含めて国民から認められる努力が必要だと、世間との認

識のギャップを感じた自身の経験を引き合いに鼓舞する姿が印象的でした。

さて、SGDに入る前に、当委員の仲真先生より診療報酬改定と絡めて説明が行われました。改定の背景と求められる薬局・薬剤師の姿に設定された算定条件には厳しさが滲んでいました。今回の改定はプラス改定と報道されていますが、実質取れない点数の新設にマイナス改定とも捉えられる内容でした。

目の前が少し暗くなってしまった(?)ところで、池間委員長の進行と共にSGDは始まりました。各々のグループは、KJ法やホワイトボードを駆使して、それぞれのやり方で時間一杯に議論を交わし、素晴らしい内容をまとめ上げてくれました。今回は、議論内容が幅広いため、急遽テーマを1つ増やし、各グループで選択してもらうことにしましたが、すべての班が「かかりつけ薬剤師・薬局の実現に向けて」をテーマとした内容でした。ここで簡単ですが各班の発表内容を紹介します。

A班 「色々な意見が出た中で、やはりいかに在宅業務へ取り組むかがスタートである。そこから他職種連携・薬薬連携が生まれ地域へ向かっていけるのではないか。ただ、業務負担の問題を解決しなければならない。」といった、本来の業務を見直した内容でした。

B班 厚労省発表資料から各々の機能について問題点・考慮・改善する点を挙げ、対応策について丁寧にまとめていました。

C班 「国民・家族へのかかりつけの理解を頂き、臆することなくこれまでの取組を継続していく。すべての患者さんにかかりつけを勧めるものでない。お薬手帳ひとつにもアピールのチャンスととらえ、一元管理に関しては自分の患者さんという意識を持つことが大事である。ただ、点数を算定すると患者さんの負担が増える仕組みは困る。」といったこれまでの業務の延長で捉える前向きな意見が印象的でした。

D班 記載されている3つの機能の要件に対して細かい議論をされており、アクションプランを具体的に示していた。議論は時間もなくなってしまうくらいで、実践的で丁寧に考察された印象を受けました。

あっという間に閉会の時間となり、西川委員より立地から機能へ、対物業務から対人業務へ、KPI（主要パフォーマンス指標）とPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルの実施、ICTを活用した一元管理へといった取組むキーワードが述べられ散会となりました。

多くの方が感じられているように、業務活動は幅広くなり、責任も一段と増します。ただ、業務内容を見直す時期とも感じます。日々、雑務に割いている時間はないでしょうか。職員間で連携が取れていない部分や課題を放置しているところはないでしょうか。業務効率を上げて、時間創出を検討することも大事だと私は考えています。

最後に、今回の研修内容に刺激を受け、現場で是非実践していただけたら幸いです。お忙しい中、ご参加頂いた先生方に今一度感謝申し上げます。ありがとうございました。



あいさつ
亀谷 浩昌 会長



「健康サポート薬局の
実現に向けて」
仲真 良重 氏

＜医薬分業対策委員会主催
研修会に参加して＞

そうごう薬局 壺川店
中野 将仁



医薬分業対策委員会主催研修会「健康サポート薬局のあり方について」に参加しました。

研修会は二部構成になっており、前半は仲真先生から次回の診療報酬改定で新たに制定された健康サポート薬局について「健康サポート薬局実現に向けて」という題名で、かかりつけ薬剤師、かかりつけ薬局を実現させるための基本構想についてお話いただきました。かかりつけ薬剤師の加算を取る用件がとても難しく、現行の薬剤師の立場ではなかなかこの加算を取るのには難しいのではないかと感じました。薬局としても設備はさることながら、OTCの整備など処方箋受付薬局として進化をし、これからの薬局は患者さんを待っているだけではなく、自らが動き患者にアピールをしていく必要があることを感じさせられました。

研修会の後半では、薬局薬剤師、病院薬剤師が混ざりグループに分かれて「健康サポート薬局の実現に向けて」「かかりつけ薬剤師、薬局の実現に向けて」のどちらかのテーマを選択しグループ討論を行いました。結果、全てのグループが「かかりつけ薬剤師の実現に

向けて」というテーマで討論を行っていました。これは健康サポート薬局の実現のためには、まずかかりつけ薬剤師、薬局が根底になければならないという考えが、参加者の中にあつたためと考えられます。私たちのグループではかかりつけ薬剤師の要件一つ一つを吟味しつつ、今できているものやこれからどのように実施していけばよいのかということをお話し合いました。討論の中では、要件事項は実施できているという意見が多くありましたが、現状で一般的にはまだまだ不十分であるからこそ、行政が要件を文言として示しているのではないかと感じました。他職種へのアピールに関しては、実際に多くの勉強会などにも参加させていただいた時に薬剤師の発言力は弱いと感じることも多いので、個人個人が動いていく必要があります。薬剤師会としての動きも重要だとは思いますが、まずは多くの職業の方との連携を強化していき、「薬剤師職能のアピールと持っているポテンシャルを活用すると具体的にどんなことができるのか」ということを伝えていく必要があると感じました。

まだ1年目の薬剤師として至らない点も多い中、グループの進行役を任せていただき、さまざまな気づきが多かったです。役員の方、皆さま、ありがとうございました。私自身、これからも勉強会には積極的に参加し、自己研鑽に励みたいと思います。



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ

<SGD報告内容>

B
グループ

**かかりつけ薬剤師・薬局の
基本的機能について**

**1. 服薬情報の一元的な把握とそれに基づく
薬学的管理・指導**

- (1) 問題点・考慮・改善する点
- 薬局は断ってはいけない、最後まで責任をもつ
 - 在庫の問題は現在各薬局で行っている対応でよいのか
 - 患者にとっては、かかりつけ薬局のほうが高くなるのを説明できるのか？
 - かかりつけ薬局がスタートする事は、いい事だが慣れるまでは点数制を当分は加算しなくても良いのではないのか
- (2) 対応策について
- 患者に積極的に声をかけて、かかりつけ薬局・薬剤師の意図をアピールしていく
 - 薬剤師が各自かかりつけ薬局についての方針をしっかりと把握していく

2. 24時間対応、在宅対応

- (1) 問題点・考慮・改善する点
- 電話対応をどのようにしているか？
 - まったく情報が分からない患者からの対応を求められたら回答が出来るのか？
 - 現状は、Drが殆ど自分の施設と関連のある薬局を紹介、指示？している
 - 医療機関との連携が重要である
 - マンパワー不足・消極的
- (2) 対応策について
- 基準加算をとっている近隣の薬局と連携をとる
 - 在宅をやっているDrとコンタクトが必要、家族にもアピールしておく
 - 時間外対応する積極性も必要

3. かかりつけ医を始めとした医療機関等との連携強化

- (1) 問題点
- 現状として、薬剤師が他職種の勉強会の場に参加がされていない
- (2) 対応策について
- 在宅等の勉強会・講習会に積極的に参加して、関係機関等との連携を密にする

※Aグループは口頭発表のみ。

C
グループ

**かかりつけ薬剤師・薬局の
実現に向けて**

備蓄薬品の協力体制

- ・かかりつけ薬剤師になった場合に、患者が複数病院にかかっていると薬が準備できなくて余計に迷惑がかかるのではないのか
- ・出来るだけ薬を調達して（グループ薬局や会館から小分け）その日のうちにお届けしている
- ・地域の薬局で夜間の小分けができれば良いのではないのか
→近隣薬局でグループを作る
- ・デッドストックのリスク
→県薬の備蓄不動態ネットワーク(MEDDIS)を利用

家族にも周知

- ・高齢者がかかりつけ薬剤師・薬局と決めていても家族まで伝わっていないと施設に入所したとたんに薬は施設の薬局からもらうことになるのではないのか

一元管理

- ・自分の患者さんという意識を持つことが必要
- ・患者さんによっては今までやっていること
- ・24時間連絡がつくように、連絡先を渡す（基準や点数に関係なく）
- ・自立支援のように薬局が指定できたらいいのに
- ・点数を算定すると患者負担が増える仕組みは困る

使い分け

- ・家から近いときはかかりつけ薬局
- ・家から遠いときはかかりつけ薬剤師

患者さんに遠慮しているのでは

- ・経験豊富な年配の薬剤師さんは安心感がある
- ・お薬手帳で他の薬局に言っていないようであればアピールのチャンス

まとめ

- ・今までやってきたことを継続していく
- ・すべての患者さんにかかりつけを勧めるものではない
- ・小分けのグループを作っていく
- ・家族にもかかりつけを理解していただく



かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師の実現に向けて

1. 服薬情報の一元的な把握とそれに基づく薬学管理・指導

- (1) 患者がその薬局においてかかりつけ薬剤師を適切に選択することができるような業務運営体制を整備していること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→勤務表を店舗内へ提示する。
→調剤薬局はどこの病院の処方箋も断らないようにする。
→薬を備蓄する。
- (2) 患者がかかっている全ての医療機関を把握して、一般用医薬品等を含めた服薬情報等を一元的・継続的に把握するように取り組み、薬歴に適切に記録していること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→電子お薬手帳を普及させて、薬局もお薬手帳は1つであること、お薬手帳の重要性をアピールする。
- (3) 残薬管理や確実な服用につながる指導を含め、懇切丁寧な服薬指導や副作用等のフォローアップを実施するように取り組むこと。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→現状でも出来ている？残薬チェックできていることのアピール不足？
残薬状況を今以上にフォローするためには、Drにも残薬状況を書面で提出する。
在宅まで関与して、残薬状況を目で見て正確に把握する。
→残薬を実施したということをお薬手帳に記入するためにも、重複投薬防止加算をしっかりと算定して、保険者に実績を伝える。
- (4) 患者に対し、お薬手帳の意義・役割を説明し、その活用を促して○服薬指導の一元的な把握のために、患者がかかっている全ての医療機関を把握し、服薬情報等を適切に記録すること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→電子お薬手帳を普及させて、薬局もお薬手帳は1つであること、お薬手帳の重要性をアピールする。
- (5) 自局以外をかかりつけ薬局としている患者に薬剤を交付することになった場合には、患者の意向を確認した上で、かかりつけ薬剤師・薬局による服薬指導の一元的・継続的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導の実施に、適切に協力することが望ましい。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→他の項目と統合した対策が、要件を満たすことに繋がる。
- (6) かかりつけ薬剤師、薬局を持たない患者に対し、薬剤師が調剤や医薬品供給等を行う際の基本的な役割（薬歴管理、疑義紹介、服薬指導、残薬管理等）の周知に加えて、かかりつけ薬剤師・薬局の意義・役割や適切な選び方を説明し、かかりつけ薬剤師・薬局を選ぶように促していること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→「かかりつけ薬剤師」や「かかりつけ薬局」に関して、県民に周知するために、薬剤師会は組織として啓蒙活動を行う。（薬剤師会が用意している、「かかりつけ薬局を持ちましょう」を活用したり、テレビCMを行う。
→「かかりつけ薬局」、「かかりつけ薬剤師カード」を作成する。
→門前薬局で薬を受け取る行動パターンを、どこの薬局でも処方薬を受け取れることを、「病院」や「患者」にアプローチする。
→かかりつけ薬局やかかりつけ薬剤師の一覧を整備する。

2. 24時間対応、在宅対応

- (1) 開局時間外であってもいつでも、かかりつけ薬剤師（かかりつけ薬剤師が対応できない時間帯がある場合にはかかりつけ薬剤師と適切に情報共有している薬剤師を含む）が患者からの相談等に対応する体制を整備すること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→現状の24時間の電話にて待機で要件をみたしている？
今後は、近隣薬局でグループを作ったりして実際に24時間営業する薬局を交代で行う。
→会営薬局と連携して、調剤出来る協力体制を整える。
- (2) 在宅患者に対する薬学的管理及び指導の実績があること。
☆具体的な道筋、アクションプラン
→実績を作る。

医薬分業対策委員会参加者名簿

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ○亀谷 浩昌 (沖縄県薬剤師会会長) | ○川上雄一朗 (医薬分業対策委員) |
| ○江夏 京子 (医薬分業担当理事) | ○仲座 方利 (医薬分業対策委員) |
| ○池間 記世 (医薬分業対策委員会委員長) | ○仲真 良重 (医薬分業対策委員) |
| ○吉田 洋史 (医薬分業対策委員会副委員長) | ○西川 裕 (医薬分業対策委員) |
| ○姫野 耕一 (医薬分業対策委員会副委員長) | |

Aグループ

- 安里 生信 (ハート薬局 江洲店)
- 石垣 満子 (病院前薬局)
- 安次富 美代子 (ひだまり薬局)
- 新井 滋 (とくりん薬局 城間店)
- 石川 幸子 (ピーナツ薬局)
- 大塚成一郎 (たいせい堂薬局 首里店)
- 小野加那恵 (スマイル薬局 古島店)
- 兼島 静江 (かねしま薬局)
- 金城 潔 (福寿薬局)
- 姫野さやか (大浜第二病院)
- 島袋 忠明 (ハート薬局 江洲店)

Bグループ

- 安座間 ヤスコ (たくし薬局)
- 石井真喜子 (がじまる薬局)
- 沖山 尚美 (うちどまり薬局)
- 神里よし子 (よつば薬局)
- 神村 武之 (せせらぎ薬局 三原店)
- 金城奈々美 (すこやか薬局 新都心店)
- 平良 恭子 (薬局えぱーわーな～)
- 武富 弘益 (スマイル薬局)
- 小嶺 作 (みね薬局)

Cグループ

- 小那覇幸子 (おなは薬局)
- 浦崎 清子 (名護薬局)
- 武富 弘記 (スマイル薬局 宮城店)
- 西平 克子 (クララ薬局 ティエラ)
- 比嘉 照 (あおぞら薬局)
- 比嘉 賀俊 (あさひ薬局)
- 平田 順子 (ふれあい薬局)
- 普天間公子 (はづき薬局)
- 前濱 朋子 (つる薬局)
- 吉富 弓江 ((株)琉薬)

Dグループ

- 新垣 努 (ほがらか薬局)
- 高良 武和 (万年堂 平良店)
- 友利 啓子 (西崎病院)
- 中野 将仁 (そうごう薬局 壺川店)
- 真栄田 いずみ (経塚薬局)
- 宮城 幸枝 (こくら虹薬局)
- 森田 勇 (すこやか薬局 泡瀬店)
- 諸見里 めぐみ (なかがみ薬局)
- 与儀 和子 (同仁薬局)

学術研修

第4回「薬剤師のための症例検討入門」研修会報告

会期：平成28年2月6日(土) 19:00～21:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<式次第>

司会進行：学術研修委員会 潮平 英郎

講義・解説 『心不全の基礎知識と症例解説・演習』 ～症例提示に基づく検討～

講師：大澤 友二 先生

(福岡薬物治療研究会会長、九州大学薬学部非常勤臨床教授、元昭和薬科大学教授)

平成28年2月6日、沖縄県薬剤師会館にて、「第4回 薬剤師のための症例検討入門」と題して開催されました研修会にチューターとして参加させて頂きました。この研修会は、前回の8月29日の高血圧の症例検討と同様に、スモールグループディスカッション（以下SGD）を行いました。今回のテーマは心不全です。少人数（7～8名）のグループに別れ、心不全の症例について意見を言い合います。チューターは、グループの皆さんの意見を聞けるように、話がそれた際は軌道修正し、話し合いやすい空気感をつくり出すのが役目です。

今回参加された薬剤師の先生は47名（うち病薬13名）で、薬局・病院から若手・ベテランの多くの薬剤師が集まりました。前回よりも病院からの参加者が多かったようです。参加者はSGDを行うために5つのグループに分かれて頂き、各グループにチューターが1名配置されました。

ディスカッション前には、大澤先生より、SGDの進め方の他、前回11月7日に開催された講義内容（心不全の病態や薬物治療について）のレクチャーがなされました。

講義後、各グループで自己紹介後に「司会」「書記」「発表者」の3役を決めました。SGDでは、「司会」がディスカッションを円滑に進め、「書記」が話し合われたことを書きだしていき、



琉球大学医学部附属病院薬剤部
伊差川 サヤカ

最後に「発表者」が全員の前で提示された症例に対するプランを発表します。各班、前回の参加者がいたこともありスムーズに役割分担が決まり、盛り上がっていたようです。私自身はチューターでありながらSGDの内容に深く突っ込みすぎたあまりに、講師の大澤先生に何度も止めていただくという失態を繰り返しており、終了後に反省した次第です。

ディスカッション後、各グループで症例に対して考えたプランをホワイトボードにSOAP形式で書き出しました。時間の都合上、5グループ中から2グループが発表し、発表グループは、講師の大澤先生、5名でディスカッション内容が面白かったところを2つに絞り決定しました。発表ではボードの横に発表者が立ち、それを参加者全員で囲むようにして発表が行われました。患者の咳嗽の原因は服用していたACE阻害薬の副作用なのか、または心不全による肺うっ血からの咳嗽か、という質問に、後者にとらえるのが妥当だろうという意見が得られました。また、患者が咳嗽から不眠を訴えていたことから、プランの中では利尿剤の追加を上げているグループも多く見



講師 大澤 友二氏



られました。本症例では、心電図でST低下が指摘されており、カリウム低下を示唆するのではないかというディスカッションも聞かれました。全体を通して、現場に強い薬剤師ならではの意見が多く聞かれ、とても充実した発表となりました。発表後に大澤先生より、発表班のプランや他グループでのディスカッションについてコメントを頂きました。

実は筆者は、心不全の症例検討を行うにあたり、大澤先生が教鞭をとる九州大学の症例検討の授業を見学していました。学生のディスカッションでは、「ネオフィリンを追加する（→TDMが必要なので実際は難しいと思われる）」、「トルバプタンを開始する（→ガイドラインで推奨されていない）」、「新しい奥さんを探す（→症例の病状は妻が先だったことがきっかけだった）」、「予防接種を推奨する（→心不全手帳に記載されている）」などの柔軟な発想のものがああり、目を剥かされました。

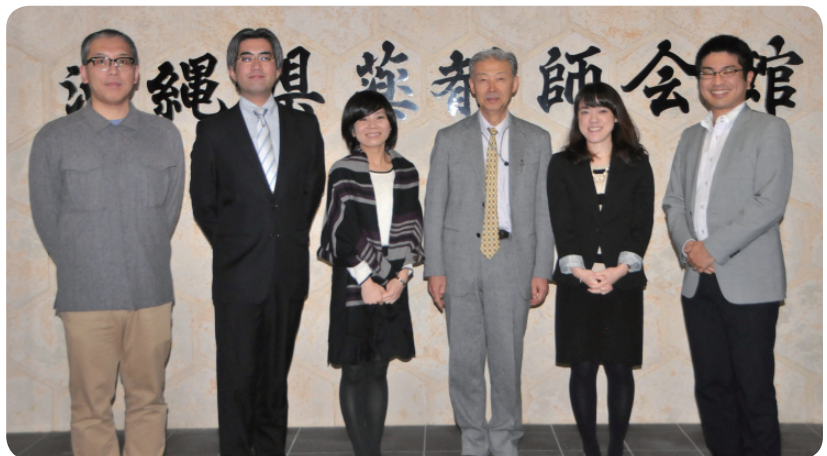
今回の症例検討では、現場にいる薬剤師ならではの内容となり、ガイドラインに基づき、かつ在宅で行えるより妥当性の高いプランが提案されていたのではないかと印象を受けました。同じ症例を見ても、学生と

薬剤師では提案するプランにギャップがあり、そのギャップを埋めるのが2か月半の薬学部の実習なのかもしれません。

この研修会は、薬局薬剤師と病院薬剤師が1つの卓を囲んで症例についてダイレクトに意見を交わし合うことのできる珍しい研修会です。SGDで出会った薬剤師が、症例検討会後も薬局・病院間でやりとりし、患者さんのためにより良い医療を提供できるようになれば、沖縄の未来は明るいだろうと思います。

大澤先生のご厚意もあり、来年度も症例検討会は開催される予定です。多くの先生方が参加されることを願っております。

最後に、このような貴重な機会を頂きました関係者の皆様に感謝を申し上げます。



大澤友二氏（左から4人目）とチューター 5氏
左より、中尾滋久氏、潮平英郎氏、古謝さなえ氏
大澤友二氏、伊差川サヤカ氏、玉城武範氏

地域保健

平成27年度自殺予防対策事業 ゲートキーパー（薬剤師）スキルアップ研修会報告

日時：平成28年3月6日（日）10:30～12:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<式次第>

○開会の挨拶

講義1 自殺の現状と自殺対策の取り組み

沖縄県保健医療部健康長寿課 精神保健班 本村しのぶ

講義2 自死対策はスペシャリスト連携で...

那覇市医師会 常任理事 玉井 修

○閉会の挨拶

沖縄県薬剤師会 常務理事（自殺予防対策担当理事） 村田美智子

司会 地域保健開局委員会 草壁 瑞恵

沖縄県薬剤師会 副会長 江夏 京子

講義1：自殺の現状と自殺対策の取り組み

主要先進国の中でも日本の自殺死亡率は2位であり、男女ともに若い年代の自殺者数が多いのが特徴となっている。

沖縄の自殺の現状としては全国と比較し①自殺者が微増傾向にあること②男性の自殺者数の割合が高いこと③また働き盛りといわれる若い世代の自殺が減らない傾向にあること、その中でも無職者の自殺者の割合が高いこと④自殺未遂者の割合が高いこと、以上4点が特徴となっている。

それに対して国や県は、『誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して』さまざまな取組を実施している。

沖縄県の取組としては、若年層対策としてのEメール相談の実施。若年者向ゲートキーパー養成研修事業、自殺未遂者再企図防止事業、ライフコーディネーター派遣事業にむけた調整、かかりつけ医心の健康対応力向上研修などを行っている。行政と民間団体が連携して自殺者を増やさないようにしているもののなかなか思うように減らない現状であり、未だ自殺は大きな社会問題となっている。

今後の課題としては、当事者への介入はもちろんのこと、普及啓発媒体の配備、早期発見・早期ケア体制の整備、自殺未遂者対策や



イオン薬局 南風原店
金城 絵理子

未遂者のケアとなっており、県、精神科病院、救命救急病院、消防、市町村、薬局などのその他民間団体などの連携による対応が求められる。

薬局に求められる例としては、処方薬の多量服用による自殺企図者が多いことに対し、複数のクリニックを受診し処方してもらっている事例もあるので、お薬手帳を活用して薬局と医師との両方での確認をする必要があると考えられる。



司会
草壁 瑞恵氏



開会の挨拶
江夏 京子副会長

講義2：自死対策はスペシャリスト連携で...

ゲートキーパーとはそもそも何なのか。それは、自殺を考えている人が心を許して相談できるキーパーソンであり、上手に喋るよりも受容と共感を持ち「あなたはひとりぼっちではない」という事を伝え、時には何も喋らずにただ黙って手を握っているだけでも良い人のこと。自殺を止めたい気持ちは自然の摂理であり、それは「ひと」だから。

私自身、精神疾患をもっている患者様には当たり障りなく接している傾向があります。「こんな事を言うてはいけないのでは・・・、こういう事を聞いてはいけないのではないかと・・・」と思い、なかなか踏み込むことができずにいます。

患者様が思い悩んでいる・追い詰められている・辛そうな雰囲気があっても、そこをつつくような行動がとれないでいることに対し、いつも「何をどうしてさし上げれば良いのだろう」と日々考えて業務にあたっていますが、答えを出せずに今日まで至っています。

玉井先生のご講義の中で一番心に響いた事は、「自殺対策に必要なことは、医者一人だけではどうにもならない、周りの医師や薬剤師、弁護士、保健所職員などの他職種の連携が必要であること。そして、特別なスキルやテクニックはいらない、世話焼きおばちゃんのようなおせっかいと忍耐力が大切」との文言でした。

また、一人ではなかなか解決・対応できな



左より、村田美智子常務理事、玉城修氏、本村しのぶ氏

いとのことから、医師や保健医療部健康長寿課などの機関、弁護士などと連携し全員でサポートしていく必要があるとの事を学びました。

今後は、業務においても玉井先生のお言葉を胸に、世話焼きおばちゃんのようにおせっかいだと思われても根気よく接していき、信頼関係を築いて何かしらの声掛けや助けになれるようにしたいですし、また、他職種連携でフォローできればと思います。

薬局でも薬剤師だけでなく、受付の方が気づき、声掛けをすることも大切とのお話もありました。薬剤師だけでなく医療事務も含め薬局スタッフ全員が、気づいて、傾聴して、必要な機関へ繋いで、見守っていこうと思います。

今回の講義で、多くの気づきと学びを得ました。一人でも多くの方が自殺をしない環境を作れるように、微力ながらも寄与できるよう努めていきたいと思っています。



講義2講師 玉井 修氏



地域保健

日本薬剤師会
「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第4回)」
～ 症候学とトリアージを学ぼう(発疹編)～

伝達研修会

日時：平成28年2月28日(日) 13:00～16:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



地域保健開局委員会
島袋 さゆり

平成27年10月25日に、第4回日本薬剤師会主催「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会」が開催され、その伝達研修会が上記日程で開催されました。日本薬剤師会の研修会に参加された笠原大吾委員・松本圭五委員を中心に、DVDを放映しながらの研修となりました。

DVD放映においては、昭和大学薬学部教授・木内祐二氏を講師に、テーマ「症候学トリアージを学ぼう～発疹編」が進められました。

薬局において、症状を訴える来客者・患者への薬剤師の対応は、まず、症候から病名・病態を推測、そして適切な対応方法を判断(トリアージ)します。

トリアージは、①医療機関・家族への緊急連絡 ②医療機関への受診勧告 ③OTCでの対応 ④カウンセリングや生活指導(サプリ、健康食品)等の適切な対応を責任を持って確実に実施する必要があります。

それでは、適切な対応方法を判断(トリアージ)するためには、どのような能力が必要なのでしょう。

①【基本的な症候を示す疾患を系統的に理解】

従来の薬学部教育において症状を訴える患者から病気を推測・鑑別するための系統的な学習は行われていない。症候から病名を推測する『症候学』の学習が必要である。

②【来客者から情報を適切に収集し、疾患を推測】

症候から考えられる疾患を出来るだけ多

く列挙し、並び替え(局所性?全身性?、重症度、緊急度等による分類)を行う。さらに、疾患を絞り込むため十分な面接で患者情報を収集し、可能性の高い疾患から順序付けし、数疾患に絞り込む。(一つの疾患に絞り込むのは危険です。)

③【来客者ごとに適切な対応を判断して実施】

従来の薬学部教育においては、薬剤師自らが、患者の状態・背景やエビデンスに基づいて、最善の治療や対応を判断する学習カリキュラムが不十分であった。(トリアージに困難を感じていた。)

科学的根拠に基づいた治療方法や支援方法(EBM)の学習が必要。

研修は、DVD放映と並行して薬剤師役(盛本直也委員)、患者役(松本圭吾委員)によるロールプレイが実演され、臨床判断～アルゴリズム(問題を解決するための手順を定型化した形で表現したもの)～トリアージへと作業をしながら進められました。

作業①【症候から疾患の列挙】

◆参加者は各自で症候(頭痛、腹痛、発熱、咳、発疹、めまい)に対する疾患を書き込む。

作業②【発疹を訴える疾患と症状の特徴の列挙】

◆4人1組となり、皮膚症状を訴える疾患の列挙(20疾患以上)

◆付箋に疾患名を記載し、A2用紙に貼り付けて疾患分類を行う。

作業③【20疾患に対する症状の特徴の列挙】

- ◆列挙した疾患から頻度の高い疾患と見逃してはいけない疾患を20疾患選ぶ。
- ◆20疾患から疾患のグループ分け（緊急度、重症度などを意識して）を行い、鑑別アルゴリズムを作成する。（写真参照）

作業④【[鑑別アルゴリズム]の説明】

- ◆作成した[疾患を推測するためのアルゴリズム]を発表してもらう。

今回の研修は、「薬剤師の臨床判断」として「発疹」をテーマに「患者・来局者の訴え・状態からトリアージや他職種連携を適切に実

施できる能力の養成」をワークショップ形式で習得するとともに、症例を用いて臨床判断とトリアージの流れの実際について学習しました。

私自身、鑑別アルゴリズムに挑戦してみて、症候から病名を推測する『症候学』の能力が、いかに乏しいか実感させられました。

また、DVD放映においてご教示頂いた昭和大学薬学部・木内教授のご丁寧な説明が、大学の授業を受けているかのようで、新鮮な気持ちで受講することができました。

伝達講師をして頂いた笠原大吾委員・松本圭五委員に感謝いたします。

地域保健

第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会報告

日時：平成28年2月14日（日）9:45～16:00
会場：沖縄小児保健センター 3階 ホール



会営薬局うえはら
上里 美矢子

去る2月14日（日）に「第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会」があり参加させていただきました。私自身、禁煙といっても今まで気にもとめていませんでしたが、今回の講習会で、改めて身近なことだと実感し、禁煙の困難さや重要性を感じました。

また、近年薬物乱用による問題がメディアでよくとりあげられています。それによる離脱の難しさは依存症という面が関わっています。タバコもこの依存症という面では似たような境遇にあると思います。禁煙は本人の意思の弱さではなく病気ととらえ治療が必要なことだと実感致しました。では4つに分けて報告させていただきます。

- ① 舘野博喜先生による「禁煙のためのエビデンスを学ぶ」では、“健診よりも喫煙！”と話されていることが印象的でした。30代で禁煙できれば10年寿命が取り戻せる。40代で禁煙できれば9年取り戻せる。いくつになっても禁煙は遅くない。未来が広がり、メリットが大きいこと。
- ② 高橋裕子先生によるランチョンセミナーでの「手ごわいスモーカーもその気にさせる禁煙支援のノウハウ」では、喫煙者心理に基づく禁煙の声掛け法“4A+A”を学びました。4A+Aとは、「Accept-Admire-Ask-Advice-Arrange」の5つの頭文字をつないだもので、日本語では、「受け止める

(くりかえす)－褒める－尋ねる－伝える－次につなぐ」という考え方です。最後のA (Arrange) は、いつでもその気になったら相談できるよう次につなげる気持ち、笑顔で対応することがポイントのようです。

また、みなさんはサードハンドスモークという言葉をお聞きしたことがありますか？

喫煙後の喫煙者の呼気や衣類や髪、また家具などの屋内環境に残留するタバコの汚染のことです。さまざまな研究調査の結果、受動喫煙を完全に防止するには「屋内全面喫煙」ではなく「敷地内全面禁煙」が望まれています。平成27年6月より、労働安全衛生法の一部改訂後、職場の受動喫煙防止対策に係る規定が施行されました。それにより各事業場での取り組みも重要になってきている現状です。受動喫煙の害は、PM2.5で測定できます。PM2.5は非常に粒子が小さいため（髪の毛の30分の1程度）、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸系への影響や循環器系への影響が心配されています。

それから、禁煙治療について主な薬剤「ニコチンパッチ」「ニコチンガム」「チャンピックス」の3種類の剤型について紹介がありました。

「ニコチンパッチ」や「チャンピックス」での有意差はないとされていますが、子供や精神疾患患者には「ニコチンパッチ」が第一選択となることが多いようです。「チャンピックス」に関しては、精神疾患の悪化を伴うことがあり注意が必要なことやめまい・傾眠・意識障害が出現する可能性があるため自動車運転や危険を伴う機械の操作はさせないよう伝えることも忘れてはいけません。「ニコチンガム」と「ニコチンパッチ10・20」は、市販薬として気軽に購入でき、すぐに禁煙をスタートできるメリットがあります。

③ 三浦秀史先生による「クイズで学ぶ禁煙支援の秘訣」では、若いの方が禁煙しにくいなど。禁煙マラソンというメール支援では、禁煙方法を学ぶことができ、状況にあわせたアドバイスを禁煙した先輩達から受けられるのが特徴、楽しく禁煙を続けられるような工夫がされているようです。

④ 伊藤裕子先生による「あなたならどうする？禁煙指導のちょっと困った場合」では、患者様の性格により工夫して対応するなど、実例をあげてレクチャーされました。禁煙がスムーズに行えるような工夫やヒントがたくさん詰まった“禁煙日記”の内容・活用も教えていただきました。

さて、薬剤師としてどのようにして禁煙活動に関わっていけるのでしょうか。単独的に働きかけるのには限界があり効果を得がたいと感じています。医師・看護師・薬剤師、メディカルスタッフを含む連携体制で、充実した禁煙支援が期待できると思います。ただそのツールがまだ整っていないのも現状かもしれません。少しでも喫煙者が相談しやすいような環境づくり、すでに取り組みのある「健康とおくすり相談会」や「県民健康フェア」、また自治体の活動に積極的に盛り込んでいくなど、“禁煙”に対して、身近であり自然なかたちで取り組める環境づくりを広げていきたいと思いました。

このような有意義な講習会を企画していただいた関係者各位に感謝致します。

青年部会

青年部会主催 在沖米軍基地内海軍病院見学ツアー報告

見学施設：薬局、ER、複合病棟

日 時：平成28年2月11日(木) 13:00～14:30

参加人数：22名（2グループに分かれて見学）

新病棟は、2013年から稼動しており、地下1階～地上4階建てです。軍の病院としては西大西洋地域でもっとも大きく、ベッド数は80床、最大183床です。しかし、海軍病院は日本でいう高次機能病院ということではなく沖縄で軍に従事する方とその家族のための一般病院です。

まず、薬局を薬剤師の方が案内してくれました。薬局には薬剤師約10名、テクニシャン約20名、1名のみ臨床薬剤師が勤務しています。臨床薬剤師は回診し、場合に応じて簡単な処方などもするそうですが、その他の薬剤師はセントラル業務のみで病棟業務は一切しないとのことでした。全員が軍人ではなく民間の薬剤師もいるそうで、軍の薬剤師は白衣ではなく軍服を着ています。調剤室は薬局窓口側に外来用と薬局奥の入院用に分かれており、外来の調剤室は入院の3倍ほどの大きさでした。外来患者用の開局時間は月～土曜日7～19時で、100%院内処方、外来処方箋枚数は年間24万5千枚（1日約780枚）と数字を疑うような壮絶な量をこなしていますが、現場はゆったりとした雰囲気でした。薬をとりに来ない外来患者もいるそうで、患者が薬局



ひまわり薬局 中部店
新江 裕貴

窓口へ来ないと調剤を始めないとのことでした。また、薬を後日取りに来る人も多く、受け取り待ちの薬剤の袋が大量に備蓄されていました。入院静注用薬のオーダーは年間4万4千件（1日あたり約120件）、その他入院の薬は1回量を1件として年間15万1千件（1日あたり約410件）と床数相当の量です。TPN用の無菌室内のキャビネット、他薬剤混注用のキャビネット、調剤室に抗がん剤用のキャビネットが設備されており、成人TPNの混注は10～15件（年間）、NICUのTPN混注は60～100件（年間）、化学療法は基本的に行っていないとの事でした。入院患者への内服薬の払い出しは1錠ずつ分包しており、返却があっても再利用できるようになっていました。オピオイドなどの払い出しにはPyxisというタッチパネル式機器があり、指紋認証で調剤者や薬の払い出しの記録がされます。その他印象に残っていることは、不正ができないように薬局内に多数の監視カメラが備わっていること、日本にはないスプレー型の外用薬（ケナログスプレーなど）があること、注射薬や点滴薬の混注は看護師ではなく薬局で行っていること、陳列の区分に妊婦が調剤するべきでない薬（exプロスタグランジン系製剤）を含むハイアラート薬があることなどでした。

次に、ERを医師に案内してもらいました。どの軍病院でも薬剤師はERで仕事はしていないとの事でした。主要な薬剤はPyxis内に用

[次頁へ続く→]



意されており全て看護師により払い出しがされ、医師は一切与薬をしないとのことでした。小児用の救急カートの棚はカラフルに分けられており、それぞれ棚の色は身長に応じた薬剤がセットされていました。小児患者の身長を20cmほどずつ色分けされた紙で計り、患者の身長に応じた色の棚から薬剤を使用します。また測定用の紙のそれぞれの色には癲癇発作時に使う薬の投与量、インスリンやオピオイドなどの過量暴露時にレスキューで使う薬の投与量、頭蓋内圧を下げる利尿剤やマンニトールの投与量、細胞外液脱水時の輸液の投与量、また、薬だけではなくカテーテルやNGチューブの太さなど様々な医療用具のサイズも記載されていました。

最後に、病棟看護師より4F複合病棟を案内して頂きました。複合病棟は27床で内科、外科、小児科など様々な方に使われ、台風時には出産の待機で使われることもあるそうで

YELLOW			
Lorazepam	SEIZURE	1.5 mg	FLUIDS
Diazepam IV		2.0 mg	250 mL
Diazepam - RECTAL		0.5 mg	130 mL
Phenobarbital Load		200 mg	Glucose
Phenytoin Load		200 mg	48 mLHR
Fosphenytoin Load		200 mg PE	Maintenance
	OVERDOSE	200 mg PE	D5W + 10 NS + 20 meq KCIL
Dextrose		6.5 g	
Naloxone		1.5 mg	
Flumazenil		0.15 mg	
Glucagon		0.5 mg	
Charcoal		15 g	
Mannitol	ICP	15 g	
Furosemide		15 mg	
Infusions: Pursuant to JCAHO's National Patient Safety Goal 3b - "Rule of 5" for Infusions should be converted to Standardized Concentrations.			
Equipment			
E. T. Tube	4.5 Uncuffed	O, Mask	Pediatric NRB
E. T. Insertion Length	13.5 cm	*ETCO ₂	Pediatric
Stylet	6 French	*Urinary Catheter	10 French
Suction Catheter	10 French	*Chest Tube	20-24 French
Laryngoscope	2 Straight	NG Tube	10 French
BVM	Child	Vascular Access	18-22Ga
Oral Airway	60 mm	Intraspinal	15Ga
*Nasopharyngeal Airway	20 French	BP Cuff	Child
*LMA	2	*May not be included in Organizer System(s).	



す。見学時には入院患者はほとんどいませんでした。各病棟には薬剤を準備する部屋があり主要な薬剤はPyxisで払い出しをします。看護師による与薬のチェックは各病室のPCでチェックをするそうですが、紙媒体でもチェックすることがあるようです。

見学に参加して、日米の薬剤師が交流を深め現状の問題点を持ち合い、お互いの業務の改善や国籍を問わず沖縄にいる全ての方へより良い医療が提供できるような会が設けられると良いと思いました。



＜在沖米国軍基地内海軍病院視察に参加して＞

米軍基地内海軍病院視察に参加しました。視察した施設は、①薬局 ②ER ③病棟の順序で、①、②に関しての感想を述べます。

薬局内を視察してみて驚いたのは、無駄がなくスムーズに業務が進んでいることでした。錠剤のピッキングは、ほとんど機械が行い、バーコードを通すとケースに薬剤が充填され、用法用量のシール、薬剤の写真（識別コード）が貼られ出てきます。これを薬剤師がチェックするというシステムでした。薬剤数も個数で数えず、大まかな薬剤の重さで数えていることにも驚きました。当院では小児への抗生剤は粉薬で投薬するのですが、海軍病院では粉薬での投薬は行わず、必ず水剤にして投薬する決まりがありました。これも投薬瓶には用法用量が記載されており、それを薬剤師がチェックする仕組みでした。このように業務を単純化することは、監査業務等に集中できるなど重要だとは思いますが、薬剤によっては錠剤が小さいとどこまでの誤差が出るのか、同じ薬剤でも異なる期限の物をどのように管理しているのか、小児への投与は同じ投薬瓶でどのように分けているのか、不明な点も多く、仮にも当院で実行するのは非常に困難だと思いました。

業務体系では、夜勤専属薬剤師が2名おり、1週間連続で夜勤業務した後、1週間休みという業務体系も面白く感じました。当院では、ほぼ全ての薬剤師が夜勤を行っており、その際、麻薬を扱うことが多いため、全ての薬剤師が麻薬を扱える体制となっていますが、海軍病院では、麻薬、向精神薬は決まった薬剤師のみが扱うことを許されており、金庫には専用の監視カメラが付いているなど、非常に厳重な管理体制に驚きました。

ERで一番印象に残ったものは、小児が救急で運ばれた際、患者の身長を測るメジャーのような物があり、そこに様々な薬剤名の記載と、患者の身長から推測した適正な薬物量の

中頭病院
福 大哉



記載がありました。救急で体重が測れない場合の大まかな目安として使用されるのだと思いますが、素早く対応できるツールとして非常に有効だと感じました。また、薬剤の定数ボックスがあり、必要時に素早く使用できます。使用の際に使用者のパスワードを入力する作業があり、何時・誰が・何を使用したかがデータ化される仕組みでした。

当院でも病棟・ERに定数を配置しているのですが、デッドストックが多く、補充業務で時間がとられることもあり、データ化することでデッドストック防止や補充業務の簡略化で業務軽減につながる可能性があり、非常に興味深かったです。しかし、救急という時間をかけられない場面では、パスワード入力、特に麻薬・向精神薬等の特定のスタッフが近くにいない場合など、どのように対応しているのか疑問に思いました。

今回、米軍基地内海軍病院を視察して、アメリカでの調剤現場を視察できたことは非常に有意義であり、良い事は積極的に業務に取り入れていければと思いました。しかし、私は英語力が低いため、積極的な質問ができませんでしたが、この経験を今後の業務に生かすよう努力していきたいと思います。



女性薬部会

平成27年度 日本女性薬剤師会 研修講座 薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング開催

日時：平成28年2月21日(日) 9:55～16:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<プログラム>

○開会の挨拶	女性薬剤師部会 部会長	村田美智子
○「頭痛/治療と予防と生活改善」	ちばなクリニック 神経内科部長	比嘉 秀正
○「膠原病/早期発見・早期治療」	豊見城中央病院 腎臓・リウマチ・膠原病内科	上地 英司
○ランチョンセミナー「ジェネリック80%時代の課題と方向性」	サンド株式会社 開発医薬情報部	河島 浩明
○「高血圧/危険因子と生活習慣」	琉球大学保健管理センター 准教授	崎間 敦
○「発達障害/薬にできること・できないこと」	こころクリニック 精神科医	二木 志保
○閉会の挨拶	女性薬剤師部会 副部会長	狩俣 イソ

平成27年度薬剤師継続学習通信教育講座スクーリングを去る2月21日(日)に開催した。

この通信教育講座は、かつて、子育てなどで講演会に参加できない女性薬剤師の生涯教育を支える形で、一般社団法人日本女性薬剤師会が主宰してきた通年制の講座である。基本的に年間8冊のテキスト学習の添削と1回のスクーリングで15単位(G6)が取得できるシステムになっている。

内容は、1冊につき1つメインテーマが取り上げられ、医療(薬物を含め医師が担当)、看護、栄養など、ガイドラインを含めた周辺情報も提供してくれる密度の濃いテキストになっている。加えて、薬物動態などの基本的な知識やセルフメディケーションのような今日的な話題を8回シリーズにわたって紹介するなど、毎年、生涯教育に欠かせない内容となっている。県薬誌本年1・2月号同封の案内で内容等すでにご存じとは思いますが、平成28年度も新テーマで企画されており、募集中である。3月末で一応の締め切りではあるが、まだ間に合うので、興味のある方は男性会員も含め是非県薬剤師会まで連絡していただきたい。



女性薬剤師部会
部会長 村田 美智子

さて、今回行われた平成27年度のスクーリングだが、通信教育受講者を含め45人の参加があった。プログラムのように70分の4講義とランチョンセミナーを併せて、10時から16時までの長丁場の講義であったが、どの講義も第一線の臨床に即した興味深い話であった。詳細は以下の4人の先生方の報告にお任せしたい。

<頭痛/治療と予防と生活改善>

ハーブ薬局とみしろ店 玉澤 真理子

1. 頭痛の種類について

頭痛には、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛等の「一次性頭痛」と脳腫瘍、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、高血圧等、他の病気が原因で起こる「二次性頭痛」がある。頭痛患者の90%が一次性頭痛で繰り返し起こる。10%が二次性頭痛で、突然の頭痛、今まで経験したことのない様子の異なる頭痛であることが特徴。

2. 一次性頭痛の症状の違い

＜片頭痛＞

月に1～数回、脈打つ様な痛み。体を動かすことにより痛みが増す。光や音に敏感になったり、吐き気を伴う。頭痛の前に眩しい光やギザギザが見える。

*片頭痛は女性ホルモンとの関連があり、月経期にはエストロゲンの急激な低下が起り、片頭痛が誘発されやすい。

＜緊張型頭痛＞

頭全体が締め付けられる様な頭痛が続く。体を動かしても痛みは更に悪化しない。精神的、身体的ストレスが原因となる。(ストレス頭痛ともいう)

＜群発頭痛＞

片目の奥が突き刺すように激しく痛む。目の充血、涙、鼻水が出る、鼻づまりを伴う。1～2か月の間ほぼ同じ時間に毎日続く。(人によって2日に1回～1日に8回)

3. 片頭痛の治療について

＜片頭痛の予防療法＞

完全に頭痛をなくすことは難しいが、予防薬により発作の回数を半分以下に減少したり、頭痛の持続時間を短縮することができる。予防薬として、Ca拮抗薬の塩酸ロメリジン、β遮断薬のプロプラノロール、抗てんかん薬のバルプロ酸、トピラマート、抗うつ薬のアミトリプチリン等がある。

＜片頭痛の頓座薬＞

鎮痛剤：アセトアミノフェン、アスピリン、イブプロフェン、ロキソプロフェン

制吐剤：ドンペリドン

トリプタン：スマトリプタン、ゾルミトリプタン、エレトリプタン、リザトリプタン、ナラトリプタン

頭痛発作のなるべく早期に使用すること、過剰に連用しないことが大切。

＜妊婦・授乳婦＞

トリプタン製剤の妊娠初期使用での胎児奇形発症率の増加は報告されていない。トリプタン服用中は一般に授乳を控えるとされる

が、しかし「レルパックスは母乳への移行が極めて少なく、イミグランと共に授乳中でも安全に使用できると思われる」と国立成育医療研究センターは報告している。

4. 緊張型頭痛の治療について

＜予防薬＞

抗うつ薬のアミトリプチリンが推奨グレードAの薬剤で、効果も良く安価で使用しやすい。また、頭頸部や肩の筋肉の緊張をやわらげる筋弛緩薬や不安やストレスを取り除く抗不安薬が用いられることもある。

5. 群発頭痛の治療について

＜予防薬＞

エルゴタミン、ステロイド剤、ベラパミル等。(ステロイドは、群発頭痛を血管炎の一種とみなしてそれに対する抗炎症治療)

＜群発頭痛発作時の治療＞

酸素吸入、スマトリプタン皮下注(7分～15分で効く)

群発頭痛の発作に通常の鎮痛剤は無効。

6. 薬物乱用頭痛について

薬剤の使用過多による頭痛は、鎮痛剤の乱用により脳の痛み中枢が敏感になり、普通では感じない程度の刺激を痛みと感じてしまう状態。

＜治療法＞

薬物乱用頭痛は専門医の指導のもと、適切な治療を行うことが必要。

○頭痛の原因となった薬剤を中止し予防薬を毎日服用する。

○頭痛が起こった時は適切な薬剤を使用する。

○頭痛ダイアリーをつけることが大切。

多くの頭痛患者は、医師を受診せず市販薬で頭痛に対処していることが多いが、連日で市販薬を服用して薬物乱用頭痛を引き起こしている。薬局等で市販薬を購入する患者の指導に薬剤師の果たす役割は大きい。

以上、ちばなクリニック比嘉先生の講演の内容をご報告させていただきました。

私が勤務している薬局にも毎日大勢の頭痛

患者様がお見えになります。今回のスクリーニングにて頭痛治療についての理解をより深めることができました。そして、今後更に頭痛患者様に対してより良いサポートをしていきたいと思いました。

最後に、講演では漢方薬の話がほとんどありませんでしたが、私の薬局では、緊張型頭痛には桂枝茯苓丸や桂枝加芍薬湯、加味逍遥散、他色々。また低気圧頭痛には五苓散で効果を得られている方がたくさんおられます。私自身は、漢方薬も頭痛治療にかなり有効であると日々実感しています。

<膠原病/早期発見・早期治療>

ハーブ薬局 とみしろ店 與儀 明美

“膠原病”という言葉の響きには何かしらとらえどころの無い難病というイメージがあり、今回のスクリーニング講座で多少なりとも理解が深まればと思っておりましたが、予想以上に奥の深い内容で多くの事を学ぶことができました。その中でも重要だと思った事を報告します。

まず最初に、“膠原病”という名称ですが、疾患名や診断名ではなく総称であり、欧米では結合組織病とリウマチ性疾患をいいます。全身の複数臓器に慢性的な炎症を引き起こす疾患群であると。その為、甲状腺単一臓器の障害であるバセドウ病は自己免疫疾患であり、膠原病とは区別されます。

次に、“治療開始前に考えること”とし、10項目を掲げ、とりわけ、「免疫抑制剤の副作用リスクを評価」「重症度・治療リスク・治療効果から治療目標と治療法を選択」「予想される副作用の内容と発現時期を念頭におき、モニタリング計画を立てる」に留意することが大切で、特にステロイドの副作用については1ヶ月を単位とし、

開始当日……不眠、うつ、精神高揚、食欲増進

数日後……血圧上昇、電解質異常、浮腫（高用量の時）

2～3週間後……副腎抑制、血糖値上昇、コレステロール値上昇、創傷治癒遷延、消化管潰瘍リスク

さらに、1ヶ月以降についても段階的にみていき、時系列で考えていくことが大切とのことでした。

又、“治療前に行うこと”として、①ステロイド投与前に確認する（骨密度、血糖値、脂質 etc）、②免疫抑制剤投与前に確認する各種感染症のチェック、③悪性腫瘍のスクリーニングなど守りも固めていくことが大切と。

さらにいくつかの症例をあげていて、全身性エリテマトーデスの例では、全身への観察が必要で、臓器障害による影響を治療していき、皮膚症状の場合は例外で、その場合“遮光”の指導が必要で、薬を使用しない様にする為に紫外線防止クリームの使用がとても大切な生活指導になるとのことでした。

今回のスクリーニング講座は、もし自分が膠原病になった場合、副作用に対する不安は残るとしても納得した上で治療を前向きに捉えることができると思えた貴重な講座でした。

最後に、通信教育講座で1年間8冊（8疾患）のテキストに取り組み、十分に習得したとはいえないのですが、幅広い視野を持つことの大切さを改めて痛感しました。

<高血圧/危険因子と生活習慣>

薬志堂薬局 首里店 建本 満枝

今回、琉球大学保健管理センターの崎間敦先生に「高血圧/危険因子と生活習慣」について講座して頂きました。まずは、我が国における死亡リスク要因の第1位は喫煙で、第2位高血圧、第3位運動不足、第4位高血糖、第5位塩分の高摂取、第6位アルコール摂取の順と続きます。これらの生活習慣の改善が、リスク要因の低減となり健康寿命の延伸や健康格差を縮小する結果に繋がります。生活習慣の改善方法としては、以下の6項目です。①減塩、1日6g未満。②野菜・果物の積極的摂

取（ただし、腎障害や糖尿病患者には勧められない）、コレステロールの摂取を控え、魚油の積極的な摂取。③減量、BMI25未満。④運動。⑤節酒。⑥禁煙。

死亡リスク要因第2位の高血圧の症状の診断基準は、診察室血圧は140/90で、家庭血圧は135/85で、これら両方のこまめなチェックが必要です。また、健常な日本人は1日当たり約10.9gの食塩を摂取しており、高血圧患者の減塩目標値は1日6gです。そして、日本人は身体にナトリウムを貯めやすい体質の人が多く点にも留意しなくてはなりません。その為、血圧を下げるためには減塩指導が大切になってきます。すなわち、食品成分表を理解し食品購入時には減塩食品を選択すると云った認識を持ってもらう指導が高血圧患者には必要です。

ただし、減塩の継続は容易ではない理由から、減塩指導はとりあえずのレベルにして利尿薬を処方する傾向にあります。しかし、利尿薬にもマイナス面があり、それらは、①尿酸値の上昇や痛風の発症、②脱水症状や過降圧、③低ナトリウム血症、④低カリウム血症、⑤血糖の上昇、⑥血清クレアチニンの上昇、⑦頻尿によるQOLの低下等です。その為、利尿薬の使用は必要最低限の量に留めるのが投薬のポイントになります。近年、降圧剤と少量の利尿剤とを配合した薬の使用が多くなっており、その結果、服薬錠数が減少でき薬の服用率の向上に繋がっています。また、さらなるアドヒアランスの向上には、医療スタッフと患者がパートナーシップを築きコンコルダンス医療を続けることです。①家庭血圧の自己測定と記録の励行。②服用忘れの原因や理由の聞き取り。③処方単純化し、服用回数や服用錠数を減らす（配合剤の使用や一包化調剤）等です。

さらに、高齢者における要介護の2大要因は認知症と脳卒中であり、後者は血圧とサーカディアンリズム（概日リズム）に密接な関係があります。事実、血圧が一日の内で上が

る早朝から昼の時間帯に血栓性脳卒中、心臓突然死や心筋梗塞が起こりやすくなっており、高血圧はサイレントキラーと呼ばれる国民病の要因です。したがって、今回の講座を通して、生活習慣病の改善に向け全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に向けて努力する重要性を認識しました。

＜発達障害／薬にできること・できないこと＞

こくら虹薬局 儀間 祐希

こころクリニック精神科医の二木志保先生による講義「発達障害／薬にできること・できないこと」について報告します。

発達障害という概念についてですが、「個人の持つ発達の特性」をベースとして「環境とのあつれき」から生じる困難を障害とみなします。これまでは家庭や学校の問題とされ、母親や教師が責められがちでしたが、「子どもの発達特性の問題」と認識が改められています。広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）、注意欠陥多動性障害 AD/HD、学習障害 LDなどがあげられます。

自閉症は社会性の障害、言語コミュニティーの障害、想像力の障害です。乳児期の特徴として「あやしても顔を見たり笑ったりしない」「母親がいなくても平気」、幼児期の特徴として「言葉がほとんど出ない、会話に発展しない」「ある動作、順序、遊びを繰り返す、執着する」などがあります。そのため子どもに愛情を抱けない、子育ての楽しみを感じられないなど親子関係を上手く築けないケースも起きてしまいます。

薬にできることとしてADHD治療薬があります。メチルフェニデート徐放剤（コンサータ®）は中枢性刺激薬で覚醒作用があり、医師・薬剤師・医療機関は登録制となっています。アトモキセチン（ストラテラ®）は選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害薬で、少量より漸増しゆっくり効果が発現する薬です。他には、「易刺激性、興奮、不安」に対

しては抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬、漢方薬が、「抑うつ、気分変動」に対しては選択的セロトニン再取り込み阻害薬、気分安定剤が、「強迫、チック」に対しては抗うつ薬、抗精神病薬が、「睡眠障害」に対しては睡眠導入剤、抗精神病薬、漢方薬が用いられます。

子どもの精神科薬物療法における問題点として、保険適用外となりやすいこと、選択・処方責任が医師個人に委ねられること、公的なガイドラインがないこと、薬物使用に対する積極論と消極論の両極端であること、副作用・長期使用の影響に関して情報が不足していることなどが挙げられます。

薬にはできないけれど人にできることは「少数派が生きやすい環境を整えること」です。親子関係の難しさに寄り添う子育て支援もそのひとつです。個人の自律性を尊重し、無理なくありのまま生きられること、他者と繋がるソーシャルスキルを身に付けることが必要です。出来ないことばかりに焦点を当てるのではなく、伸びるところを伸ばして、その子が幸せに生きられるような環境作りが大切だと学びました。

学薬部会

国頭地区養護教諭研修会報告

期日：平成28年2月25日(木)

講話：保健室で使える薬品の Know How

講師：さくら薬局 ICHI 村上 市子氏 (学校薬剤師)

国頭地区養護教諭研究会

国頭地区養護教諭研究会は、国頭地区の小学校・中学校の養護教諭(65名)で、年に2回研修会を行っています。今回は、私達の業務で最も気を遣う応急処置。保健室に救急箱はあるけれど、実際にどんなものを使ったらよいのだろうか?と悩んでいる養護教諭も多くいます。最近ではアレルギー体質の子どもも増え、応急処置にはとても慎重になります。

そこで、私達が困っていること、知りたいことを学校薬剤師から学ぶ機会を持ちたいということで、学校薬剤師としてもご活躍なされている村上市子先生を講師にお招きし講話を行っていただきました。

研修会に参加された養護教諭から講話についての感想等や学校薬剤師に対する要望を、下記の通りまとめました。

<講話について感想等>

- とても良かった。難しすぎず家庭でも使える基本的な事で保健室に必要な知識が多かった。定期的を確認したいと思う。保健室での対応は本当に基本的な処置・対応で良いということがわかった。
- アレルギーなど気をつけながら薬品を使うように気をつけているけど、1番は来室した生徒との問診(やりとり)が大切と感じた。
- 現場ですぐにいかせる内容でわかりやすかったです。学校薬剤師を積極的に活用したいと思います。
- 普段、疑問に思ってもなかなか聞けないことだったので、貴重な講話を聞くことができて良かったです。
- アンケートの質問に答える形でお話が聞けたので、普段に疑問に思っていることが色々わかりとても良かった。
- これまでゆっくりと薬剤師さんと話をする機会がなかったため、大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。

<学校薬剤師に対する要望等>

- 薬物乱用防止教室、衛生検査など協力しながらできているのでとても助かっています。
- 日常的に聞きたい事はたくさんあるが、環境衛生検査の時くらいしか顔を合わさないなので聞きにくい(忙しそう)。
- 子どもや職員の講話ももっと聞きたい！学校へ関心のある方とそうでない方とハッキリ分かれている気がする！どこまで頼っていいのかわからない。
- もっともっと学校と関わって欲しい。
- これからもっと気軽に相談したい。
- 学校保健委員会への参加、ご協力を今後ともよろしくお願いします。
- 禁煙指導の問題が学校で出たとき、電話をしたら、外来以外の方法を快く教えてもらいました。とても有難かったし、学校薬剤師が身近に感じられました。

このように、普段なかなか聞けないことに対し、基本的なことから具体的な処置の仕方についてまで丁寧に教えていただき、私達、養護教諭の自信となりました。これからも子ども達の健康、安全を支えるために、養護教諭と学校薬剤師との連携を密にしていきたいと思えます。今後も学校保健へのご理解とご協力をよろしくお願いします。



写真提供：国頭地区養護教諭研究会

卸薬部会

日本医薬品卸勤務薬剤師会福岡県支部 平成27年度(第34回)継続研修会報告(その②)

日時：＜第3日＞2016年2月17日(水) 10:00～16:00

＜第4日＞2016年2月25日(木) 10:00～16:00

会場：株式会社 アトル 本社 大会議室(3F)



株式会社 琉薬
森下 彰久

この度、日本医薬品卸勤務薬剤師会福岡県支部主催の継続研修会に参加をする機会を得ました。本研修会は、4日間の日程(11月に2回、2月に2)に渡り開催されますが、今回はその内2月開催の2回分を報告します。2月の参加者も非常に多く会場は熱気に包まれていました。(その①は前号に掲載)

＜第3日(2月17日)＞

①本医薬品卸勤務薬剤師会

平成27年度フォーラム報告：

株式会社アステム 小倉支店
管理薬剤師 濱田 宏子氏

②乾癬：福岡大学 皮膚科学教室 教授

今福 信一先生

③発達障害の理解と対応：福岡大学 医学部

情報センター 安元 佐和先生

④膝炎：九州大学 病態制御内科学 准教授

伊藤 鉄英先生

各内容について簡潔にご紹介をさせていただきます。

【①の内容】

- 九州/沖縄は、自然災害(台風、水害、地震、噴火、土石流等)が多発する地域である。
- 卸における緊急事態としては、自然災害による水害/停電/破損等、機器等の故障、システム障害、ヒューマンエラー等が考えられる。
- 九州ブロックの医薬品卸17社に緊急事態

(アクシデント)のアンケート調査を実施したところ、全アクシデント報告数は134件であった。アクシデントの原因としては、自然災害38%、構造設備の故障・異常26%、ヒューマンエラー 25%の順であった。その中でも約半数が“温度異常”によるものであった。

- アクシデント対策のマニュアルは、何かしらのものがほぼ設置されている。
- 危惧される自然災害は各県とも“台風”が最も多く、次いで“地震”、“大雨による浸水”であった。
- 薬剤師は、要因分析や事前準備、マニュアル準備、周知、教育訓練に関わる必要がある。

【②の内容】

- 乾癬は、慢性の炎症性角化症。日本の有病率は0.3～0.4%(白人は2.1～2.3%程度)。日本では男女比が2:1。正常な皮膚に境界明瞭な隆起する紅色の局面、銀白色の鱗屑を付す。頭・爪・外耳道・腰部・臀部などに見られやすく、時に関節症状を伴う。
- 古典的な乾癬として、尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、液状乾癬の5つに分類される。
- 乾癬の治療には、4つの柱がある。外用療法(ステロイド、ビタミンD₃)、光線療法(PUVA療法・ナローバンドUVB療法)、内服療法(レチノイド・シクロスポリン・MTX・

PDE4阻害薬・JAK阻害薬)、生物学的製剤(抗TNF- α 、IL-12/23p40、IL-17A抗体)。

【③の内容】

- 病院におけるチャイルドライフで気にかけることは、“子供は病気にかかっても成長し発達する”ことと“周囲の言動や不安のために、子供の健康な部分まで病気にはいけない”である。
- 発達障害には、“自閉スペクトラム症(ASD)”、“注意欠陥(欠如)多動障害(ADHD)”、“学習障害(LD)”、“発達性協調運動障害(DCD)”がある。
- 自閉症の特徴は、“人との情緒的接触の乏しさ”、“コミュニケーションのための言語を使用しない”、“同一性保持への強い強迫症状”、“物に惹かれ、巧みな動作で器用に扱う”、“潜在的な認知能力は高い”である。
- 社会性障害の特徴は、“臨機応変な人との関わり方が苦手”、“相手の気持ちの理解や感情共有が出来ない”、“自分ルールの一方向的なかかわり”、“同年齢の子供との関係が築けない”、“自分の感情の表現が苦手”である。
- 想像力の障害の特徴は、“初めての場面が苦手/応用が効かない”、“考えや気持ちをリセットするのが不得手”、“いつも通りだと安心・見通しがないと不安”、“予定変更が苦手”、“状況に応じた結果の予測が困難”である。
- ADHDは、神経伝達物質(ドーパミンとノルエピネフリン)に依存する神経ネットワークの機能障害である。薬物治療では、中枢神経刺激薬コンサータや中枢神経非刺激薬ストラテラが使用される。

【④の内容】

- 膵癌(膵管癌)は、膵臓で作られる膵液が運ばれる管(膵管)の細胞から発生する。膵内分泌腫瘍は、ランゲルハンス島の細胞から発症する。

- 神経内分泌腫瘍とは、神経細胞や内分泌細胞から発生する腫瘍の総称であり、膵臓・下垂体・消化管(胃、十二指腸、小腸、虫垂、大腸)・肺など全身の様々な臓器に発生する。
- 膵癌は増加しており、主な部位別がん死亡率の推移では、男性5位、女性4位である。
- 膵外分泌機能検査には、“セクレチン試験又はセルレイン-セクレチン試験”、“PFD試験”、“便中キモトリプシン”、“血中膵酵素”がある。
- 膵内分泌機能検査には、“75g糖負荷試験”、“グルカゴン負荷試験”、“一日尿中CPR”、“アルギニン負荷試験”、“人工膵臓”がある。
- 日本での急性膵炎の発生頻度は、49/10万人/年で、男性の発生頻度は女性の約2倍である。重症例は19.7%。

<第4日(2月25日)>

- ⑤病診薬の連携：九州大学病院
教授 薬剤部長 増田 智先 先生
- ⑥日本医薬品卸勤務薬剤師会
平成27年度フォーラム報告：
株式会社アステム 薬院フロント
土師 清氏
- ⑦日本薬剤師会 卸薬剤師部会研修会報告：
富田薬品株式会社 久留米支店
管理薬剤師 志水 貴氏
- ⑧卸勤務薬剤師会 現在と今後の展開：
日本医薬品卸勤務薬剤師会
事務局長 徳久 安男氏
- ⑨救命救急：久留米大学 高度救命救急センター
教授 山下 典雄 先生

各内容について簡潔にご紹介をさせていただきます。

【⑤の内容】

- 九州大学病院は、国立大学の中でも最も大きい病院(病床数：1,415床)である。薬剤部に勤務している薬剤師は92名、非薬剤師を含めると100名を超える大所帯であるが、まだまだ充足していない。

- 医薬分業の現状について、平成25年の分業率は、67.0%、平成26年度の方業率は、68.7%であった。平成25年度時点で、57,071薬局、76,303万枚の処方箋が発行されている。
- チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することである。
- 病診薬連携のためには、具体的な連携方法の検討/運用の改善と徹底/連携による有用事例の収集/情報共有のためのシステム開発が必要であるとのこと。その中での検討事項としては、処方箋の不備に関する意見交換/疑義照会等に関する意見交換/包括合意事項/処方箋への検査値印字等である。
- 九州大学病院では、2010年度からがん化学療法の方診薬連携セミナー〔内容：標準治療の解説、入院中・外来化学療法室での治療、症例提示（服薬指導と副作用対策）、緩和ケアの実際〕を開催したり、緩和ケアのグループワークを福岡市薬剤師会と共同で行われている。

【⑥の内容】

- 日本医薬品卸勤務薬剤師会の設置から現在に至るまで、フォーラムの経緯、フォーラムで発表された厚生労働省 医政局 経済課課長 大城友弘氏による“医薬品産業政策の現状と課題”についての報告がなされた。
- 大西課長からは、人口構造等の環境変化、社会保障制度改革の動向、ジェネリックの使用促進と医薬品産業強化総合戦略の策定、薬価・診療報酬制度の改革、流通改善に向けた取り組みが取り上げられたようだ。

【⑦の内容】

- 研修会で発表された参議院議員 前文部科学副大臣 藤井基之 先生による“薬剤師を

巡る最近の話題について”の中から、I. イノベーションの推進、II. 質の高い効率的な医療の実現、III. グローバルな視点での政策の再構築の説明がなされた。

- I. イノベーションの推進では、“臨床研究・治験活性化等”、“産学官の連帯強化（大学発優れたシーズの実用化）”、“保険償還価格におけるイノベーションの評価”が取り上げられた。
- II. 質の高い効率的な医療の実現では、“基礎的医薬品等の安定供給の確保”、“後発医薬品の使用の加速化”、“流通の安定化・近代化、適切な価格形成の促進”が取り上げられた。
- III. グローバルな視点での政策の再構築では、“国際支援”、“国際薬事規制調和戦略の推進”、“医薬品産業の将来像”が取り上げられた。

【⑧の内容】

- 卸勤務薬剤師会の事業としては、委員会活動、会議、フォーラム、研修会、卸連合会、実務実習、DI実例がある。
- 卸勤務薬剤師の動向報告では、10年間の本社減少数が50社（現在の本社数は82社）、10年間の会員減少数は163人（現在の会員数は1,926名）とのこと。
- 平成27年度実務実習薬学生受入状況（平成27年12月25日時点）の報告では、全国で6,483名、沖縄県では22名である。
- 公正競争規約の目的は、公正な競争のルールを遵守することで、過大な景品提供による医療機関・医師・薬剤師の適正な選択が歪められないことと公的保険制度のもと公正な競争による透明性の高い事業活動の実行である。
- 具体的なQ&Aでは、I. 薬学生の実務実習の依頼を受けた。応じて大丈夫か？その実務実習で当社の会議室を使用するのは問題あるか？→規約違反には該当しない。理由としては、実務実習対象者が薬学生のため、

取引付随性はないためである。

【⑨の内容】

- 平成26年度救急出動件数は598万件、搬送人員は540万人で増加している。
- 救急車の現場到着から病院収容までの所要時間は、全国が28.2分であるが、福岡県では20.5分とここ数年全国1位の状態が続いている。
- 沖縄県は、島国で救急車以外にドクターヘリも配備されている。
- ドクターヘリの出動件数も年々増加しているが、個人から直接ドクターヘリを呼ぶことは出来ない。また、ドクターヘリ現場出動基準が設定されている。

○災害時に薬剤師会に求められる活動として、“急性期～亜急性期：DMATを主とする活動のロジスティック”、“亜急性期～慢性期：JMATを主とする活動のロジスティック”がある。

大学病院に勤務されている医師の話は、基礎的な内容から最新の情報に至るまで分かりやすく、具体例を用いての説明により一層理解を深めることが出来ました。今回得た新たな知識を日々の業務にも活かしていきたいと思えます。本研修会への参加を今後も卸勤務薬剤師会 沖縄県支部の活動の一つとして継続出来ればと考えています。

卸薬部会

平成27年度
日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告

日時：平成28年2月4日(木) 10:30～16:30
会場：日本薬学会 長井記念ホール



株式会社 琉薬
城村 幹彦

1. 講演「医薬品産業政策の現状と課題」

厚生労働省医政局経済課 課長 大西 友弘 氏
近年、我国における人口構造の変化、つまり急速に進行している少子高齢化により社会保障制度の改革が急務となっている。2013年の総人口1億2千730万人は2060年には9,000万人を割り込むところまで減少すると予想されている。また、先進諸国の何れの国も高齢化の傾向にあるが、日本は高齢人口の増加傾向が著しく、2060年には全人口の約40%が65歳以上の高齢者で占められるようになる。差し当たり、団塊の世代が75歳以上を迎える2025年に向けた社会保障政策が重要となっている。また、地域間のばらつきも大きく、2040年までの人口減少率は最低の沖縄-1.7%に対して、最大の秋田県では-35.6%と予想され

ている。世帯構成を予測すると、高齢女性の一人暮らしが増加するものと思われる。我国の財政状況を見ると、歳出は毎年増加しているが、税収は横ばい又は減少傾向にあり、平成27年度は一般会計で歳入が約60兆円に対して歳出が約100兆円であり、赤字分を国債で賄っている状況である。更に特徴的なのが、社会保障関係費の割合で、一般歳出の55%を占めるほどに増加しており、今後さらに増加が予想されている。社会保障費の中では、医療費が38.7%、介護が9.8%、福祉が13.3%、年金が37.7%で、医療と介護で47.5%金額で14.5兆円となっている。

この少子高齢化に伴う社会保障費の増大と高齢人口の増加問題の解決策として政府は、①ICT化の推進、②医療の国際展開、③社会

保障制度改革、④ジェネリック使用促進、⑤医薬品産業の強化、⑥薬価・診療報酬制度改革、を実行して行く。ICT化推進では医療介護サービスの質向上、医療の効率化・適正化、研究開発の促進を目指しており、医療機関や介護施設で患者の情報を効率的に連携した「医療情報ネットワーク」の構築を推進して行く。また、ネットワークで得られた情報を分析することによりエビデンスに基づく政策の企画・立案を行うと共に研究開発の促進を目指す。実現には医療情報の規格の標準化が必須であり、共通フォーマットの開発が急がれている。

医療の国際展開では、日本の高い医療技術を武器に医療サービスの国際展開を念頭に「医療国際展開タスクフォース」を設置し、医療国際展開推進事業政策を実施して行く。社会保障制度改革においては、社会保障とは国民の安心と生活の安定を支えるセーフティネットであることを念頭に、年金・医療・介護からなる社会保障、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生全般を見直すこととする。我国の社会保障の特徴は、①国民皆保険・皆年金体制、②社会保険方式への公費投入、③被雇用者と自営業者の区分分け、④国と地方自治体とで役割分担の4点となっている。1980年代から急増傾向にある社会保障費であるが、対GDP比を先進諸国の水準と比較すると19.5%の米国よりは高いが、25.0%のイギリスよりは低い23.1%で5番目である。しかし、高齢化に伴う今後の予想では全体の給付額の伸びよりも内訳となる特に医療・介護の伸長が課題である。2000年度と2015年度を比較した場合、介護給付は2.8倍に増加している。また、認知症高齢者数も現在の345万人が10年後には470万人に増加すると予想されている。この社会情勢に対応するために、地域包括ケアシステム構想の実現が必須であり、薬局においても積極的な参加が求められている。さらに政策では「社会保障・税一体改革」を打ち出し、平成24年に成立した社会

保障改革推進法に基づき、①病院・病床機能の分化・強化、②在宅医療の推進、③医師確保対策、④チーム医療の推進、を改革の骨子として様々な法整備を推進中である。

2. 会員発表

テーマ「地域における卸勤務薬剤師の活動について」

1. の特別講演の後、会員各社により4題の活動報告があった。

演題1

「受注担当者に対する教育訓練の関わり」

株式会社スズケン城北事業所・田中氏

演題2

「四国における卸勤務薬剤師の現状等
～薬剤師の採用難～」

株式会社アステム本社・住田氏

演題3

「緊急時の医薬品等の品質・販売管理に
対する薬剤師の役割」

株式会社アステム小倉支店・濱田氏

演題4

「卸薬剤師の問い合わせ業務についての考察」

株式会社スズケン高岡支店・和田氏

3. グループディスカッション

2. の会員発表を題材に7～8人の小グループに分かれて、グループディスカッションが行われた。

各グループとも演題に係るテーマを一つ選択し、日常業務での課題、対応方法などについて活発な意見交換がなされた。

【感想】

くしくも診療報酬（調剤報酬）の時期と相まって、今後の政府の医療政策に対する考え方、方向性を理解するうえで貴重な研修会となった。薬剤師として研鑽を積み重ね、地域医療への参加、選ばれる薬剤師にならないといけないと強く感じた。

月例相談会

第129回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年2月7日(日) 14:00～16:00

場所：小浜公民館(竹富町)

担当：八重山地区薬剤師会

新高薬局
新嵩 由香

八重山地区薬剤師会では、年1回場所を変え、健康とおくすり相談会を開催しています。今年は去る2月7日の午後2時から4時の予定で、石垣港より30分の場所にある小浜島の公民館で開催しました。小浜島は人口約600名、330世帯があり、周囲16.6kmの島です。NHKの連続テレビ番組「ちゅらさん」で有名になった所でもあります。相談会の開始時間まで会場近辺を散歩してみたのですが、もの凄く静かな所です。島には、沖縄県立八重山病院小浜診療所があり、通常は診療所で診療・投薬までできるようですが、何かあると石垣島まで船で渡り受診となるようです。

今回、会員8名、沖縄県立八重山病院から副院長、薬剤師3名で島へ渡りました。

まず、小浜島の管轄である竹富町の岸上保健師さんが「脈について」(3月9日は脈の日だそうです)、次に沖縄県立八重山病院の玉城副院長による「八重山郡民の皆様へ 多くの疾患の治療は八重山病院で完治できます」という演題で講演をしました。実際に脈を自分でとってもらったり、医師やその他の医療職の勤務体制など興味深いお話をされていた。

講演後の1時間半は、健康とおくすり相談の時間です。この時期はキビ刈りの時期でもあり、忙しくしていると聞いていたのですが、14人の方が来られました。みなさま高齢者でしたが、お元気でしっかりと歩いて来られていました。来客数14人に対し、12人のスタッフでしたので、ほぼマンツーマンでの相談となりました。玉城副院長は、以前に小浜島診療所で勤務をされていたこともあり、とても

積極的に相談に応じられ大変助かりました。お薬手帳を持っている方は相談会に持参して来てくださると、前もって広報をしていたので、多くの方が持参して来て話がスムーズにできたのですが、中には島の診療所で診てもらい投薬も診療所なのでお薬手帳は不要であるという方もおられたので、お薬手帳を活用することの推進もしました。お薬手帳を見ながら、服用方法の確認や飲み合わせの不安について、普段の生活上の注意事項などの質問が多かったです。診療所勤務の看護師も来られ、吸入器の使用方法の確認をして欲しいという要望がありました。看護師さんは、自分の記憶やユーチューブを見ながら指導しているの不安とのことでした。

今回は1時間半程度の相談会であることと、船で渡ることから、血圧計のみを持参しましたが、それで問題ないように思いました。マンツーマン状態でお話をさせていただいたため早めに終了となりました。キビ刈りで忙しい時期にもかかわらず来客された方々へ感謝をしながら島を後にしました。が!!!午後4時までと広報していたので4時前に戻りましたが、誰も居なかったという声があり、広報した時間まではちゃんと居るべきであったと反省しました。



写真提供：八重山地区薬剤師会

◆健康とおくすり相談員(順不同・敬称略)

- 荒谷 敏巳 ○山城 専 ○宮良 善朗 ○宮良 長博 ○石垣 綾子 ○新嵩 由香
○番場 勇 ○金城 智史 ○沖縄県立八重山病院・副院長と薬剤師3名

月例相談会

第130回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年2月14日(日) 10:00～15:30

会場：糸満市役所ロビー内

担当：南部地区薬剤師会



なごみ薬局
伊敷 松太郎

去る2月14日(日)に開催された糸満市健康福祉祭り内にて行われた、健康とおくすり相談会に参加させていただきました。今回参加したお薬相談会は、健康づくりの正しい知識の啓発や、心豊かに過ごせる福祉のまちづくり推進が目的の健康福祉まつりの一環として行いましたが、同日には他に、市民と団体、団体同士が交流することで、新しい取り組みを生み出そうとする「糸満まちづくりカフェ」や、てくてくウォーキング大会など、複数の催しが合わせて開催されました。

今回はお薬相談に加え、動脈硬化測定も合わせて行い、糸満市役所の一部のブースを借りての相談会でしたが、当日はすでにブースの用意もしっかりできており、到着したときには諸先輩方にすっきり出遅れる形となりました。

薬剤師会ブースでは、動脈硬化測定機器が目をつけたようで、看板等も出していないにもかかわらず、道すがら、気になって相談に来る方も多くいらっしゃいました。

相談者は20代～80代と幅広い年齢層の集まりで、男女差はそれほどありませんが、今回の健康福祉祭りに参加するために来場した参加者がほとんどで、健康への意識は高いようです。

動脈硬化測定では、血管内の圧力変化である「圧脈波」から計算されたAI (Augmentation Index) より、動脈硬化の程度を評価するものですが、測定の際、自分はなかなか血管の位置を探せず、だいたひ、相談者の方をお待たせしてしまう、一幕もありました。

相談では、今回の測定結果に加え、健康相談、お薬相談など多岐にわたり相談を受けましたが、やはり動脈硬化度への興味が集中していたように思えます。本結果を目安として、改めて病院への受診勧告や食事相談を行うのですが、検査結果を目に、まだ大丈夫？と不安げに質問される相談者の方が多数いらっしゃいましたが、先輩薬剤師の誠実な対応に、安心して帰る姿が見られました。

診療報酬の改定に伴い、お薬相談など、地域での貢献活動もかかりつけ薬剤師の要件の一つと明記されましたが、こうした日々の活動こそが、まさにかかりつけ薬剤師の地位を確かなものとしていくのでは、と感じています。

次回もぜひ参加したいのですが2月14日の予定が他に全くないのも、何か悲しいものがあります…。

□健康とおくすり相談員 (順不同・敬称略)

○新垣 秀幸 ○伊敷 松太郎

月例相談会

第131回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年2月21日(日) 13:00～16:00
 場所：サンエー 経塚シティ (浦添市)
 担当：那覇地区薬剤師会



ミント薬局 牧志店
 小湾 喜彦

去る2月21日(日)にサンエー経塚シティ店にて健康とおくすり相談会が行われました。

私自身、初めての参加で、どのような方たちが相談に来られるのかとても興味がありました。午後1時～4時の開催で、午後12時半頃から会場設営を行い、開始前から「いつ始まるの?」「毎月あるの?」などの質問があり、みなさんご自身の体に関心がある様子でした。

高齢者の方が多いと思っておりましたが、20代、30代の方やカップル、家族で参加という方もいました。

体組成分析測定(体重測定もあり)、血圧、動脈硬化測定を行った後に生活アドバイスです。

30代男性→服薬なし、運動習慣あり、身長体重、血圧のバランス、食生活も良く、今後もこの生活を維持するようお話しして終了しました。普段から健康に気にかけている方は、このような相談会にも積極的に参加して下さるのだと思いました。

70代女性→服薬なし、運動習慣なし。アメリカでの生活が40年で、たまに沖縄に帰省するとのこと。糖尿の気があるのが気がかりですが、食生活は肉中心。なかなか食生活を変えられないとのこと、よく噛んで食べる、間食は甘いものを控える、無理の無い程度に運動をするなどとお話ししました。

70代女性→服薬あり(降圧剤)。お薬を飲み始めて10年近く。もう血圧も安定しているためにお薬をやめたいがどうしたらいいかとの質問で、お薬飲んで血圧下がっているの自分で中止しないよう、主治医と相談するようにとお話ししました。

その他に、運動不足で体重が平均より多い方が膝が痛いのであまり運動ができないという方が多くいました。沖縄の人は歩かない人が多いので、どうしても運動不足で体重が増えてしまいます。もう少し食生活や生活習慣を見直す必要があると感じました。



写真提供：那覇地区薬剤師会

■健康とおくすり相談員(順不同・敬称略)

- 姫野 耕一
- 吉田 洋史
- 鈴木 一徳
- 盛本 直也
- 廣川 直子
- 小湾 喜彦

啓発・普及活動

平成27年度 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告

去る2月24日(水)～25日(木)の2日間の日程で、那覇市鏡水ふれあい会館(那覇市小祿)にて、沖縄県老人クラブ連合会主催のもと、標記講習会が開催された。

1日目の24日(水)に、本会会員の渡慶次全康先生(開南薬局)が講師となって、「東洋医学からの提言」と題して講義をされた。

2日目の25日(木)には、本会会員(那覇地区薬剤師会から派遣)の具志堅興信先生と鈴木一徳先生が講師となって「くすりの正しい使い方」と題して講義をされた。

2日目の講義を取材してきた。70余名の老人クラブ連合会会員と一般の高齢者が受講されていた。

健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」は、各地区(市町村)老人クラブ連合会において、健康と生きがいづくり活動を推進するため、その担い手となるリーダー(講習会終了後、生きがいと健康づくりに指導的実践者となる者)を養成することで、高齢者の健康づくりと生きがいづくりの支援・推進を図る目的で開催しているとのこと。

高齢者は、加齢とともに薬を使用する機会が増え、また複数の薬を使用することも少なくない。薬についての知識と理解を深め、その正しい使い方や保管の仕方についての学習の場と、また、医療費高騰による財政圧迫を

抑制するための後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用について理解を深めるよい機会になったと思われる。

両先生は、受講者が高齢者ということで、配布資料の活字だけの講義ではなく、パワーポイントを使用した分かり易く丁寧な講義をされていた。特に、具志堅興信先生の地元での開催ということもあり、先生をご存じの受講者が多く、ユーモア溢れる講話をされ、和気あいあいとした雰囲気を受講者を引きつけ、楽しく学んでいられたのが印象的だった。講義後の受講者からの質問についても丁寧に答えておられた。

受講者にとって、薬は手放すことができないものであり、このような講習会を機に薬剤師に親密感をおぼえ、かかりつけ薬剤師・薬局を持っていたらと思った。

(報告:事務局 大城喜仁)



啓発・普及活動

未来の産業人材育成事業「職業人講話」について

沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部（本部長：翁長県知事）が取り組んでいる「みんなでグッジョブ運動」は、沖縄県の雇用情勢を全国並みに改善するため、県民が一丸となって取り組む運動で、その中で具体的に取り組んでいる事業に「未来の産業人材育成事業」がある。同事業は、県経済における重点産業でありながら人材確保や人材育成等に課題を抱える7つの産業（観光、情報通信、建設、福祉、医療、文化、物流）を選定し、業界と連携しながら未来を担う産業人材を輩出するため、児童生徒を対象としたプログラムを実

施する事業。将来の沖縄県の産業界を担う子ども達に対して、早期から産業人材育成を目指して魅力発信のための啓蒙活動を行っている。ちなみに、本会会長も沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部のメンバーになっている。

児童生徒のキャリア教育の一環として、「業界の魅力」「仕事に対する想い」等を伝える同事業の取り組みに、本会も賛同して「薬剤師職能PR」を兼ねて事業展開をしている。

今回、本会会員の山城晶氏が講師となって下記の日程で「薬剤師職能PR」を行ったことを報告する。（報告：事務局 大城 喜仁）

日時：平成28年2月15日（月）5・6校時（14:05～15:40）

場所：久米島町立清水小学校 教室

対象：久米島町立清水小学校 6学年 27名

内容：3産業（建設・福祉・医療）から講師を招聘し、職業人講話を行った。



2016年3・4月号 : Vol. 31 No. 2
薬事情報センター TEL : 098-963-8931
FAX : 098-963-8937

薬事情報おきなわ No. 238

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成28年4月20日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
内 用 薬	ボンビバ錠100mg	100mg1錠	2,790.00	中外製薬	イバンドロン酸ナトリウム水和物 :骨粗鬆症治療剤(骨粗鬆症)(新投与経路)
	タルグレチンカプセル75mg	75mg1カプセル	2,797.90	ミノファージェン製薬	ベキサロテン :抗悪性腫瘍剤(皮膚T細胞性リンパ腫)(新有効成分)
注 射 薬	レパーサ皮下注140mgシリンジ	140mg1mL1筒	22,948.00	アステラス・アムジェン・バイオファーマ	エボロクマブ(遺伝子組換え) :ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体製剤(家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。)(新有効成分)
	レパーサ皮下注140mgペン	140mg1mL1キット	22,948.00		
	リクスビス静注用500	500国際単位1瓶(溶解液付)	57,744.00	バクスアルタ	リナコグ ガンマ(遺伝子組換え) :遺伝子組換え血液凝固第IX因子製剤(血液凝固第IX因子欠乏患者における出血傾向の抑制)(新有効成分)
	リクスビス静注用1000	1,000国際単位1瓶(溶解液付)	114,279.00		
	リクスビス静注用2000	2,000国際単位1瓶(溶解液付)	226,162.00		
リクスビス静注用3000	3,000国際単位1瓶(溶解液付)	337,159.00			
外 用 薬	ベンテイビス吸入液10μg	10μg1mL1管	2,386.50	バイエル薬品	イロプロスト :プロスタグランジンI2誘導体制剤(肺動脈性肺高血圧症)(新有効成分)
	ルコナック爪外用液5%	5%1g	997.80	佐藤製薬	ルリコナゾール :爪白癬治療剤(<適応菌種>皮膚糸状菌(トリコフィトン属)<適応症>爪白癬)(新効能・新剤形)
	プロボコリン吸入粉末溶解用100mg	100mg 1瓶	7,378.30	三和化学研究所	メタコリン塩化物 :コリン作動薬(気道過敏性検査)(新有効成分)
	ケンブラン吸入粉末溶解用100mg	100mg 1瓶	7,378.30	参天製薬	

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。



Medical News

●兵庫県立こども病院投薬ミス 専門医「非公表は問題」(神戸新聞 2月10日, 2月11日)

昨年3月、医師が心臓病で入院中の乳児に、血液を固まりやすくする血液製剤を静脈注入する際、誤って血圧降下薬を投与した。乳児は一時、呼吸困難などの中毒状態になった。治療により中毒状態は脱したが、その後に容体が悪化し、約2カ月後に持病の心臓病で死亡した。血液製剤と血圧降下薬の色が似ていたことなどが投与ミスの一因とみられている。家族の申し出により非公表となっていた。専門医や別の患者家族からは「家族の意向を理由に医療過誤を公表しないのは問題」との声が上がっている。病院は遺族に対し、投薬ミスと死亡に因果関係はない、と説明しているという。

●インスリン、麻酔薬と間違え投与 病院「保管態勢ミス」(朝日新聞 2月22日)

久留米市の病院で昨年12月、非常勤医師がインスリンを麻酔薬と間違え、別の患者に注射していたことが分かった。病院は薬品の保管やチェック態勢にミスがあったと

謝罪した。同病院によると、皮膚科を受診した女性患者に、医師が局所麻酔薬と誤ってインスリン1mLを注射。効果がないためさらに1mLを注射し、その後瓶を確認して誤りに気づいたという。原因を調べたところ、使いかけのインスリン容器が薬剤科に返されずに、冷蔵庫内の局所麻酔薬の棚のそばに一時保管されたため、看護師が取り違えた。さらに、注射器に薬剤を吸引する際に確認を怠っていた。注射した量は、通常量の数十倍という。女性は寒気などの低血糖の症状を訴え、緊急措置後に数日間入院した。

●投薬遅れ死亡と認定 逆転で山形県に賠償命令(共同通信 2月29日)

山形県立河北病院で再生不良性貧血の治療を受けていた女性が死亡したのは、投薬治療が不適切だったためだとして、計2365万円の賠償を県に命じた。病院は2002年12月に症状が改善したとして、治療に有効な薬の投与をやめた。裁判長は「03年2月時点で、検査結果から病気の再発は明らかで、投薬を再開する義務があったのに怠った」と指摘、病院側の過失を認定した。病院は重症になった03年4月に投薬を再開したが、女性はその後6カ月後に合併症の肺炎で死亡した。

●小児薬の情報収集システム稼働—添付文書への追加など検討(薬事日報 3月17日)

厚生労働省は、国立成育医療研究センター内に設置している「小児医療情報収集システム」の稼働を開始した。厚労省は、2月末までに小児医療施設等から約14万人分のデータを収集した。データは同センターで解析され、レポートを作成する。まとめられた安全性情報などは、将来的に小児薬の治験に提供されたり、小児に関する安全性情報の添付文書への追加に活用される予定。

●インフルエンザ死亡率、沖縄が全国最悪 10～14年平均1.2(琉球新報 3月22日)

2010～14年の人口10万人当たりのインフルエンザによる死亡率が沖縄県は全国一高かったことが18日までに分かった。5年間の平均は1.24人で最も少ない和歌山県の0.14人の2.7倍。県立中部病院感染症内科・地域ケア科の高山医師が人口動態調査を基に算出。詳細な原因は不明だが、「県内は高齢化率は低いにもかかわらず死亡率が高い。どうして重症者がいるのかを考えるべきだ」と問題提起している。

●第101回薬剤師国家試験、合格者は過去最多の1万1488人(薬事日報 3月30日)

厚生労働省は28日、第101回薬剤師国家試験の結果を発表した。受験者数1万4949人のうち、合格者は過去最多の1万1488人で、合格率は76.85%だった。合格率上昇は、直近2回の国試に比べ、試験問題の難易度が下がったことが主な要因と見られるが、厚労省は、「薬剤師として本当に必要な知識を問う問題が増えたためではないか」としている。

●抗菌薬、使用量を3分の2に削減…初の耐性菌対策案(読売新聞 4月1日)

抗菌薬(抗生物質)が効かない薬剤耐性菌に対し、政府が初めて策定する行動計画案がわかった。抗菌薬は、大量に使うことで耐性菌を増やすことにつながるため、使用量を2020年までに3分の2に減らす数値目標を盛り込んだ。行動計画が掲げた数値目標は、肺炎球菌や大腸菌、黄色ブドウ球菌などの耐性菌の割合を、大幅に引き下げることも盛り込んだ。

●処方箋1回量併記、わずか15%—現行ルール未だ遵守されず(薬事日報 4月8日)

内服薬の処方箋記載方法について、厚生労働省保険局の通知で1回量と1日量を併記することが義務づけられているにもかかわらず、実際に処方箋に併記している医療機関は14.5%にとどまるのが、厚生労働科学研究班の調査で明らかになった。研究代表者の土屋氏は「まず現行の保険上のルールを遵守することが必要」と話している。

●疑義照会関連が20%突破—薬局ヒヤリ・ハット下半期～PMDA(薬事日報 4月12日)

日本医療機能評価機構は、2015年7～12月までの薬局ヒヤリ・ハット事例集計報告を公表した。報告件数は2450件で、調剤関連が前回より1934件(78.9%)と減少した一方、疑義照会関連は511件(20.9%)に増加した。特に疑義照会関連事例の大半は医療機関での処方誤りに薬局で発見した事例だった。疑義があると判断した理由については、「処方箋と薬局で管理している情報で判断」(46.0%)が最も多く、仮に変更前の処方通りに服用した場合の影響については、患者に健康被害があったと推測される事例が64.8%に上った。具体的な事例として、禁忌薬剤の併用処方等が報告されている。一方、調剤関連の内訳は「数量間違い」が562件で最も多く、「薬剤取違い」が395件、「規格・剤形間違い」が293件と続いた。

●「接種推奨中止を憂慮」子宮頸がんワクチン(朝日新聞 4月20日)

日本産科婦人科学会や日本小児科学会など15団体が参加する「予防接種推進専門協議会」は、厚生労働省が接種の推奨を中止している子宮頸がんワクチンについて、「ワ

クチンによるがん予防の恩恵を受けられないことになり、極めて憂慮すべき事態」などとする見解を発表。海外でワクチンの有効性が示されているとし、接種を積極的に推奨するとしている。健康被害に対応する医療機関が全国的に整備されるなど、「十分な体制が整ってきた」としている。

●【PMDA調査】「ラミクタール」安全性速報—薬局の2割が情報知らず(薬事日報 4月21日)

保険薬局で抗てんかん薬「ラミクタール錠」の安全性速報(ブルーレター)による注意喚起の内容を知っている割合が8割にとどまり、2割近い薬局では情報が知られていなかったことが、医薬品医療機器総合機構(PMDA)が実施した調査で分かった。調査は、昨年10～12月にかけて全国の保険薬局の1割に当たる5664施設を対象に行った。回収率は68.2%。PMDAは「副作用のフォローなど、かかりつけ薬剤師に求められる機能を果たすため、薬局で日頃取り扱っている医薬品に限らず、全ての医薬品に関して重要な安全性情報は最低限入手し、継続的に管理することが望まれる」とした。

●【熊本地震】派遣薬剤師、全国から募集—日本薬剤師会(薬事日報 4月21日)

日本薬剤師会は、20日から熊本地震の被災者に対する支援活動を本格化させる。避難者に対する医薬品の供給やJMAT(日本医師会災害医療チーム)の活動に応じた調剤に対応するため、救護所がある避難所に1日当たり薬剤師15人を派遣することを想定し、現地に派遣する薬剤師を全国から募集している。

●インフル薬で1人死亡 添付文書改訂を指示(共同通信 4月22日)

厚生労働省は21日、塩野義製薬のインフルエンザ点滴薬「ラビアクタ(一般名ペラミビル)」で、副作用とみられる急性のアレルギー症状で1人が死亡したと明らかにした。添付文書の使用上の注意で、同症状を示す「アナフィラキシー」を重大な副作用として追記するよう改訂を指示した。厚労省によると、2013年度以降、ラビアクタとの因果関係が否定できないアナフィラキシーが8人報告され、うち今回の1人が死亡した。年間約17万人分が使われているという。

●C型肝炎薬で1人死亡 B型が活性化、注意喚起(共同通信 4月25日)

Bristol-Myers Squibbは25日、C型肝炎治療薬「スンベプラ」「ダクルインザ」の併用療法で、副作用とみられるB型肝炎ウイルスの再活性化が起き1人が死亡したとして、投与時にB型肝炎の検査をするよう注意を呼び掛けた。同社によると、B型肝炎ウイルスに感染したことがあるC型肝炎の患者に2剤を投与し、C型肝炎ウイルスは減少したがB型肝炎ウイルスが増えて肝機能障害となった症例が2例報告された。うち50代の女性1人が死亡したという。同社は、投与前にB型肝炎ウイルスの感染の有無を確認し、投与中は肝機能やB型肝炎の兆候に注意するよう求めた。

●腎臓病「偽陽性」 中高生で後絶たず(神戸新聞 4月25日)

国が小中高校に義務づけている「学校検尿」。早期の治療を可能にし、腎不全になる子どもを激減させた。一方で、採尿の知識不足などにより、偽陽性になるケースが後を絶たず、再検査の費用と手間が自治体財政や児童生徒の負担となっている。家での採尿の注意点は以下の通り。
□前日夕からビタミンC入りの薬やスポーツ飲料を飲まない→潜血反応の偽陽性を防ぐ
□前日、寝る前に必ず排尿する→運動後は健康な人も尿にタンパク質が混じるため
□朝起きてすぐの尿を採取する。ただし出始めの尿は捨て、中間尿を取る→生理の血や精液の混入を防ぐ

10~12月に薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】*H. pylori*の三次除菌にフラジール(メトロニダゾール:MNZ)が出ているが、1日1000mgは多くないか？(薬局)

【回答】*H. pylori*感染症の三次除菌は、耐性菌の増加による二次除菌失敗例や薬剤アレルギー等で通常の除菌薬が使用できない場合に必要となる。三次除菌に使用されるMNZの投与量としては以下の臨床例が報告されている。

- ・PPI+MNZ500~1000mg+MINO100~1000mg
- ・PPI+CAM800mg+MNZ500~1000mg
- ・AMPC1500mg+MNZ1200mg+次硝酸ピスマス等
- ・ラベプラゾール40mg, MNZ1000mg, STFX200mg

ただし、*H. pylori*感染症の三次除菌失敗後の四次除菌の報告もされているが、三次除菌以降は保険適応外である。除菌成功後の癌検診はもちろん、肥満や高脂血症などの生活習慣病についての生活指導も忘れてはならない。

*「*H. pylori*感染の診断と治療のガイドライン2009改訂版」における三次除菌

- 1)キノロン中心の除菌療法 (PPI+ AMPC +LVFX)
- 2)高用量二剤療法 (高用量PPI+AMPC)の4回投与方法

*AMPC:アモキシシリン, LVFX:レボフロキサシン, MINO:ミノサイクリン, STFX:スタフロキサシン
参考:三次除菌の現状(東京厚生年金病院):第11回東京UGI研究会(2012)、「*H. pylori*感染の診断と治療のガイドライン2009改訂版」、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の最前線:古田隆久(CLINICIAN60(621))、日本消化器病学会HP他

【質問】今まで乾燥甲状腺チラーゼン末0.07g/日で治療していたが、チラーゼン末が販売中止になったので、チラーゼンS錠(レボチロキシンナトリウム)に変更したい。換算法は？(薬局)

【回答】チラーゼン末50mg(文献上では40~60mg)に対してチラーゼンS錠100 μ gで換算する。各製剤の半減期も異なることから、患者の臨床症状・臨床検査値を確認しながら上記の換算を目安とする。

▶チラーゼン末0.07gをチラーゼンS錠に換算すると117mg~175mgとなる。(50mg錠であれば、2.3T~3.5T)乾燥甲状腺末は動物の甲状腺を乾燥したもので、T4/T3含有比は3~5とバラツキがあった。

*「日本薬局方乾燥甲状腺チラーゼン末」経過措置期間終了(2016.3.31)

*半減期:チラーゼン末:不明。チラーゼンS:正常機能6~7日、機能低下9~10日

参考:北村正樹:チラーゼンSの不足にどう対応?:日経メディカルonline(2011/3/21)、添付文書

【質問】イフェクサーカプセル(ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル)の脱カプセルは可能か。(薬局)

【回答】イフェクサーカプセルの脱カプセルでの投与は臨床試験も行っておらず体内動態も不明である。徐放性製剤のため、添付文書にも「カプセ

ルの内容物を砕いたり、すりつぶしたりして服用すると、本剤の徐放性が失われ、血中濃度が上昇するおそれがある」と記載されている。仮にカプセルを外して粉碎せずに投与した場合、徐放性は保たれると考えるが、有効性及び安全性についての保証はできない。

【質問】歯槽膿漏の治療薬という次亜塩素酸電解質の「パーフェクトペリオ」を、患者が自分で購入するというが、どういうものか。(薬局)

【回答】「パーフェクトペリオ」(PPW)は次亜塩素酸(HClO)を成分とする殺菌作用を期待した機能水の一種である。PPWの歯周病に関する研究としては、2009年に東京医科歯科大学歯周病学分野が基礎的な研究で学会発表を行った。日本歯周病学会は、これに対し2010年5月に見解を出している。内容は以下の通り。(一部抜粋)

「現状でのPPWの歯周治療への応用については、研究途上の段階で科学的根拠が十分であるとはいえず、日本歯周病学会としては安全性や有効性について学術的な場で十分な討議が行われた後に、臨床に応用されるべきであると考えている」

【質問】学校でフッ素が買えると聞いたが、学校は直接問屋さんから購入可能ですか？(学薬)

【回答】平成23年3月31日付「卸販売業における医薬品の販売等の相手先に関する考え方について」(厚生労働省医薬食品局事務連絡)の中で、「・・・卸販売業者が医薬品を事業者等に販売等する場合には、一般に、当該事業者等の業務上必要な医薬品であって、当該事業者等及び当該事業者等に所属する当該医薬品の使用者が当該医薬品を取り扱うために必要十分な知識経験を有する場合、又は事業上大量に使用する必要が認められる等で薬局からの購入が困難であるなど、卸販売業者からの販売等に相応の正当性が認められる場合に限られること」されており、「学校の長に対して、歯科医師の指示に基づき行う、う蝕予防のためのフッ化ナトリウム洗口剤を販売する場合」(事例39)としている。学校長が、卸販売業者からフッ化ナトリウム洗口剤を購入する事は可能。別に、2015年9月に要指導医薬品として日本初のフッ化物洗口剤『エフコート』(サンスター(株))が販売された。卸販売業者からのルートとは別に学校から薬局への購入依頼も多くなるのではないかとと思われる。

【質問】調剤薬局によってバイアグラの値段が7000円も違うと、一般の方から薬局の苦情があった。(公共機関)

【回答】バイアグラ等の勃起不全治療薬は保険診療の対象とはならないため、全額自己負担となる。料金については各医療機関で設定する事になっている。ジェネリック医薬品も発売されている。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

1～3月の「おくすり相談室」受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】整形外科からクロルフェネシンカルバミン酸エステル錠という筋肉の緊張をとく薬をもらったが怖い。筋肉全体も心臓も止まってしまうのではないか。

【回答】筋弛緩薬には大きく分けて2種類あります。手術麻酔時に筋肉の収縮を止める為に使用する末梢性の筋弛緩薬と、肩こりや筋肉痛等の症状に筋肉の緊張を和らげる中枢性の筋弛緩薬です。末梢性の筋弛緩薬は、手術中に量を誤った事で医療事故の報道がありました。通常は安全に使用されている薬剤です。今回処方された筋弛緩薬は中枢性の種類のお薬となります。

【質問】ED治療薬のレピトラのジェネリックはないのですか？海外ではあるみたいだけど。

【回答】日本では、ED治療薬のレピトラやシアリスにはジェネリック医薬品はありません。海外で出回っていても、日本では承認されていないため、処方することは出来ません。同じED治療薬であるパイアグラにはジェネリック医薬品がありますので、医師にご相談ください。

●安全性情報●

【質問】風邪薬のルルと花粉症の薬フェキソフェナジンを一緒に飲んでもいいですか？

【回答】ルルの商品は9種類あります。製品によって成分も多少違ってきます。お問い合わせのお薬は「新ルルAゴールドDX」ですね。成分のクレマステンはフェキソフェナジンの類似薬で同じアレルギー性鼻炎や花粉症に使用されるお薬です。一緒に服用すると重複服用となりますので、咳止めや解熱剤のみのお薬を選ぶといいですね。店頭の薬剤師にご相談ください。

【質問】昨日からエクセグランとアーテンが追加になった。服用後から眼が見えにくくなっていて、何となくだるい気もする。薬の副作用ですか？

【回答】両薬剤に脱力感と視力障害や眼の調節障害の報告があります。ただ、見える範囲が狭くなる緑内障など眼の病気が原因の事もあるので、一度眼科を受診された方がいいかと思います。副作用であれば、服用を中止し様子を見るという方法もあります。

【質問】87歳の母親が認知症でアリセプトを服用中。風邪薬のPLを7日間服用し、4日経つが、元気で覚醒した状態が続いている。よく話すし、行動も活発になり、症状としてはいい状態になっている。なぜなのか、よくわからない。

【回答】PL顆粒は、めまい、せんもう、神経過敏、不安な状態がでるため認知症にはあまり用いられ

ません。アリセプトと併用するとぼーっとしたりする事はあります。

●健康食品●

【質問】授乳中。お肌のためにプラセンタを摂っても大丈夫ですか。

【回答】プラセンタのホルモン類似作用の効果については、今の所科学的にも実証されておらず、安全性も確認されておられません。また、注射薬ではありますが、厚生労働省はプラセンタ注を使用した方は献血をしないようにとの指示を出しています。これらの理由から、授乳中の摂取は控えた方がいいと思われます。

参考：健康食品の安全性・有効性情報：国立健康栄養研究所HP

●ドーピング●

【質問】咳と喉の痛みでフラコゼシロップをもらったが、ドーピングは大丈夫ですか。（選手）

【回答】フラコゼシロップ（ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩）中の咳止めの成分メチルエフェドリンは、競技中に服用するとドーピング違反となります。咳の症状については、フルタゾール、アスベリン、メジコンなどの代替薬の使用が勧められます。喉の痛みには使用できる医薬品も多いので、薬剤師にご相談ください。

●その他の質問●

【質問】今話題になっているジカ熱の症状はどのようなものですか。

【回答】ジカウイルス感染症の症状としては蚊に刺されてから数日後に、軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛等現れます。妊娠中は胎児への感染も報告されており、特に注意が必要です。現在、厚生労働省HPで海外での感染症予防について情報を得る事ができます。ご参照ください。

関連情報：次頁「海外で注意しなければならない感染症」（厚生労働省HP）

●相談●

・8ヶ月の子供のシロップ薬のラベルに1回量が多く書かれていた。3日飲んだ後、保育園から量が多いんじゃないか。長い間眠っていたとも言われた。子供に障害が出ないか心配。

・エビリファイとレボトミンによる副作用と思う。薬剤師パーキンソン症候群になって、1年前から手が動かなくなり、ご飯を食べる事も不便になった。これからどうしたらいいか。

・11種類の薬が一つの袋に入っていて、どれがどれだか分からない。

【一覽】海外で注意しなければいけない感染症(平成28年4月)

主な 感染源	注意すべき病気	滞在地域				予防方法		主な症状					
		リゾート 観光地	都市部	地方の 町や村	森林・野野	その他	予防接種	発熱	下痢	その他			
食へ物 水	★ E型肝炎	●	●	●	●	世界各地	●	十分人の通った食べ物を食べる 生肉は食べない			●	倦怠感、黄疸(体の皮膚や 白目が黄色になる)	
	★ A型肝炎	●	●	●	●	世界各地(特に水道設備が 整っていない地域)	●			●	●	倦怠感、黄疸(体の皮膚や 白目が黄色になる)	
	★ 赤痢	●	●	●	●	世界各地(特に水道設備が 整っていない地域)	●				●	激しい腹痛	
	★ 腸チフス	●	●	●	●	世界各地(特に水道設備が 整っていない地域)	●				●	●	倦怠感、比較的徐脈 (高熱なのに比較的脈が遅い)
	★ コレラ	●	●	●	●	世界各地(特に水道設備が 整っていない地域)	●				●	●	嘔吐 下痢による脱水
	★ ノロウイルス	●	●	●	●	世界各地	●				●	●	激しい嘔吐
	★ 消化管寄生虫症	○	○	○	○	世界各地	○	こまめな手洗い 十分人の通った食べ物を食べる			○	○	
事故・ケガ	★ 破傷風	○	○	○	○	世界各地	○	駆除やケガに注意する		●			飲み込みにくい、しゃべりにくい、 全身けいれん
	★ マラリア	○	○	●	●	熱帯・亜熱帯地域(アジア、ア フリカ、中南米)	●	夜間外出を控える 蚊帳の使用虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用	予防薬(飲み薬)		○		悪寒、冷汗 頭痛、筋肉痛 意識障害
蚊	★ テング熱	●	●	○	○	熱帯・亜熱帯地域(アジア、ア フリカ、中南米)	●				○		目の奥の痛み 筋痛、関節痛、発疹
	■ チクングニア熱	●	●	●	●	東南アジア、南アジア、アフリ カ、中南米	●						頭痛、筋痛、倦怠感、発疹、関節 痛、関節のむくみ
	■ ジカウイルス感染症	●	●	○	○	アフリカ、東南アジア、南アジ ア、カリブ海諸国、中南米、太 平洋島諸国	●						発疹、結膜炎、筋痛、関節痛、倦 怠感、頭痛
	■ 黄熱	●	●	●	●	アフリカ 南アメリカ	●	虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用 室内での蚊取り線香の使用など	●	●			頭痛、筋肉痛 悪寒、嘔吐
	■ ウエストナイル熱	●	●	●	●	北アメリカ ヨーロッパ南部 アジア、中東、アジア	●						頭痛、筋痛、倦怠感
	■ 日本脳炎	●	●	●	●	アジア	●						昏迷(痛みや刺激に反応しない)、 意識障害、頭痛
	■ 狂犬病	◆	◆	◆	◆	世界各地	◆	むやみに動物に近づかない 予防針本剤ワクチン接種を受ける 犬等からの咬傷後、ワクチン等によ る治療	●				治癒した動物の噛み 知覚過敏 恐水・恐風症状
動物	■ インフルエンザ	●	●	●	●	アジア、アフリカ、中東	●	農家、市場、動物園などの鳥類との 接触を避ける。手洗い、うがい			○		呼吸器症状
	■ MERS	◆	○	○	○	中東	◆	動物との接触を避ける			○		呼吸器症状
人	★ 麻疹	●	●	●	●	世界各地 (特にアジア・アフリカ)	●			●			咳、鼻水、結核充血、発疹
	★ 風しん	●	●	●	●	世界各地 (特にアジア・アフリカ)	●			●			発疹、リンパ節腫脹
	■ ポリオ	○	○	○	○	南アジア・アフリカ等	○	手洗いの実施		●			麻痺
	■ レプトスピラ症	○	○	○	○	世界各地	○	淡水(川や湖)での水遊びを控える					悪寒、頭痛、筋痛 腹痛、結核充血
沼や海河川	■ 住血吸虫症	○	○	○	○	アジア(揚子江)、アフリカ(ナイ ル川)、中南米など	○						下痢(血性)、肝臓、脾臓の腫れ

(厚生労働省HPより)

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇医薬ジャーナル 52巻2号
「薬物乱用「依存」「中毒の現状～「危険ドラッグ」を中心に～」
- ◇医薬ジャーナル 52巻3号
「認知症～病態と治療～」
- ◇医薬ジャーナル 52巻4号
「最新のがん免疫療法」
- ◇エキスパートナース 32巻2号
「患者の変化を バイタルで見抜く! <6 step>」
- ◇エキスパートナース 32巻3号
「病棟に増えている 非侵襲的陽圧換気療法「NPPV」のお悩み解決!」
- ◇エキスパートナース 32巻4号
「要点ここだけ! 心電図」
- ◇きょうの健康 3月号
「特集: めまいタイプ別治療法」
- ◇きょうの健康 4月号
「特集: ひざの痛みを解消」
- ◇月刊薬事 58巻3号
「いまさら聞けない薬物動態Q&A——ADMEから特殊病態下の動態まで、知っておきたいポイントが満載!」
- ◇月刊薬事 58巻4号
「ここからはじめるバイタルサイン——薬剤師の実践をとらえ直す!」
- ◇産科と婦人科 83巻3号
「生殖医療における倫理的問題を考える」
- ◇産科と婦人科 83巻4号
「中高年女性に多くみられる症候とその対策」
- ◇産科と婦人科 83巻(増刊)
「産婦人科処方実践マニュアル」
- ◇総合診療 26巻2号
「フィジカル改革宣言! 診断からフォローアップまで」
- ◇総合診療 26巻3号
「こんな時は漢方でしょう!」
- ◇総合診療 26巻4号
「ケースとクイズで総ざらい! 街場の2型糖尿病治療」
- ◇調剤と情報 22巻2号
「寝たきり「骨折を防げ! 骨粗鬆症を防げ!」
- ◇調剤と情報 22巻3号
「知って実践! 不眠の治療とケア」
- ◇調剤と情報 22巻4号
「さあはじめよう! がん患者サポート」
- ◇調剤と情報 22巻5号
「“受診勧奨? OTC薬?” で迷わないために」

- ◇治療 98巻2号
「読む書く話す」
- ◇治療 98巻3号
「身近に考えよう 循環器内科の素朴な疑問」
- ◇治療 98巻4号
「医療経済学のススム」
- ◇日経ドラッグインフォメーション 220号
「薬を減らす ポリファーマシー解消の木槌を握れ!」
- ◇日経ドラッグインフォメーション 221号
「もっと知ろう! 鎮痛薬」
- ◇日経メディカル 579号
「糖尿病治療薬 戦国時代」
- ◇日経メディカル 580号
「院内感染対策の常識を疑え」
- ◇日経メディカル 581号
「その症状、薬が原因では?」
- ◇日本医事新報 4788号
「食物アレルギーを正しく診断する」
- ◇日本医事新報 4789号
「渡航者ワクチンの現状と課題」
- ◇日本医事新報 4790号
「もう一度、臍臓疾患を学ぶ」
- ◇日本医事新報 4793号
「小児アトピー性皮膚炎治療 update」
- ◇日本医事新報 4794号
「変形性股関節症治療の実際」
- ◇日本医事新報 4795号
「プライマリケアで診る急性腹症」
- ◇日本医事新報 4796号
「大腸癌における分子標的薬の課題」
- ◇薬局 67巻2号
「徹底理解! 消毒薬～医療関連感染対策を有効に実現するために」
- ◇薬局 67巻3号
「ワクチンリテラシー～安心して予防接種を受けてもらうために6」
- ◇薬局 67巻4号
「妊娠と感染症～母児のリスクとベネフィットを考慮した薬物治療の実践」

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶「適応拡大で注目集まる免疫チェックポイント阻害薬—その効果と副作用」
(日本医事新報 (4788) p.10)

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

- ▶「抗凝固薬と抗血小板薬の併用に関して」
(日本医事新報 (4792) p.54)
- ▶「難治性吃逆(しゃっくり)への対応は？」
(日本医事新報 (4794) p.57)
- ▶「夜尿症治療の変遷」
(日本医事新報 (4796) p.47)
- ▶「認知症高齢者への薬物治療とその留意点」
(医薬ジャーナル 52巻 3号p.107)
- ▶「適応拡大クローズアップ ポセンタン水和物」
(月刊薬事58 (4) p.140)
- ▶「適応外使用の処方せんを読み方 家族性大腸腺腫症(69)」
(月刊薬事58 (4) p.203)
- ▶「適応外使用の処方せんを読み方 偽痛風 (70)」
(月刊薬事58 (5) p.153)
- ▶「片頭痛治療薬が異なる剤形で3剤処方」
(調剤と情報 22巻 3号p.5)
- ▶「片頭痛にノイキノンを使う理由」
(日経ドラッグインフォメーション 220号p.39)
- ▶「バセドウ病にヨウ化カリウムを使う理由」
(日経ドラッグインフォメーション 220号PEp.003)
- ▶「重曹が処方されたCKD患者」
(日経ドラッグインフォメーション 220号p.39)
- 安全性情報**■
 - ▶「薬剤による浮腫 NSAIDs, Ca拮抗薬, 漢方薬」
(総合診療 26巻4号p.342)
 - ▶「副作用 薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (47)」
 1. リネゾリドによる乳酸アシドーシス
 2. レベチラセタムによる低ナトリウム血症
 3. カルバマゼピンの血漿中濃度がレスベラトロール併用で上昇
 4. 食後投与でアピラテロンの血漿中濃度が上昇
 5. フェブキソスタットにより横紋筋融解症を呈した慢性腎疾患患者
 6. エナラプリルによる内臓血管性浮腫
(医薬ジャーナル 53巻3号p.162)
 - ▶「副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (47)」
 1. アセタゾラミドによる低リン血症
 2. ロラタジンとシンバスタチンの併用でミオパチーリスクが上昇
 3. オピオイドによる転倒リスクに及ぼすCYP2D6阻害薬併用の影響
 4. フルボキサミン併用でクロピドグレルの抗血小板作用が減弱
- 5. アリピラゾールによる網脈絡膜炎
- 6. プロモクリプチンによる重篤な有害事象
(医薬ジャーナル 53巻4号p.162)
- 婦人科**■
 - ▶「閉経期ホルモン療法の薬剤選択のポイント」
(日本医事新報 (4792) p.57)
- 眼科・皮膚科**■
 - ▶「前立腺肥大の薬は白内障に悪い？」
(総合診療 26巻3号p.268)
 - ▶「にきび治療の新常識」
(日経ドラッグインフォメーション 221号p.56)
 - ▶「スミスリン抵抗性のアタマジラム症への対応」
(日本医事新報 (4794) p.54)
- 臨床検査**■
 - ▶「がん化学療法における薬局での臨床検査値の活用」
(調剤と情報 22巻 2号p.59)
 - ▶「患者情報としての臨床検査値を使いこなし、処方の妥当性を考える」
(調剤と情報 22巻 3号p.67)
- 服薬指導**■
 - ▶「ゲートキーパーとしての薬剤師の役割」
(医薬ジャーナル 52巻 2号p.101)
 - ▶「転倒・転落に対する薬剤師の関与～睡眠薬と転倒・転落の関連性～」
(医薬ジャーナル 52巻 2号p.133)
 - ▶「がん患者サポート 気をつけたい患者との話しかけ方」
話しかけ方「内容」
(調剤と情報 22巻 4号p.34)
- 漢方薬**■
 - ▶「漢方診療の基本中の基本 漢方診療の原則と副作用などの注意点」
(総合診療 26巻3号p.205)
- サプリメント**■
 - ▶「カルシウムの経口摂取を増やしても骨密度は改善しない？」
(日本医事新報 (4791) p.54)
- その他**■
 - ▶「5年間の蓄積より得られた実習生の自己評価を高くするために改善の必要な実習項目」
(医薬ジャーナル 52巻 3号p.11)
 - ▶「線虫を使ったがん診断とは？」
(日本医事新報 (4791) (p.63))

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

適応拡大で注目集まる免疫チェックポイント阻害薬
その効果と副作用

日本医事新報 4788号

免疫チェックポイント (CP) 阻害薬「ニボルマブ」が2015年12月、切除不能な進行・再発非小細胞肺癌に対して適応拡大された。免疫細胞の働きを活性化させることでがんを攻撃する免疫療法で、手術、放射線療法、抗がん剤・分子標的薬治療に続く、第4の治療として注目される。近年、免疫細胞の活性化にブレーキをかけている免疫CP機構が新たに解明されてきた。ヒトの体には、攻撃すべき異物かどうかを判断する免疫CPがある。一部のがん細胞は、そのCPを通り抜ける免罪符を持っていて、免疫細胞の活性化にブレーキをかけ攻撃されないようにしていることが分かってきたのだ。現在分かっている免疫CPには初期免疫段階のCTLA-4、エフェクター段階のPD-1の2段階あり、ニボルマブは後者を遮断する抗PD-1抗体薬。主な副作用は皮膚障害、下痢、大腸炎、肝障害等。副作用が出現するタイミングは一般的な抗がん剤よりも遅い為注意が必要だ。肺癌の場合1ヶ月約260万円と、費用が高い点が課題である。

国立がん研究センター中央病院
堀之内 秀仁

線虫を使ったがん診断とは？

日本医事新報 4791号

がん患者には特有の匂いがあると臨床現場では言われていて、がん探知犬の試みがありますが、その能力は1日に5検体程度、未知のサンプルに対する検査を繰り返すと訓練度が落ちてしまうため、実用化は非常に困難です。線虫 *C. elegans* は、嗅覚受容体を約1200種 (人間の約3倍、犬の約1.5倍) 有する嗅覚の優れた生物であり、匂いに対する反応も走性行動 (好きな匂いには誘引行動を、嫌いな匂いには忌避行動を示す) を指標に容易に調べることができます。がん患者の尿20検体、健常者の尿10検体について線虫の反応を調べた所、全てのがん患者の尿には誘引行動を、反対に全ての健常者の尿には忌避行動を示しました。また、線虫の嗅覚を用いたがん診断テストの精度を調べる為に242検体 (がん患者: 24, 健常者: 218) の尿で実験を行った結果、がん患者24例中23例が陽性、健常者218例中207例が陰性を示しました。他の腫瘍マーカーに比べ感度は圧倒的であり、実用化が期待されています。

九州大学大学院理学研究院
広津 崇亮

手術部位感染対策へ予防的抗菌薬投与

日経メディカル 3月号

2016年3月中に公開される「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」では、日本人を対象にしたエビデンスが示されたことを受け、術前からの予防的抗菌薬の投与期間は24時間を基本とする考え方を示す方針である。根拠となったエビデンスは、2013年の日本外科感染症学会学術集会で発表された。予防的抗菌薬を1日投与した群と3日間投与した群を比較する他施設ランダム化試験を、開腹下の肝切除術、胃全摘術、直腸癌手術で実施。その結果、胃全摘術の試験では1日投与群 (227例) の手術部位感染 (SSI) 発生率が8.4%、3日投与群 (235例) が11.1%と優位差は認められなかった。肝切除術においても非劣性が示された。実践ガイドラインでは、「術式ごとに『抗菌薬の適応』と『投与期間』の2項目に対して推奨度エビデンスレベルをそれぞれ示した事、各施設で活用しやすいように術式を細かく分けた事も特徴。また、βラクタム薬アレルギーの症例への代替薬や、長時間手術での追加投与に関しても詳細に記載する。総論と各論のサマリーからなる簡易版を非会員でも閲覧できる形でウェブサイト公開予定である。

前立腺肥大の薬は白内障に悪い？

総合臨床 3月号

前立腺肥大の薬ユリーフやハルナール等が白内障自体を悪くするわけではありません。白内障の「手術」の時に悪さをすることがあるというのが、正確な答えになります。上記の前立腺肥大の薬は交感神経α1遮断薬ですが、これらは前立腺だけではなく、虹彩にも作用しているようです。具体的には、普段の白内障手術では手術中にピンとしていて、殆ど動く事のない虹彩が、術中に下記の現象を起こします。

1. ペラペラ・ふにゃふにゃになっていて、手術の水流によって動く。
2. 急に縮瞳する (瞳孔が小さくなる)。
3. 虹彩が手術の創口にはまり込む。

これをIFIS (術中虹彩緊張低下症候群) と言います。こうなると安全に手術を行うために時間もかかり、手術自体が難しくなってしまいます。現在内服中の人だけでなく、昔内服していたという患者さんがいたら、白内障手術の前に眼科医にお伝え頂ければと思います。(休薬してもしなくても、IFIS発症のリスクは変わらないとされています)

京都大学医学部教育推進センター
加藤 浩晃

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】第十三改訂調剤指針 増補版

【編集】日本薬剤師会 【発行】薬事日報 【発行日】2016年3月

【版型/頁】B5判/約520頁【定価】5,184円(税込)【会員価格】4,430円(税込)

調剤の基本となる「指針」と、多種多様な臨床現場を考慮しつつ指針に説明を加えた「解説」による構成により、調剤の概念から関係法令、医薬品の適正使用、適切な情報提供、各種調剤業務などをやさしく理解できる実践書。

経口抗がん薬ハンドブック

【監修】遠藤 一司 【発行】じほう 【発行日】2016年2月

【版型/頁】B6変形判(ポケット版)/416頁【定価】4,104円(税込)

経口抗がん薬全63成分のうち使用頻度の高い56成分について、各薬剤毎にチェックすべき項目を表やチャートを用いてわかりやすく解説。

用法・用量、相互作用はもちろん、汎用される他剤とのレジメン、用量調節、減量・休薬基準の他、注意すべき検査値・副作用の予防と対策を紹介。処方監査・服薬指導にすぐ使える

改定6版 薬剤師のための臨床検査の知識

【監修・編集】池田千恵子 【発行】じほう 【発行日】2016年3月

【版型/頁】ポケット判/432頁【定価】2,160円(税込)

臨床に携わる薬剤師にとって、薬物治療の効果や安全性の検証のための検査データを読む力は必須の知識です。臨床検査の理解と検査値の解析に必要な基本知識を網羅。最新の改訂6版では、ガイドラインなどを含む最新の知見にアップデートするとともに、近年の処方箋への臨床検査値入力の流れに役立つ付録「処方箋記載の検査値利用の際の one point advice」を新たに掲載。日々、調剤現場で活躍する薬剤師にとってますます充実の1冊。

今日の治療指針 2016年版[ポケット版]

【監修】山口 徹、北原 光夫 【発行】医学書院 【発行日】2016年1月

【版型/頁】B6判/2,192頁【定価】16,200円(税込)

毎年全面新訂。信頼と実績の治療年鑑。1,135疾患項目は、すべて毎年全面書き下ろし

○「同主薬の特徴と使い分け」を新設。降圧薬や糖尿病治療薬等、多くの同種薬につき、最適な薬剤師選択に有用。

○電子版限定コンテンツとして、新たに「エビデンス」を追加。

○日常臨床で遭遇するほぼすべての疾患・病態に対する治療法が、この1冊に。

薬剤過敏症 1版

【著者】宇野勝次 【発行】南山堂 【発行日】2016年4月

【版型/頁】A5判/221頁【定価】2,592円(税込)

謎に包まれた「薬剤過敏症」の本質に迫る！！

薬剤過敏症は未だ謎に包まれており、臨床現場での管理が難しい医薬品の有害作用のひとつ。薬剤過敏症を4つの視点①原因薬検出の視点、②発現機構の視点、③薬物(アレルゲン)側の視点、④生体(過敏症患者)側の視点から解析して、薬物過敏症の本質に迫った。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)医薬品 PL センター窓口業務 (7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。

お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見学、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●女性の単純性尿路感染症に対する Ibuprofen と Fosfomycin の比較:無作為化対照試験 (BMJ (8039) 20- (2016.1.9))
Ibuprofen による単純性尿路感染症(単純性 UTI)症状の治療は、症状の有意な増悪、再発、または合併症なしに抗生物質の処方割合を減少することができるか検討した。2012年2月-2014年2月に、ドイツ北部の42総合診療科において典型的なUTI症状を有する女性患者494例を無作為に2群に分け、248例に ibuprofen 400mg を1日3回、246例に fosfomycin trometamol 3g を1日1回、3日間投与した。両群とも、症状の持続、悪化、再発に対して、その後必要に応じて抗生物質投与が処方された。解析対象は ibuprofen 群 241例(平均37.3歳)、fosfomycin 群 243例(平均37.3歳)。その結果、ibuprofen 治療群では28日以内に3分の2の症例が抗生物質を使用せずに回復した。抗生物質の即時使用を避けることを希望する女性患者には、初期の対症医療は検討すべきアプローチであると思われる。

●抗うつ剤治療中の自殺傾向および攻撃性(BMJ (8042)145 (2016.1.30))SSRI および SNRI に関連する重篤な有害事象について検討した。2011年に欧州および英国医薬品規制当局から得られた duloxetine, fluoxetine, paroxetine, sertraline および venlafaxine に関する臨床試験報告、ならびにイーライリリーのウェブサイトからの duloxetine および fluoxetine の試験報告概要をデータ源として、システマティックレビューを実施した。患者の著述および患者毎にリストされた有害事象を含む二重盲検プラセボ対照試験を試験選択の適格基準とした。主要転帰は、死亡率および自殺傾向、副次的転帰は、攻撃的行動およびアカシジアとした。70試験(患者18526例)を組み入れた。これらの試験は試験デザインの制限および報告に差異があり、重篤な有害事象が過少報告されたと考えられる。死亡率、自殺傾向およびアカシジアの差は有意ではなかったのに対し、抗うつ剤を服用した患者はより攻撃的な行動を示した。成人では、自殺傾向のオッズ比0.81(95%CI:0.51-1.28)、攻撃性1.09(0.55-2.14)およびアカシジア 2.00(0.79-5.04)であったのに対し、小児および青年における対応値は 2.39(1.31-4.33)、2.79(1.62-4.81)および 2.15(0.48-9.65)であった。

●新生児集中治療室における適応外処方/無認可処方:多施設共同研究 (Eur. J. Clin. Pharmacol.72(1)117- (2016.1))
イタリアにおける107カ所のレベルIII新生児集中治療室(NICU)での薬剤処方状況について解析を行うため、プロスペクティブ横断研究を行った。方法は、オンラインでのアンケート調査を行い、各処方、Italian Society of Neonatology(ISN)によるガイドラインと照らし合わせて分析した。2014年5月-7月のいずれかの1日に入院した220例の新生児について検討、うち191例は未熟児、29例は満期出生児であった。計720処方(79種の薬剤を含む)について解析した。191処方(26.5%)は製品の認可に沿った使用がなされており、529処方(73.5%)では適応外処方あるいは無認可処方がなされていた。220例中193例(87.7%)の新生児は、少なくとも1種類の適応外処方/無認可処方を受けていた。これらのうち最も頻度が高かったのは抗菌薬で、呼吸器系薬および抗貧血薬(epoetin, folic acid)が続いた。適応外処方でも多かったのは心血管系薬と中神経系薬、消化器系薬、抗菌薬であった。適応外となっていたカテゴリーとして多かったのは年齢(34.4%)と投与頻度(20.6%)であった。ISNによるガイドラインと比べ適応症へのアドヒアランスは高かった。

(ampicillin/sulbactam では100%, ampicillin, fluconazole, fentanyl, ranitidine, vancomycin では>80%)。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください!

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➔ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➔ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➔ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➔ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの「かかりつけ薬局」をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
<ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

第25回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ヘチマ：糸瓜：ナーベラー

学名 *Luffa cylindrica* (L.) Roem.
科名 ウリ科 Cucurbitaceae
属名 ヘチマ属 *Luffa*
使用部位 果実、茎、葉
有効成分 カリウム、ギンゼノサイド
ルシオサイド、食物繊維



ヘチマ：糸瓜：ナーベラーの特徴

ヘチマはインド原産ウリ科のつる性一年草で、11～12世紀の宋の時代に中国に渡り、日本には16～17世紀渡来した。江戸時代に本州中部以南で栽培され、静岡県の浜松や袋井が産地として知られる。果実から繊維いとうりが得られることから糸瓜と名が付き、沖縄ではナーベラーと呼ばれるが、これは果実の繊維を鍋洗りょういに用いたことに由来する。

茎には稜があり、巻きひげが他のものに絡みついて生長する。葉は、長柄に掌状で浅く4～7裂する。葉柄から柄を出して雌花と雄花に別れ、7-9月に直径8cmほどの黄色の大型の花を咲かせる。同一株で受粉が可能な自家和合性である。果実は、大きく円錐状のうり形で、果肉は繊維質の網状組織で、細長く大きなキュウリのような形をしている。若い果

実は食用に、成熟した果実は強い繊維が発達するのでタワシなどに用いられる。果実は成熟後、次第に乾燥し、種子の周囲が繊維で支えられた空洞となる。その頃に果実の先端が蓋のように外れ、果実が風でブラブラと揺れるたびに、遠心力で種子が振り出され、飛び出す。こうして一種の投石器のような機構で種子散布を凶っていたと考えられる。

繊維が未発達の若い果実には独特の風味があり、固い皮を剥いて加熱すると甘味のある液が出る。汁物・煮物・焼き物などに用いるほか、台湾では小籠包の具としても使用する。日本では主に南西諸島と南九州で食べられている。沖縄ではナーベラーンブシー（味噌味の蒸し煮）として食べるほか、シチューやカレーなどの洋風料理にも用いられる。

ヘチマ水

秋に実が完熟したころ、地上30cmほどのところで蔓を切り、根側の切り口を容器に差し込んで採取したのがヘチマ水である。化粧水として用いるほか、民間薬で飲み薬（咳止め、むくみ、利尿に効くとされる）、塗り薬（あせも、ひび、あかぎれ、日焼け後の手当て）に用いられる。含有成分は、ヘチマサポニン、硝酸カリウム、ペクチン、タンパク質、糖分等である。「痰一斗糸瓜の水も間に合わず：正岡子規」の俳句は、この咳止めの効能に関わるものである。そのままでは腐りやすいので煮沸、濾過をして冷蔵すると長持ちする。

参考 wikipedia、沖縄伝統的農産物データベース、薬用植物一覧

ヘチマ 生 可食部100g当たり

第七訂日本食品標準成分表

エネルギー	蛋白質	炭水化物	食物繊維	水分	リン	マグネシウム	カリウム
16 kcal	0.8 g	3.8 g	4.6 g	94.9 g	25mg	12mg	150mg
ナトリウム	カルシウム	亜鉛	鉄	ビタミンK	βカロチン	葉酸	ビタミンC
1mg	12mg	0.2mg	0.3mg	12mg	44 μg	92 μg	5mg

ヘチマの実や葉の効用

ヘチマを代表とするウリ科の食物果実は、消暑剤・清涼剤（暑気あたりを正常な状態に戻す）として有効である。ヘチマの実や葉の効能として『本草綱目』に、熱を除き、痰を去り、血を冷やし、解毒の効あり、血行を促進し、神経を整え、乳の出を良くし、小便を促し、腫れをとり、痛みを去って、皮膚病を治すなどが挙げられている。中国では葉のしぼり汁が効果大とされる。葉を焙したものを「糸瓜茶（しかちゃ）」と呼び、常飲すると、たるんだ肉が引き締まり伶人肥健（肌艶の綺麗な固太りの美人）の効ありとされる。

ヘチマに多く含まれる酵素のADH（alcohol dehydrogenaseアルコール脱水素酵素）、ALDH（アセトアルデヒド脱水素酵素）が、肝臓にアルコールが運ばれる前に胃や腸でアルコールやアセトアルデヒドを分解することから、肝臓に負担をかけずにアルコール代謝を行うことができる。これを利用したサプリメントなども研究されている。

ヘチマの食物繊維は、腸内の善玉菌の繁殖を活性化することで便の量を増やし、腸内環境を整える。コレステロールや老廃物を排出し、動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病、ガンを予防する。また胆汁酸の分泌や産生を促して、コレステロール値を低下させる。

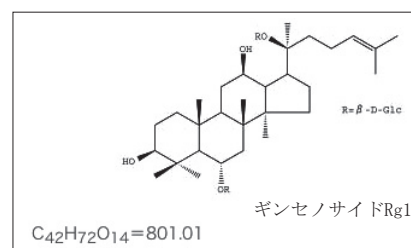
中国長春大学・林輝明名誉教授は近畿大学東洋医学研究所と徳島文理大学との共同研究で、ヘチマの成分に、ルシオサイドと名付けた新しい9種のサポニンと、また朝鮮ニンジンにも含まれるギンゼノサイドRg・Reを確認した。

ヘチマサポニン（ルシオサイドA～I）

細胞活性化作用があり細胞の新陳代謝を活発にし、肌を美しく健康に保つ。鎮咳作用、去痰作用、解毒作用、血行促進作用。血小板凝集抑制・血液凝固延長作用が報告されている。ルシオサイドFは、皮膚細胞に10万分の5gの微量を加えただけで、上皮細胞増殖作用が2.9倍、増強した。

ヘチマサポニン（ギンゼノサイドRg・Re）

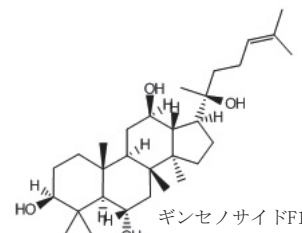
プロトパナキサトリオール系サポニンに属するギンゼノサイド



は、主にReとRg1が大部分であるが、腸内細菌によってRh1や或いはF1に代謝されて、多様な生理活性を示す。Rg1には緩和な中枢興奮作用が認められ、抗疲労作用、鎮静作用が報告されている。Rb群は中枢神経抑制作用を有する一方、Rg群は相反する中枢神経興奮作用を有している。またRb群は溶血防御作用も有するが、Rh群、Rg群は相反する溶血作用を有していることが確認されている。サポニン類は、相反する生理活性を有することにより生体機能を向上させる。

ギンゼノシドRb1、Rb2、Rc、Rd、Reにはコルチコステロン分泌亢進作用が報告されている。

ギンゼノサイドF1は、ゼラチナーゼ（生物がゼラチンをポリペプチド、ペプチド、アミノ酸等の成分に



加水分解することを可能とする酵素）の生合成抑制作用があり、また優れた表皮真皮境界部の分解抑制及び生成促進効果と保護効果を有し、細胞増殖効果、コラーゲン生合成効果などの皮膚老化防止効果が証明されている。

サポニンの代謝物に関する研究が進行し、サポニン自体よりは、サポニンが腸内細菌により分解された腸内細菌代謝物がサポニンの効能を示す活性本体であることが示唆されている。サポニン成分のうちアグリコンにグルコースが1つ付いた構造よりなるギンゼノサイドRh1、Rh2及びF1などが癌細胞増殖抑制作用、腫瘍増殖抑制作用、抗ガン剤の抗癌活性増大作用などの薬理作用が知られている。

参考 漢方医薬新聞、韓国公開特許、野菜の学校、食材百科事典、女子栄養大学、丸善製薬、ekouhou.net



チャオ！イタリア珍道中記

調剤薬局クオレ
平良 仔己子



イタリア絡みでリレー随筆のバトンを廣川先生より受け取った平良です。物事は全て表裏一体、お薬に主作用と副作用があるように廣川先生の表側のイタリア巡りの素晴らしさとはまた違う裏側のトラブル、ハプニングについて語りましょう。もう少しイタリア旅行の話におつきあい下さい。

「もういくつ寝るとお正月、、、」の時期（本当の所、この時期にしか長期の休みが取れない）には国外逃避行と称し、おきまりの観光ツアーには参加せず、訪れたい場所を一ヶ所に絞り、イタリアでは花の都フィレンツェで香りを自在に操る世界最古の薬局「サンタマリアノヴェラ薬局」を訪れた後は少ない英単語ボキャブラリーをfullに活用して観光ブック片手にしながら息子との勝手気まま2人旅です。ホテルへの移動で電車に乗ると東京の通勤ラッシュアワーのように満員。入口近くに立っていた私は、人の波で奥へ奥へと押し

やられ、側にいたはずの息子も離れてしまいました。人の多さで身動きできない状態なのに、そこへ若くて背の高いモデルのような美男美女カップルがぴったりと合わせ蛤のようにひつついたまま、私をぐいぐい押してきます。車内でそんなに見せつけるようにベタベタしなくてもいいのにと思っていたら、さらに強い香水の香りが鼻をつき不愉快な気分させられました。そのとき！斜めにかけていたbagがぐいぐいと引っ張られる感じになり、あれ？と違和感を抱いたのですが何しろ満員電車の中、身動きひとつできず次の停車駅をまだかまだかと待っていました。電車が停まり一気に乗客が外に流れ出たとき、反射的にbagを見るとチャックが開いていて、とっさに私は「あの2人はスリよ！」と大声で叫ぶと、息子が私をちらっと見て、カップルを追いかけるかどうか躊躇気味。すると小柄な中年女性が、いきなり大声で「犯人はあの2



サンタマリアノヴェラ薬局入口



サンタマリアノヴェラ薬局内部



人よ！（こんなかんじのイタリア語）」と言いながら指をさしたので息子がダッシュして追いかけると、カップルの男性の方がいきなり私の財布をつき出し、自分が立っているエスカレーターの階段部分を差し「落ちていたから拾ったヨ（たどたどしい英語で）」と涼しげな笑顔で悪びれもせず息子の手に財布を渡しました。私と息子は啞然としながら顔を見合わせ、まるでドラマのようなスピーディな展開の中で「イタリア人の気質、このような万引き行為に罪悪感も微塵もなく脳天気?! 陽気すぎ! 気さくすぎ!」などストレートかつシンプルでわかりやすいと実感。

話はここで終わりではなく、財布が無事に戻ってきた後（中のお金も無事でした）イタリアのお土産を買いに駅内のスーパーに行きました。窮屈にレジに並んでいる（何回か経験で行列に隙間があると平然と割り込みされる）と後ろからいきなり声をかけられました。「ハイ、・・・（イタリア語）」びっくりして振り返ると、何と犯人を指さしてくれた彼女と再会。善意たっぷりの人なつつこい笑顔の彼女と身振り手振りで話しをし、ようやく彼女の名前はマリアということが判明、グラッチェ・グラッチェと握手し、ハグして別れました。息子と2人で「こんな偶然ってあるん

だね」と話しながらホテルに戻りました。

さて、「ローマの広場」で冒頭にある「チャオ♪ナカタ、ニテル」とイタリア人に声をかけられた息子は、枯れた蔓のようなミサンガを手首に勝手に巻かれた瞬間、周りを強面の男性に囲まれ「コロス、ヤクザ（日本語で）」脅され20ユーロを巻き上げられたり、アクティブな物乞いに声かけられたりと、なるほど、お金持ちで人が良さそうに見える日本人はターゲットに合いやすいとつくづく思いました。ほかにもイタリアならではの美味しいこと、お伝えしたいことが多々ありますが、紙面の都合上、詳細は省略させていただきます。みなさま、イタリアではくれぐれも美男美女と「チャオ♪」と親しげに近づいてくる人にはご注意くださいませ。ん、肝心のサンタマリアノヴェラ薬局ですが、四百年という歴史の中において建物の素晴らしさ、荘厳さばかりではなく、時代を超えてなお人々を魅了してやまない香り、そのひとつひとつが今でもよどみなく私の中に映像として出てきますが言語に梱包できないもどかしさがあります。思いはあの重厚な扉を再びくぐり抜け、香りを身にまといたいと、、本当にイタリアって素敵！



息子(右) と一緒に

次号には、中村克徳 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

国会レポート

薬剤師国家試験の見直しについて



参議院議員・薬学博士 藤井 もとゆき

春の暖かさを感じる季節となりました。東京のソメイヨシノの開花は暖冬の影響で例年より早まり、3月中にも満開を迎えると予報されています。

今年で10回目を迎える東京マラソンは2月28日、約3万7千人が参加して開催されました。穏やかな青空のもと沿道を埋めた大勢の声援に元気づけられ、3万人を越すランナーが見事に完走しました。今年のリオオリンピックの選考レースを兼ねた男子マラソン、高宮選手が総合8位で日本選手の最高位となりましたが、エチオピアやケニアなどのアフリカ勢の強さを改めて知らされる結果となりました。翌週のびわ湖毎日マラソンでは、北島選手が日本人最高位の2位に入りました。日本陸連が今後どのような判断を下すのか興味の持たれるところです。

さて、第101回の薬剤師国家試験は2月27日、28日の両日、全国9都道府県の試験会場にて一斉に実施されました。6年制課程を修了した薬学生を対象に行われる5回目の国家試験となりました。過去の試験、特にここ2回の試験では合格率が60%台と関係者の期待を裏切る低い水準となり、その対策は急務となりました。また、平成25年2月に「薬学教育モデル・コアカリキュラム」が改訂され、平成27年度の入学生から適用されており、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した薬剤師国家試験とすることも必要となっています。

薬剤師国家試験については、薬学教育に6年制課程が導入されたのを受けて、平成22年

1月に医道審議会薬剤師分科会が取りまとめた、「薬剤師国家試験の在り方に関する基本方針」に基づき実施されているところですが、こうした状況の変化を踏まえ、「薬剤師国家試験制度改善検討部会」において基本方針の見直しが行われ、本年2月1日公表されました。

見直しにあたっては、地域包括ケアシステムの構築が進められる中で、健康サポートや在宅医療など薬剤師が専門職としての役割を果たすこと、医療機関においてもチーム医療の担い手として、薬物療法や医療安全など医療の質向上へ貢献することなど、薬剤師が医療の担い手として責任ある行動をとることが求められています。こうしたことから、薬剤師として必要な倫理観や使命感、基本的知識に加え、実践の場において必要とされる知識・技能等を確認することなどを基本に、試験科目、出題基準・出題数や合格基準について検討が行われています。特に合格基準については、これまでの合格率のバラツキを考慮して、従来の得点率による絶対基準を見直し、平均点と標準偏差を用いた相対基準により合格者を決定する方式に変更され、今回の試験から適用されることとなりました。

こうした見直しが合格率にどのような影響を及ぼすかは分かりませんが、薬局や医療施設での実習経験を積んだ多くの薬剤師が社会で活躍することにより、厚生労働省が示した、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の実現にいち早く結びつくものと期待しています。

転載記事

平成28年3月8日(火) 沖縄タイムス



kurashi@okinawatimes.co.jp

「お薬手帳」持参で安く

来月改定 かかりつけ薬局促進へ

▼ことば お薬手帳 患者がいつ、どこで、どんな薬を処方されたかを記録しておく手帳。副作用歴やアレルギーの有無なども書くことができる。患者が1冊持ち、どの医療機関や薬局に行っても処方された内容を記録していけば、過去の服薬状況を確認でき、重複投薬や副作用のリスクを減らせる。厚生労働省は今後、スマートフォンのアプリなどを使った電子版「お薬手帳」で管理する仕組みも広げたい考えだ。

電子版でも同じメリット

お薬手帳を持って同じ薬局に通えば、少しかけ支払いが安くなります。4月からの診療報酬改定では、このような見直しが入りました。厚生労働省は身近な「かかりつけ薬局」の普及を目指しており、患者にメリットを理解してもらい、利用を促したい考えだ。

薬局は薬の代金のほかに、患者への説明などにかかる費用を受け取っている。現在はお薬手帳に調剤日や薬の名前、服薬の注意点を記録したシールを貼ったりすると「管理指導料」として410円の診療報酬が加算され、患者は1〜3割を窓口で支払う(四捨五入し10円単位で計算)。

これに対し、お薬手帳がない場合の管理指導料は340円。また原則半年以内に処方箋と手帳を持って同じ薬局にかかると、そこで4月からは、薬局に初めて来たり、手帳を持ってこなかったりした患者への指導料を500円に値上げする。

お薬手帳は、スマートフォンのアプリを使った電子版の普及も進んでいる。今回の診療報酬改定では紙製の手帳と同じ扱いになったため、電子版でも支払いのメリットを受けられる。

で、患者(3割負担の場合)の支払いは20円減る。患者は「手帳を持参しない方が、支払いが少なくて済む」ため、薬剤師にしっかりと服薬管理をさせようという国の考えとの間に矛盾が生じていた。

た場合の指導料は380円に下げられる。患者にとっては、2回目以降も手帳を持って同じ薬局を利用し続けられ、毎回の支払いが初回より40円ずつ安くなる仕組みだ。しかし手帳を忘れたら、安くはならない。



イラスト 山本重世



あるものを持って薬局に行くとお薬代が安くなるよ。何かかな?
①薬箱
②お薬手帳
③方歩計
新聞のどこかにこたえがあるよ



②お薬手帳 診療報酬の改定で、お薬手帳を持って同じ薬局に通えば、少しかけ安くなるようになったんだよ。一人1冊持って利用したいね。

平成28年4月18日(月)
沖縄タイムス

薬剤師の在宅訪問

「気軽に相談」患者に好評

1週間分の薬が飲むタイミングごとに分けられた「お薬カレンダー」を壁に掛けながら、薬について説明する飛井千香さん（中央）＝南風原町内



在宅訪問を専門にする、おきなわ調剤薬局（八重瀬町）の薬剤師、飛井千香さん（38）が1日、自車いすには慣れた薬剤師南風原町の元花菱さん（71）の自宅に運び込んだ。

花菱さんは7歳のときより、ブラスン酸症を発症。約4年前に総合病院を退院して自宅に戻り、母親の久美子さん（39）が家族が、訪問看護師の手を借りながら看護している。

花菱さんは寝たきりの状態で、喉に人工呼吸器を装着し、鼻に通したチューブから、栄養や薬液を摂取する。15種類の薬を使用するほか、人工呼吸器を洗う薬品なども必需品だ。

1週間分の飲み薬を曜日ごと飲み薬ミニシートに分けて入れた「薬カレンダー」を飛井さんが、慣れた手つきで花菱さんのベッドのそばの壁に貼る。

「薬は飲む順番まで怖い。1回分ずつ分けるのも結構な負担になる。カレンダーだと飲み忘れが「目隠しで便利」と久美子さん。

「薬で困っていること、気になることはありませんか」「最近便秘気味。オリーブオイルを飲むのでお水だけだと水分が足りない」と花菱さんが訴える。

飲み忘れ防止の工夫も

ているものは、血糖値に影響するから注意が必要。2人の会話を続ける。

「カレンダーは開きやすい」とも、薬剤師さんは気軽に相談できる」と久美子さん。薬がずれるに時間がかかる錠剤を液体に切り替えるなど、やり取りの中で改善していた薬もある。

「薬剤師はいろんな薬を使っているのだから情報を持っている。薬名を覚えてほしい」と飛井さん。

1カ月の訪問のほかに、終夜急診した際、医師の処方箋に基づき抗生物質を処方するなど緊急対応も行っているという。

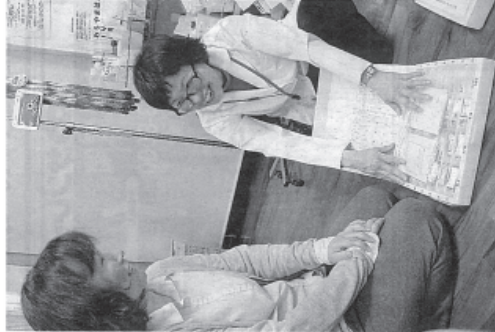
「薬局などとしても医療機関のベイスになるが、在宅訪問だと患者のペースに合わせて、生活の質（QOL）の向上につなげられる」（飛井さん）

糸織市の「薬師まはる」の薬剤師大城恭子さん（57）は6年間、全身の筋肉が使えなくなる難病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）で寝たきりの平良ツネさん（80）を訪問している。11種類の飲み薬を1週間分朝昼夜・寝る前に分けて整理した薬箱を週ごとに届ける。

会社員として働きながら母親を看護する娘の砂川ひろえさん（49）とも気心の知れた仲。「最近何か心配なことあったら、便を自分たちが出しきれなくて」とひろえさんがツネさんの近況を報告する。

大城さんの滞在時間は毎回30

薬剤師は薬にだけ詳しいと思われがちだが、通院が困難な患者さんの自宅を訪れ、薬を磨いたり、薬の飲み方や管理をアドバイスするサービスも行っている。患者からは、薬のことを気軽に相談でき、長い時間待たなくて済む、薬を運ぶなどの手間が省けると好評だ。薬剤師にとっても、薬が安全に使用されているか確認したり、患者に声かけする機会になっている。在宅医療が進む中、ニーズを増す薬剤師の在宅訪問を取材した。（写真部・高橋優子）



自宅で母・平良ツネさんを看護する砂川ひろえさん（左）に薬箱を届ける大城恭子さん。「入院時にはそのまま持って行って便利」と砂川さん＝那覇市市内

時間かけて指導や管理

分1時間。薬を手渡すだけでなく、「エッセイ」の時間でツネさんの健康状態を確認したり、アドバイスする。その間、おきなわの話を耳を離さず聞いている。

「薬の使い方だけでなく、おきなわもよく相談する。本当に助かっているひろえさん。以前は自分で1度、薬局に通ったが、薬剤師だけでも10分入らないうちにもう1度、その面でも助かっている。」

大城さんは「薬剤師は薬を出すのが、薬が本当に飲まれているのかが心配なところがある。在宅訪問だと、薬についておきなわと話をし、空になった薬箱が返ってくることで「ちゃんと飲まれている」と安心する」と語った。

平成28年4月18日(月) 沖縄タイムス

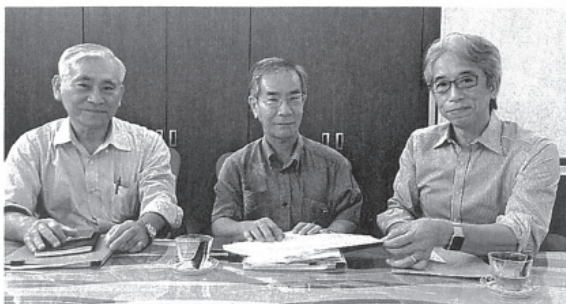
転載記事

平成28年4月19日(火) 沖縄タイムス



kurashi@okinawatimes.co.jp

対応薬局 県内で1割



在宅医療に力を入れる考えを示した県薬剤師会の(左から)亀谷浩員会長、仲真良重さん、荒井千春理事。南風原町・県薬剤師会

薬剤師による在宅訪問サービスをを行っている薬局は18日現在、県内に58カ所ある。県内全薬局の1割程度にとどまっており、全国の2割に比べ少ない。

薬剤師の在宅訪問

下

有資格者割合 全国で最少

人材養成への取り組みも

人口10万人当たりの薬剤師数(人)

	総数 (有資格者)	薬局	医療 施設	大学	医療品 企業
全国	226.7	126.8	43.2	4.0	34.3
沖縄	148.4	93.1	37.9	0.4	9.3

※2014年、厚生労働省調べ

背景にあるのが薬剤師不足だ。県内は人口10万人当たりの薬剤師数(有資格者)が148・4人(全国平均226・7人)で、全国で最も少ない。「高齢者人口が増える中、在宅医療のニーズはこれからますます高まり、この分野での薬剤師の役割もさらに重要さを増す」。県薬剤師会の亀谷浩員会長

長はそう強調する。国も、在宅医療を重視する姿勢を示している。

在宅患者の飲み忘れなどで無駄になっている薬剤費は年間約500億円に上るといわれる。これを減らして医療費削減につなげようと、2016年度の調剤報酬改定で、薬の飲み残しや重複投与を減らす服薬管理への報酬を加算した。

だが、「薬剤師のマンパワーの問題で、在宅訪問サービスに取り組みたくても、取り組めない薬局が多い」(仲真良重・医療保険委員会委員長)という現状が県内にある。

薬剤師不足は全国的な課題で、病院や薬局は争奪戦を繰り広げている。県内には薬学部がないため、さらに人が集まりにくい。県薬剤師会は、琉球大に薬学部創設を要請している。

◆ 県薬剤師会は昨年6月、在宅

医療を担う薬剤師の養成・支援を目的に「在宅医療委員会」を発足させた。

委員長の荒井千春さんは「この分野に興味を持つ若手の薬剤師も少しずつ増えてきている。在宅医療に関わる薬剤師を1人でも多く増やしていきたい。しっかり教育・指導して、質の高い医療を提供できる人材を育てたい」と意気込む。

特に最近、需要が高まっているのが、医療用麻薬を必要とするがん患者などの緩和ケア。対応できる薬局は在宅訪問サービスを行う58局の6割にとどまっており、委員会は、実践講座を開くなどして力を入れていく計画だ。

住み慣れた自宅で病気を治療したい、最期を迎えたいと願う人は増えており、ニーズに応える取り組みが求められる。

(学芸部・高崎園子)

通院困難者・服用に不安のある人対象に

薬剤師による在宅訪問サービスは、自宅または医師・薬剤師が常勤していない介護施設などで療養している人が対象だ。病院や薬局へ通うのが困難な

人や、自宅での薬の使用や管理に不安がある人で、薬剤師の在宅訪問が必要と医師が認めて薬剤師に指示し、本人(家族)が同意することが条件となる。

1回当たりの料金は、医療保険では在宅患者訪問薬剤管理指導料として650円、介護保険では居宅療養管理指導料として自宅の人は503円、介護施設

に入居している人は352円(いずれも自己負担1割の場合)かかる。

県内の在宅医療支援薬局一覧は、県薬剤師会のHPに掲載されている。アドレスは、<http://www.okiyaku.or.jp/zaitaiku/risto.html>

転載記事

平成28年2月10日(水)

生活苦 投薬治療諦める患者

薬代 数百円もない

「抗がん剤」2万5505円、「リウマチ治療薬」3万1629円、「インスリン製剤」63658円。全日本民医連の全国保険薬局調査（2011年）で明らかになった患者の1回当たり薬代窓口負担額だ。全体平均は9972円。中でも無料・低額診療（無低診）患者は日々の生活に精いつばいで医療費が捻出できず、重篤化して病院に足を運ぶケースも多い。薬代は高額になりがちという。

（1面参照）



無料・低額診療患者の分納相談票などを整理する薬局員。那覇市古波蔵のこくら虹薬局

重篤化 高額のケースも

未来 支える

生活保護を受ける寸前の世帯収入で生活する無低診患者にとって、薬代は時に生活が立ちゆかなくなるほどの出費になる。

那覇市のこくら虹薬局では、薬代が払えない無低診患者に支払い相談を行った上、100円〜千円単位の分納で対応するなど治療を続けられるよう独自に取り組み。ただ支払いが滞ることも多く、窓口で相談を受けた職員は法制度にシレンマを感じている。

1回3300円分の薬代も払えない50代男性は、工場の日雇い収入は月約10万円。肺うつ血で呼吸困難になり緊急受診し無低診で抗血栓薬などの処方箋が出された。同薬局に相談して支払いを待ってもらい、生活保護を受けた約1カ月後にまとめて計21700円を払うことができた。

ただ、こうした事例は支援にうまくつなげられたケースで、同薬局の宮城幸枝薬局長は「無低診で処方箋を受け取っても、どうせ払えないと諦めて薬局に来ない患者もいる」と話す。

実際、隣接する沖縄協同病院が12年4月から約1年半の間に発行した那覇市民分の処方箋274件のうち、60件は行方不明。一度は薬局で薬をもらっても、次回は支払えないからとその後、診察そのものを控える患者もいると想定されるが、薬代が払えない潜在的な患者は「どれくらいか、実数は分からない」（同薬局）のが実情だ。

投薬は治療の一端。診察を受けただけでは病状は悪化し、命に関わりかねない。宮城薬局長は「診察代より薬代が高額になることもあり、助成は急務だ。お金の切れ目が命の切れ目になりかねない。那覇市の助成制度は大変意義がある」と話した。

▼ことば

無料・低額診療（無低診）事業 経済的な理由から医療費の支払いが難しい世帯を対象に医療費の減額や全額免除を行う社会福祉法にのっとった事業。一方で薬代は自己負担が必要。都道府県の認可を受けた医療機関が独自の基準で対象世帯を決める。県内の無低診患者は2014年度で1800人いた。

沖縄タイムス

助成の拡大が急務

解説 無料診療を受けても、肝心の薬が買えない。法制度のゆがみで命の危険にさらされかねない無料・低額診療（無低診）患者を救おうと、那覇市が独自の助成事業に踏み切った。だが対象は那覇市民のみで、県レベルでの問題解決には程遠い。ゆがみを生んだ当事者の国はもとより、他市町村も那覇市に続くべきだ。

（社会部・篠原知恵）

社会福祉法にのっとり無低診事業が始まった1951年は、薬代も減免対象だった。当時は病院内で薬を受け取ることができ、薬局も無低診の対象になる「診療を行う医療機関」（病院）の一部だったからだ。ところが70年代に入り国が医薬分業政策を推進し、院外薬局の流れが加速した一方で実態に即した制度改正はなされず、今日まで院外処方箋は無低診の対象から外されたままだ。新たな法律や税制改正の可能性があるため国側の動きは鈍く、いびつな構図を長引かせている。

そんな事態にしびれを切らし、高知市は2011年全国で初めて薬代の独自助成に踏み切った。本来は国が解決すべきといはいえ、看過できない命や健康の問題を前に自治体レベルでの「応急処置」を施した。12年には中核市市長会なども無低診患者が確実に投薬治療を受けられるよう、国に制度見直しを求めている。

無料・低額県内6施設

相談員が生活サポートも

施設	電話番号
沖縄協同病院	098(853)1200
中部協同病院	098(938)8828
那覇民主診療所	098(880)9620
糸満協同診療所	098(992)3920
首里協同クリニック	098(884)4846
浦添協同クリニック	098(870)8060

無料・低額診療（無低診）の新規患者を受け付けている県内の病院や診療所は9日現在、那覇市の沖縄協同病院など6カ所。車や持ち家が手放せないなどで基準に達していても生活保護を受給せず、医療費の捻出が難しい世帯の一次的な「駆け込み寺」にもなっている。

無低診は実施する病院や診療所の慈善事業的要素が強く、生活状況が改善したり、公的制度につなげたりするまでの暫定措置。ソーシャルワーカーなどの相談員が治療や生活立て直しを支援する。

無低診を受ける患者の年代や性別は幅広く、働き盛りの中高年や子どもを持つ親の相談者も多いという。

児童扶養手当増額案を決定

政府、第2子以降にひとり親家庭に支給する児童扶養手当で、第2子の加算額を月額5千円から最大1万円、第3子以降を月額3千円から最大6千円にそれぞれ引き上げる児童扶養手当法改正案を閣議決定した。施行は8月1日を予定しており、12月に支払う8〜11月分から反映させる。

第2子の加算額引き上げは1980年以来、第3子以降は94年以来で、加算額

子ども医療費自動償還払い

中部病院 22日開始

県立中部病院が、子ども医療費助成金を利用者の口座に直接振り込む「自動償還払い」を22日から始めることが9日、分かった。県立病院での未実施は子ども医療費助成の利用が見込まれない清和を除き、同病院だけだった。遅れの原因となっていた電子カルテのシステム導入予定は10月だが、それまでの約8カ月間は手作業という異例の暫定策で乗り切りたい考えだ。

自動償還払いは、県内35市町村と県内医療機関の7割超で実施され、県立中部病院での未実施は昨年12月の県議会で問題視された。導入までに別のシステムを入れるとさらに費用がかかるため、中部病院は開始を優先させ、特設カウンターに職員1人を常時配置し、保護者からの申請を受け付ける。担当者は「10月まで待たせるわけにいかず、可能な分だけでも対応したい。支払った金額や名前、住所などを申請書に書いてもらうよう協力をお願いしたい」と話した。

動かぬ命に格差

転載記事

平成28年2月10日(水) 沖縄タイムス

困窮世帯に薬代助成

那覇市 「安心して治療を」

未来を支える

生活苦で医療費が払えず、無料・低額診療(無低

診)事業を受けている生活困窮世帯のために、那覇市が2016年度から、薬代の助成事業に乗り出すことが9日分かった。同様の事

業は県内初。薬代が払えず病状を悪化させる患者を減らし、生活保護受給の手前にいる人々の救済を目指す。那覇市福祉政策課の當

山忠彦主幹は「経済的に苦しくても生活保護を受けていない困窮世帯に安心して治療を続けてもらいたい。予算は小規模でも、救える人がいることを他市町村も知ってほしい」と話した。

(26・27面に関連)

現在、県内8カ所の病院や診療所が実施している無低診事業は、収入が生活保護基準の1・3倍以下の困窮世帯などを対象に、医療費を減免する。だが社会福祉法上、保険薬局など病院

外で処方される薬代は対象外。診療は無料や低額でも、薬代が払えずに診療を控えるざるを得ない患者は少なく、法制度の不備が指摘されていた。

那覇市は16年度から、市内在住の無低診患者を対象に、薬代の窓口負担分を助成する事業を実施し、投薬を含め一体的に治療を受けられるようにする。重篤化を防ぐことで、長期的には生活保護受給世帯の抑制にもつながるとの考えだ。市

内の対象者の実数がかみにくいことから、県外の先進自治体の実績を参考に、来年度は当面の予算として55万円を盛り込んだ。

薬代助成を求め患者ら4177筆の署名を集めた県民主医療機関連合会所属の保険薬局、沖縄健康企画の上原幸代代表取締役も「本来は国が制度改正すべきだが、健康や命の問題は待たなし。他の市町村も続いてほしい」と訴えた。

(社会部・篠原知恵)

転載記事

琉球新報 2015年12月22日

「合法ドラッグ」「脱法ハーブ」などを使用後、暴走運転による死傷事故が全国で相次いだことを受け、昨年からは「危険ドラッグ」と呼ばれるようになりまし。県と県警による危険ドラッグ販売店への立ち入り検査などにより、沖縄では昨年末に販売店舗はなくなりまし。しかし、SNSなどネットを通しての販売は全国で行われています。昨年、那覇市のマンションが危険ドラッグ密造工場として家宅捜索され、4人が逮捕されました。ここから全国に発送していたようです。

先月、京都市では小学6年生が大麻を吸ったとの衝撃的な報道があり、府立高校生の兄が逮捕されました。沖縄では過去に中学時代から大麻を栽培していたとして17歳の少年が逮捕された事件もあります。他にも大規模なハウス栽培の件や、大量の覚せい剤が押収された件などがあり、それらを氷山の一角と考えると、事態は深刻です。大人



吉田 洋史

沖縄県薬剤師会理事

身近に潜む薬物と依存症

南風

有名芸能人の薬物依存症による逮捕の報道は後を絶ちません。彼らはそのために周りに迷惑を掛け、家族や友達を失っています。年末年始、皆で集まる機会に、危険ドラッグ、たばこ、アルコール、医薬品の使い方などについて話し合う時間を設けてみませんか。大切な家族や友人を守るために。

薬物の怖さは一度では済まず、繰り返し手を出してしまうことです。最悪の場合、一度の使用で中毒死に至ることもあります。たばこやアルコール、医療用医薬品、一般用医薬品でも依存症になる人がいます。決められた量以上を使つていませんか。やめられなくなつていませんか。

から若者、学生へと低年齢化していることは、薬物がとても身近に存在している証しでもあり、強い危機感を覚えます。子どもや若者はまだ完全に脳や体が成長していません。危険ドラッグの影響は大人以上です。薬物の怖さは一度では済まず、繰り返し手を出してしまうことです。最悪の場合、一度の使用で中毒死に至ることもあります。たばこやアルコール、医療用医薬品、一般用医薬品でも依存症になる人がいます。決められた量以上を使つていませんか。やめられなくなつていませんか。

〔訂正とお詫び〕 前号280号（平成28年1・2月号）にて、執筆連載終了した旨の記載は誤りでした。上記12月22日付記事で終了となります。

平成28年2月17日(水) 沖縄タイムス

くまぐさ 患者さんの笑顔のために 崎濱 祐美子

私の職場は某病院内の院外処方せん案内コーナー、通称「FAXコーナー」だ。3人のスタッフで案内業務を行っている。

そこには日々、多くの患者さんや家族の方が訪れる。病気を抱えながらも明るく前向きな方、重い病気と一生懸命闘っている方などいろいろだ。そんな方々と接して思うのは健康のありがたさ、そして生きていることの尊さだ。

私たちがいるコーナーはオープンカウンターなので、本来の業務

以外にもいろいろなことが舞い込むができる限りの対応を心掛けている。

私が直接、患者さんの病気を治したり待ち時間を短くすることはできないが、常に患者さんの立場に立って寄り添い、笑顔を引き出せるような存在でありたいと思っている。

わずかな時間ではあるが、病院で最後に立ち寄るこの場所が心地よいと感じてもらえるよう心を込めて、一人一人と向き合っている。

(浦添市、50歳)

沖縄県薬剤師会の琉球大学医学部附属病院FAXコーナー職員の投稿文が掲載されていました。

平成27年度 第6回定例理事会 議事概要

日時：平成27年8月8日(土) 19:00～22:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子

理 事：山里勇、宮城敦子、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、下地仁、笠原大吾
姫野耕一、佐藤雅美、吉田洋史、荒井千春、吉富弓江、川上善久（代理出席）

監 事：友利弘一

欠 席：幸地良信、成川賢一、石川恵市、新垣秀幸

事 務 局：山城英人、前原里江

議 題

1. パート職員賞与支給について

（山里常務理事）

パート職員への賞与支給について、薬剤師6万円、事務職5万円を限度額とし支給すること、さらに支給基準に満たないパート薬剤師職員について会長決裁により、1万円を支給してもよいか。

（吉田理事）

今回、支給基準に満たないパート薬剤師職員への1万円支給することについて、冬季賞与でも同じように支給するのか。

（亀谷会長）

財務状況によって判断する。

（姫野理事）

賞与は職種に関係なく一律で支給するべきではないだろうか。

（亀谷会長）

薬剤師会の団体として差をつけることは、妥当と考える。

提案のとおり賛成多数で承認された。

2. 沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議について

（山城課長）

沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議に委員として会長が参加している。OISTの発展に向けた県民への広報啓発や必要に応じた関係機関への要請等にかかる当会議の事業活動は、県からの補助金に加え各種団体、企業、個人からの寄附金により行うこととなっている。当会では、毎年2万円を寄附している。今年度も同額で寄附をしてよいか。

賛成多数で承認された。

3. 管理薬剤師兼務について

(我喜屋常務理事)

沖縄県より、会営薬局において管理薬剤師兼務が許可されたことについて、会員各位に対して管理薬剤師の募集について文書をFAX一斉同報してよいか。

(吉富理事)

開設者の了解を得るための開設者に対する文書も必要ではないか。

開設者へ理解を求める文書も別途用意することで承認された。

4. 各種委員会委嘱について

(山城課長)

地域保健開局委員会に委員を3名追加。災害対策委員会には5名追加し、その内2名を行政枠で、沖縄県と那覇市から各1名入れたい。

(吉田理事)

災害対策委員会については、沖縄県と中核市となった那覇市との連携が必要になってくる。

賛成多数で承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

(2) BLS (Basic Life Support; 一次救命処置) 講習会 (アドバンス)

7月12日(日) おきなわクリニカルシミュレーションセンター

(笠原理事)

去年からの継続的な講習でBasicの講習を受けた者が受講資格となっている。4名の参加があった。

(3) 豊見城中央病院訪問

7月13日(月) 豊見城中央病院

(亀谷会長)

県薬会長就任のあいさつとして、前濱副会長、山城課長とともに潮平院長を訪ねた。

(4) なごみ会主催県民健康フェア打ち合わせ

7月13日(月) 県薬

(22) と関連事項。

(5) 県民健康フェアに係る新聞社周知依頼訪問

7月15日(水) 沖縄タイムス・琉球新報社

(亀谷会長)

県民健康フェアの開催を県民へ周知するために、当会・県医師会・県歯科医師会・県看護協会の四師会で琉球新報社と沖縄タイムス社を訪問し協力を要請してきた。

(6) 個別指導 (2薬局)

7月16・30日(木) 那覇第一地方合同庁舎・県庁

(7) 平成27年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会

7月16日(木) 沖縄県後期高齢者医療広域連合

(江夏副会長)

新しい平均寿命が発表され、男性80.5歳、女性が86.83歳と伸びている。現在、後期高齢者において平均寿命と健康寿命の差をいかに短くするか等について、これまでは紙レセプトを集計しデータ分析してきたが、平成26年度からの電子化の進展により、データベースシステムを

用いて、より詳しく効率的かつ効果的にデータを収集できるようになった。それに基づき、3年間をかけて全国的にデータヘルス計画を実施してきた。そこから見えてくる沖縄県の特徴は、全国に比較して外来患者数の割合が最も低い。しかし、入院後の医療費が大変高くなっている現状があり、病気の重症化が進んで初めて医療機関を受診するケースが多いことが分かっている。75歳以上の医療費を軽減化するためには、沖縄県の問題であるメタボリックを減らすことも、重要視されている。沖縄県では、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症、これらの疾患死亡率が高い。糖尿病性腎症については透析に力を入れ結果が出ているが、虚血性心疾患においては男女とも増加の一途をたどっている。それらに対して3年間でさらに詳しく調査し、アウトソーシングであらゆる疾患を持っている患者宅を保健師が訪問し、受診を促すなどの取り組みをした結果、8千万円程の医療費が軽減された。今後もそれらを継続し、しっかり取り組んでいくとのことであった。

(8) 第52回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡

7月19・20日(日・月) 福岡大学薬学部

(我喜屋常務理事)

ワークショップ派遣について、例年希望者と地区推薦ならびに地域毎の指導薬剤師の有無や数を考慮し平等な配置を考えて割り当てしている。今年度は西坂順先生(北部地区推薦・ふく薬局うむさ店)、親川智史先生(ゆい大東薬局・糸満潮平・那覇安里・浦添経塚・名護に店舗あり・移動可)、普久原隆先生(アリス薬局・泡瀬地区)、長谷川幸司先生(豊見城薬局)、宮本直樹先生(クララ薬局・南風原)の計5名が参加した。八重山地区は対象者不在のため次年度に持ち越す。また、今回からワークショップ申込書を用いている。これまでワークショップに参加希望であっても条件を満たしていない等、全国的に問題が起きたためである。特徴的であるのが、申込書の最後の方に受入意思欄を設け、「必ず受け入れる」にチェックをしていただく。ワークショップ参加後は、必ず実習生を受け入れていただくことが前提であることを明確にしている。

「改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習に関する事前調査」の件について、平成31年度以降の実務実習においてはガイドラインの実効性が重要な要素となる。そのためには、①実習順序をも考慮した4期制による実習施設の確保、②全ての実習生がどの実習施設でも公平かつ幅広く学ぶことができるように実習施設の質の向上と質の高い実習施設の確保、さらにグループ実習、一施設あたりの受入れ人数をも考慮した実習施設要件の見直し等の課題に対応していくことが必須である。そこで、これらの課題への対応策の検討のために、全国の実務実習に関連している医療提供施設を対象として実務実習に関する事前調査を行うとのことである。

平成28年3月31日に認定の有効期間が終了する認定実務実習指導薬剤師の更新手続きについては、平成27年5月1日から開始され、認定実務実習指導薬剤師養成講習会(更新講習:講座力)が平成27年4月1日より実施可能となったことを受けて、当会においては早速5月31日に開催した。また、更新講習を受講しにくい対象者がいることも予想されることから、当面の措置としてeラーニング(有料)を実施するとのことである。詳細については、今後改めて連絡が入ることになっている。

(9) 研修会講師派遣

7月19日(日) 琉球治療院

(亀谷会長)

琉球治療院という民間の施設より、職員研修を行いたいとのことで講師派遣の依頼があった。講師選定を笠原理事と相談し、大城恭子先生と笠原理事に講師をお願いした。

(笠原理事)

自宅療養中の方にマッサージの施術をする訪問専門の施設である。依頼の経緯は、訪問患者が様々な薬を服用しているとのことで、薬の副作用などに関する知識を深めたいという目的で、講師依頼があった。

(亀谷会長)

民間施設からの依頼で、引き受けても良いか否か迷ったが、薬剤師を世間に周知していく方針のもと引き受けた。様々な機会を捉えて、薬剤師の職能をPRしていきたいと考えている。

(荒井理事)

県薬として引き受けたことで、講演の様子をパンフレットやホームページ等に利用されてしまう恐れがあるが、県薬の立場として問題ないのだろうか。

(亀谷会長)

そういったことが発覚した場合は、対処していきたいと思う。

(下地理事)

今後も他の所から講師依頼があった場合は、引き受けていくのか。

(亀谷会長)

公共性の有無や薬剤師会にメリットがあるのかどうかを基準として検討していきたい。依頼を全て受けるということではない。今回はテストケースということになる。

(10) 管理薬剤師兼務についての打合せ

7月21日(火) 会営薬局とよみ

(39) と関連事項。

(11) 子ども生活福祉部より来訪

7月22日(水) 県薬

(前濱副会長)

幼保連携が今年度4月から始まり、学校保健法の適用により認定こども園の開設の許可に学校三師が必要となるとのことで、学校薬剤師の職務内容の確認のため来訪された。また、次年度に向けて、受ける園側も学校薬剤師をどのように活用すべきか、学校薬剤師の職務を理解していないこともあるため、それらの事情について話し合いをした。

(12) 地域保健開局委員会

7月22日(水) 県薬

(笠原理事)

委員長に笠原大吾、副委員長に村田美智子、書記に勝連貴子氏が選任された。平成27年度事業計画では、従来あった3つの委員会が集約されており、事業内容の整理を行った。DEM事業に関する事と高度管理医療機器継続研修会に関する事を医薬分業対策委員会で引き受けていただくこと。基準薬局制度に関する事は、日薬アクションプランができしだい、どの委員会が相応しいか検討すること。今後はスケジュールを整理し、委員の人数を増員しながら活動していきたい。

(13) 株式会社じほうより取材

7月23日(木) 県薬

(亀谷会長)

会長就任に伴い、じほうのWEB版「ファーマシー・ニュースブレイク」の取材を受けた。PNBと検索すると閲覧できるので見てほしい。

(14) 平成27年度第1回医薬分業対策委員会

7月23日(木) 県薬

(江夏副会長)

委員長に池間記世氏、副委員長に開局部門から吉田洋史氏と、病薬部門から姫野耕一氏、書記には川上雄一郎氏が選任された。当委員会の職務内容について確認を行った。その中で、

DEM事業と高度管理医療機器継続研修会を地域保健開局委員会から当委員会が引き受けることで了承された。医薬分業対策会議については平成27年9月27日(日) 13時から開催することにした。テーマは吉田委員の提案により、県医師会主体で当会も連携している「おきなわ津梁ネットワーク」の報告の内容を踏まえ、「おきなわ津梁ネットワークを活用した地域連携」で決定した。当日は、おきなわ津梁ネットワークを担当している比嘉靖先生(東部クリニック)に講演を依頼している。

(15) 会計監査 7月24日(金) 県薬

(16) 会報取材 7月24日(金) 吉原東洋堂薬局
(宮城常務理事)

吉原東洋堂薬局にて取材を行った。きっかけは吉田理事執筆の琉球新報「南風」に掲載されている記事を見た沖縄市在住の小学校5年生男児が薬剤師になりたいということで、琉球新報社に電話があり、よくよく記者がインタビューをしていくと、その男児のご家族が沖縄市高原の吉原東洋堂薬局に通っていた経緯があった。それらのことから、吉原東洋堂薬局で薬剤師の仕事体験をさせる企画が持ち上がり、琉球新報の子供向け新聞に掲載することになった。広報委員会でもそれに便乗し、取材することになった。この記事は9月1日に掲載の予定である。

(17) 平成27年度第2回広報委員会 7月27日(月) 県薬

(宮城常務理事)

「熟年の集い」を8月2日(日)に沖縄都ホテルで開催した。熟年の集い対象である70歳以上の会員が152名中26名の先生方が参加した。特別余興は、『落語で笑ってみんなで元気に!!』で、今帰仁村出身の若手落語家である北山亭メンソーレ氏を招いた。7月8日(水)に沖縄コンベンションセンター展示棟で開催されたしごとミュージアムに参加した。7月4日(土)、なは市民活動支援センターで開催されたグッジョブサマースクールは、那覇市内の小学生と保護者を対象とし、紙芝居で薬剤師職能を紹介した。紙芝居の後には、4つにコースを分け、調剤模擬、薬の正しい使い方講話等を行った。その他の事項として、会報表紙の掲載作品について、「海外の薬局」をシリーズにしていくこととなった。第1弾の7.8月号は、先日ご講演いただいたアッセンハイマー慶子氏のセントラル薬局(ドイツ)の外観を掲載予定である。海外旅行の際は薬局を撮影して写真を投稿いただきたい。

(18) 管理者会議 7月28日(火) 県薬

(19) 在宅委員会 7月28日(火) 県薬
(荒井理事)

在宅委員会から在宅医療委員会に名称を変更していただきたい。委員長に荒井千春、副委員長に玉城武範委員、書記には久手堅奈央委員が選任された。今年度の事業計画7項目について検討、協議を行った。①会員からの要望で、在宅医療マニュアルを作成(沖縄県薬剤師会編)してほしい旨の依頼があり準備を進めていたが、介護保険法等の改正で一時作成を中断していた。現在は、日薬や製薬メーカー等も作成しており、特に当会で作成する必要はないのではとの意見であった。日薬の在宅医療マニュアルに沖縄県独自の資料(在宅開始にあたっての事務的な事など)を添付する形にしてホームページに掲載してはどうかとの意見があり、引き続き検討していきたい。②無菌調剤施設利用の推進として、今後、各地区での利用状況、実際の実績を調査・確認し、ホームページ上に公表する予定である。③在宅医療における医療材料・衛生材料の供給に関する体制の整備についての、対策を検討した。医療材料分割販売を東邦ホールディングス株式会社が行っており、積極的に利用して頂きたい。他の業者もあれば随時周知

していきたいと思う。④沖縄県がん診療連携協議会→緩和ケア部会会議など（医療用麻薬適正使用の推進）、数か月に1回開催されており、参加状況を確認する。沖縄県薬剤師会から参加者をさらに、推薦していただきたい。⑤在宅医療推進のための講習会および研修会（フィジカルアセスメント講習会など）の参加者を確認する。病院薬剤師会が主催している内容（応用編）は、病院薬剤師会向けが主になっている。各薬局で在宅に関する講習会を別で開催できないか、小児科ドクターに小児難病の在宅医療について講演を依頼しており、了承が得られ、10月に開催を予定している。複数回の講演会開催が必要となってくると思われる。⑥地域ケア会議専門職派遣事業について（モデル市町村が宮古島市と沖縄市になっている）、沖縄市の状況は、月2回の昼間13時30分からの開催で参加が難しい状況。中部地区薬剤師会で検討した結果、県薬で参加できる薬剤師を募り、輪番で参加して頂きたいとの報告があった。各地区へ中部地区薬剤師会が募集案内をし、10月から参加して頂くことになる。⑦県薬ホームページ「訪問服薬指導実施薬局一覧」の掲載内容の再検討について、現在60薬局が掲載されているが、47都道府県のホームページを全てチェックして掲載の方法を確認した。今後は、地域連携や訪問看護が見ても分かるような形にしていきたい。掲載内容を各県のホームページを参考に見直しを検討する。「介護施設、小児在宅、緩和など各薬局の実績や出来る分野を載せてはどうか」「より詳しい情報を掲載した方が選ぶ側も選択し易いのではないか」「麻薬を取り扱っている薬局をMAPにして掲載している県もある」「薬局自身で、ホームページ上から“登録”“削除”が簡単にできるようにしてはどうか」「在宅医療（薬剤訪問）とはどういうことをするのか等を一緒に掲載してはどうか」「在宅委員会に参加できない宮古、八重山両地区のメンバーはスカイプで参加できないか」などが協議された。

(20) 財務委員会

7月28日(火) 県薬

(山里常務理事)

委員長に山里勇、副委員長に前原信照委員が選任された。本日の議題にあがっているパート職員の賞与支給基準の見直しについて協議した。そして、職員給与表については見直しから10年近く経っていることもあり、現在の社会状況に合わせ見直す必要もあるため、検討していくこととした。亀谷会長は就任して常勤となったため、役員報酬規程を見直すことを来年の3月の臨時総会の議案事項としたい。財務委員会委員の増員が必要と思われる為、推薦をしていただきたい。

(21) 平成27年度第2回都道府県会長協議会

7月29日(水) 日薬

(亀谷会長)

今回、初めて参加した。全国で11人の新会長の自己紹介から始まり、議題、協議と進められた。報告事項の中にある、平成27年度日本薬剤師会賞等の選考結果について、日本薬剤師会賞(6人)、日本薬剤師会功労賞(8人)、日本薬剤師会有功賞(1団体—大阪府箕面市、電子版お薬手帳を開発)となった。今回は沖縄県の該当は無かった。次に、日本薬剤師会を巡る最近の動きについて説明があった。日本薬剤師会の主な要望事項として、①公平な診療報酬・調剤報酬の改定(医科1:調剤0.3)をお願いする。②かかりつけ薬局・薬剤師機能を充実・強化するための予算措置をお願いする。③地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の活用を推進するための予算措置をお願いする。④保険調剤等社会保険診療に対する非課税制度について、軽減税率等による課税取引に転換すること等により、医療機関、薬局の消費税をめぐる問題の抜本的解決を強く要望する。⑤薬学教育に係る長期実務実習費について非課税としていただきたい。⑥セルフメディケーションの推進に資する薬局に係る不動産取得税・固定資産税の軽減措置を

創設することを強く希望する、となっている。

他に、日薬版電子お薬手帳の公開について報告された。来年の4月1日よりスタートする予定であるとのこと。

- (22) なごみ会主催県民健康フェア打合せ 7月29日(水) 沖縄県医師会 <資料配布>
(笠原理事)

なごみ会主催県民健康フェアを明日に控えている。台風が近づいているが、予定通りに執り行われることになっている。

- (23) 平成27年度第1回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議 7月30日(木) 南部保健所
(24) なごみ会主催県民健康フェア県薬打合せ 7月30日(木) 県薬
(25) 第8回熟年の集い 8月2日(日) 沖縄都ホテル
(17) と関連事項。
(26) 薬学生実務実習受入委員会 8月3日(月) 県薬
(8) と関連事項。
(27) 平成27年度第2回医療安全対策委員会 8月4日(火) 県薬
(吉富理事)

委員が新たに6名追加された。会議事項は、①平成27年度医療安全講習会(H28.2.14)開催について、講習会講師及び講演内容等についての推薦を8月中に事務局の大城まで提出し、委員長、副委員長にて最終決定する。委員にはメールにて連絡する。②薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアルについて、委員が変わったこともあり、事故発生後の対処の流れ図(連絡先等)の確認を行った。各地区の連絡先についても再確認した。③子どもによる医薬品の誤飲防止対策啓発ポスターについて、標記ポスターは、既に理事会で承認済みでポスター印刷も完了し、会員の薬局、医師会等協賛機関にも配布する。また、8月9日(日)のなごみ会主催県民健康フェアの本会ブースで掲示し、配布もできるように準備をしている。④本委員会の構成・役職について、これまでの経験等を考慮し、各役職は次のとおり決定した。委員長に平良栄子委員、副委員長に高良武委員、書記に名嘉紀勝委員。⑤医療事故に係る調査の仕組みについて糸嶺委員より説明があり、薬局には直接関わらないが、本年10月より「医療事故調査制度」がスタートする。第三者機関(医療事故調査・支援センター)が収集・分析することで再発防止につなげるための医療事故に係る調査の仕組み等を医療法に位置づけ、医療の安全を確保する。対象となる医療事故は、医療機関に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、または起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該医療機関の管理者がその死亡又は死産を予期しなかったものとする。今回の制度には、薬局は含まれない。しかし、薬剤師会は「支援団体」になる為、要請があった場合は必要な支援を行わなければならない。

- (28) 高園産業株式会社より来局 8月4日(火) 県薬
(亀谷会長)

表敬訪問があった。

- (29) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 8月5日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
(亀谷会長)

神村会長から引き継ぎ出席した。

(30) 第1回日薬九州ブロック会議

8月6日(木) 福岡県薬剤師会

(亀谷会長)

マスコミ報道等で薬剤師バッシングがされていることについて、各支部で薬剤師職能に対する意義を研修会等で行ってはどうかとの説明があった。今後、該当する委員会と協力し、どのように進めていくか検討していきたいと思う。

(31) 調剤薬局における結核患者への服薬支援研修会

8月6日(木) 県薬

(山城課長)

沖縄県主催で開催された。調剤薬局で結核患者への服薬支援を担うために、昨年度試験的に県立中部病院近隣の薬局を中心に服薬支援を行ったところ、効果的であると実証された。そのため、今年からは全県的に実行していきたいとのこと。約90名の参加があった。

(32) 平成27年度第2回沖縄県がん診療連携協議会

8月7日(金) 琉球大学医学部

亀谷会長が出席した。

(33) 沖縄県薬事功労者知事表彰について

(山城課長)

薬事功労の県知事表彰として、これまでの功績により、宮古地区の川満正啓氏を推薦している。

(34) 医薬品販売制度対応に関する自主点検の実施について

(亀谷会長)

日薬から依頼のあった薬局へのアンケート調査を実施し報告した。

(35) 「薬剤師就業と認定薬剤師に関するアンケート調査」について

(村田常務理事)

日本女性薬剤師会よりアンケートの調査依頼があった。調査目的は、現場で働く女性薬剤師の将来像と認定薬剤師の認識を調査して、本会の主たる目的である女性薬剤師の体系的な教育と認定薬剤師輩出のための方向性を検証することを目的としている。アンケートの対象は、女性薬剤師だけではなく男性薬剤師も含まれる。FAX一斉同報を検討する。

(36) 「薬剤師に期待する役割アンケート調査」のお願い

(村田常務理事)

女性薬剤師部会より、幼稚園児・保育園児保護者の皆様方へのアンケート調査を実施する。目的は、今後、行政が行う「妊婦健診」や「乳幼児健診」に、薬剤師が「薬の相談者」として参加することも地域に貢献できることのひとつではないかと考えており、まずは実情を把握したい。

(37) 論壇掲載について

(村田常務理事)

沖縄タイムスの論壇に狩俣イソ先生の薬草についての文が掲載された。その記事を見た玉木病院の理事長より電話があった。リハビリ農園(2千坪)を琉球大学農学部教授と企画しており、その企画に参加してほしいと依頼であった。

(38) 琉球放送「すくすくあかちゃんねる」取材について

(宮城常務理事)

毎週土曜日午前11時25分から放送されている番組で、子どもへの正しい薬の飲ませ方、使い方をテーマに企画しているとのことで、薬剤師の出演をお願いしたい旨の依頼があった。検討した結果、会営薬局とよみ職員の勝連貴子先生に出演をお願いした。撮影は8月中旬から9月上旬頃に予定されている。

(亀谷会長)

この件に関しては薬情報センターがサポートをする。

(39) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

(我喜屋常務理事)

まだ厳しい状況が続いている。管理薬剤師兼務が会営薬局の休日夜間に限り許可されたことを活用して会員に呼び掛ける準備をしている。

(山城課長)

人材派遣会社より紹介があり、交渉中である。改めて、理事のご協力と薬剤師の紹介を強く願います。

(吉田理事)

薬局長の交渉はどうなっているか。

(我喜屋常務理事)

ある人物と交渉中である。それ以外でも皆様からの紹介を強くお願いしたい。

(山里常務理事)

その方は責任感の強い方なので、引き続き交渉した方が良いかと思う。

(40) DEM事業参加について

(江夏副会長)

今年度より、医薬分業対策委員会がDEM事業参加の呼び掛けを行っている。昨年は、全国7,942軒の薬局から24,679名の患者様にご協力いただき、有用な調査結果が得られた。しかし、沖縄県においては、70軒の薬局から23名の患者様からしか回答が得られず、例年他県に比べ極端に低いものとなっている。調査実施期間は、平成27年9月14日(月)～9月20日(月)の一週間となっている。ご協力いただきたい。

(亀谷会長)

この事業は、日本薬剤師会が世間にアピールできる唯一の事業である。薬剤師の地位向上のためにも、是非ご協力願いたい。

(荒井理事)

とても大切な事業であるので、8月に行われる予定の調剤報酬講習会の際に説明し、PRしてはどうか。

(江夏副会長)

そのように計画している。

(41) アタマジラミ症治療薬に関する報告

(亀谷会長)

沖縄のシラミは耐性力があり、一般の市販薬では効かないということで、東京理科大学薬学部の小茂田氏が調査をしている。今後、「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」の議題に挙がると思われる。引き続き、ご支援くださいとのことである。

(42) 日本薬剤師会学術大会 助成金一般公募について (8/24 開始)

(山城課長)

11月に開催される日薬学術大会(鹿児島県)において、どのホテルも満室状態で取れないとの声があったため、事務局で探してみた。苦労したがどうにか23部屋確保できたのでご応募いただきたい。当大会に対して助成金1人2万円(全額40万円を限度)を支給したい。例年、助成金は九山薬学大会を対象とし、日薬学術大会は対象としていないが、今年度は、九山薬学大会

は開催されないため、日薬学術大会で適応したい。

(山里理事)

助成金は限度額が決まっているので、同じ職場から2人以上の助成金申請は遠慮して頂きたい。

(43) その他

(亀谷会長)

神村前会長から次の提案をいただいている。歯科医師会の比嘉会長より四師会が集まった医療ゾーンを活用し健康フェアを開催したらどうかと意見が出され、医師会の宮城会長と賛同した。共に連絡を取り合い検討して頂きたい。

とても良いことであるので、今後検討していく。

(薬連)

(1) 沖縄県薬剤師連盟 幹事長・副幹事長会議 7月15日(水) 県薬

(2) 役員選考についての打合せ 7月18日(土) 県薬

(亀谷会長)

沖縄県薬剤師連盟新役員の選考の打合せを行った。顧問に神村武之氏、幹事長に吉田久子氏、副幹事長に江夏京子、姫野耕一、石川恵市の3氏が選任された。

(3) 衆議院議員コクバ幸之助と未来を語る集い 岸田文雄外務大臣基調講演 <資料配布>

7月25日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長が出席した。

(4) 衆議院議員コクバ幸之助と未来を語る集い・懇親会

7月25日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長が出席した。

(5) 全国藤井もとゆき薬剤師後援会役員会 7月30日(木) 主婦会館プラザエフ

(亀谷会長)

来年の7月の参議院議員選挙は、薬剤師会の組織力が試される。来年度から18歳以上に選挙権が与えられるため、学生などの家族にもPRし、票を積み上げていく旨等が話された。

(6) 沖縄県薬剤師連盟全体会議並びに

全国藤井もとゆき薬剤師後援会活動報告会開催のご案内について

(山城課長)

8月12日(水)に開催予定である。藤井もとゆき先生、全国藤井もとゆき中央後援会副会長石井甲一氏をお招きし、国政活動報告をご講演いただく予定である。ぜひ、理事の皆様もご出席いただきたい。

(7) その他

(宮城総務)

南九州女性薬剤師の集い・ミニ集会 in 霧島ということで、7月11日から12日に前濱総務と出席した。参議院議員選挙をいかに戦うかということを議題に挙げ、「いつまでもあると思うな、医薬分業 自分の生活はもとゆきと守ろう！」をテーマに協議した。今の若い薬剤師は医薬分業が当たり前にある現状に甘えているので、危機感を持たせないといけない。藤井もとゆきを当選させたいと思っているので、また皆様のご協力をお願いしたい。

平成27年度 第7回定例理事会 議事概要

日時：平成27年9月12日(土) 19:00～21:40

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、前濱朋子、外間惟夫

理 事：山里 勇、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、姫野耕一
新垣秀幸、下地 仁、幸地良信、笠原大吾、荒井千春、吉富弓江、吉田洋史
上原卓朗（青年部会代理）

欠 席：宮城敦子、石川恵市

事 務 局：山城英人、大城喜仁

議題

(1) 慶弔規程の見直しについて

<資料配布>

(山城課長)

会員から、嫁の親が亡くなったので死亡広告欄に自費でよいから県薬の名義を借りたいとの要望があった。今回は会長決裁で承諾した。このような申し出が過去にも数件あったことから、慶弔規程の見直しを配布資料のとおり提案する。

(亀谷会長)

先の幹事会では、規程に「但し、新聞広告については希望により喪主側の経費負担で掲載することができる」という文を追加する提案で薦めていきたいということになった。但し、広告掲載は地元紙に限る。

(下地理事)

配偶者までは考慮してほしい。

(吉富理事)

規程変更に係わる事項であることと、この規程自体があまり会員に周知されていないと思われるので、今回は意見を求めるまでにして、次回理事会へ継続議題にしてはどうか。

次回の理事会への継続議題となった。

(2) 『薬と健康の週間』地元紙論壇への投稿者選出と執筆内容について

<資料配布>

(大城係長)

毎年、薬と健康の週間（10月17日～23日）中に地元紙の論壇コーナーへ、県民に向けて薬と健康に関する啓発の投稿を行っている。配布資料には過年度の執筆者と投稿内容を記載しているが、これを参照に今年度の執筆内容と執筆者を決めていただきたい。執筆内容を、①「かかりつけ薬局・薬剤師を持ちましょう」、②「医薬分業について」、③「在宅・地域医療について」を提案する。

(亀谷会長)

執筆者については執筆したことのない理事にした方が良い。

川満常務理事が①、荒井理事が③を執筆することで決定した。各執筆文は、広報委員会で確認し、事務局の大城がとりまとめて地元紙へ投稿することになった。

(3) 補欠の代議員選挙の実施について

＜資料配布＞

(大城係長)

去る7月13日に告示された一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員補欠選挙は、9月11日で受付を終了し、名護支部から玉城純氏、嘉手納支部から村田成夫氏、浦添支部から大城博次氏、小禄支部から塚本隆之氏、糸満支部から松本圭五氏が立候補し、各支部ともに定数内で無投票当選としたいが、この理事会で承認をいただき、来る10月9日に予定されている選挙期日後に正式に結果の告示をしたいと、野崎真敏選挙管理委員長から文書が届いている。

特に異議無く承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(2) なごみ会主催県民健康フェア

8月9日(日) 沖縄コンベンションセンター

(笠原理事)

来場者1,300名(医師会報告)で、当会のブースには問診票配布74名、受付合計134名であった。参加した委員からの反省として、受付時間を早めてしまった。問診票に受付人数確認のための連番を記載したら、受付番号と勘違いされた。測定コーナーでの待ち時間が長く長蛇の列となり、向かいの看護協会ブースに迷惑をかけた。問診票に相談内容と指導内容を記載したら、記載内容を欲しがることがあった。誘導係をしっかりと決めておく。自由研究コーナーは好評だった等が挙げられた。

(3) 公益法人のための『マイナンバー制度』対応セミナー／マイナンバー制度対策研修会

8月10日(月)・9月3日(木) 沖縄県卸団地商業組合・パシフィックホテル沖縄

(山城課長)

公益法人のためのマイナンバー制度対策のための各種説明会等に参加した。当会においては、職員はもちろん役員のマイナンバーも取り扱う対象者となっている。マイナンバーは平成27年10月1日時点の住民票が対象となっており、その後、住民登録している市町村から通知カードが届く予定になっている。各理事への役員報酬等の支払いの際にマイナンバーの把握が必要になってくる。通知カードが届き次第、事務局に提示していただくことになるが、適正な提示方法を取り提示後の取り扱いも厳重にするので、ご理解のうえご協力いただきたい。

(4) 琉球放送「すくすく あかちゃんねる」取材調整

8月12日(水) 県薬

報告(44)に記載。

(5) 個別指導

8月13日(木)・9月3・10日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(6) 地域医療支援病院運営委員会

8月13日(木) 豊見城中央病院

＜資料配布＞

亀谷会長が出席した。

(7) 平成27年度グッジョブにしはら☆わくわくワーク事前打ち合わせ会議

8月13日(木) 県薬

(前濱副会長)

8月23日に西原町町民交流センターで開催される小中学生対象お仕事体験イベント「グッジョブにしはら☆わくわくワーク」の事前打ち合わせ会議を、広報委員会の伊差川サヤカ委員を中

心に啓発活動員となっている若手薬剤師らと行った。当日は、参加する小学生に白衣を着てもらい保護者も一緒に参加させる方法を取り、最初は紙芝居で薬剤師の仕事紹介を行い、その後4つのグループに分かれ、4つの体験コーナーを各10分で体験し、時計回りにまわっていくという企画となっている。4つの体験コーナーは、①液剤の色の変化、②カプセル粉薬の混合、③一包化、④薬の種類と薬の効き方となっている。これらの啓発方法や必要な物品の調達等について話し合われた。しかし、8月23日前日に台風が接近したため一旦中止となった。

(大城係長)

後日、グッジョブ事業局から9月23日(水・祝日)に延期となったので改めて参加いただきたいとの依頼があり、前記の活動員に改めて調整をし、参加することになっている。

(8) 平成27年度沖縄県公務員薬剤師会退職者激励会・懇親会

8月14日(金) ダイワロイネットホテル沖縄県庁前 CafeVento

亀谷会長と大城係長が参加した。

(9) 症例検討入門研修会チューター打ち合わせ会議

8月15日(土) 県薬

(大城係長)

8月29日開催の第2回症例検討入門研修会のチューターの事前打ち合わせ会議で、チューターは潮平英郎、伊差川サヤカ、古謝さなえ(3氏ともに琉球大学医学部附属病院)、中尾滋久(ぴいぷる薬局)、玉城武範(ミドリ薬局美里店)の5氏が担っている。

(10) 調剤報酬請求業務講習会

8月16日(日) てだこホール

(川満常務理事)

ここ数年、同講習会の日に夏の甲子園で県勢の試合が行われる日が重なり、この日は興南高校が見事に勝利した。講習会にはそれでも例年通りに多くの参加があった。亀谷会長の挨拶、医療保険委員会の仲真委員長と吉田副委員長に共通して、国民から薬局への不評やこれからの診療報酬が厳しくなることが述べられていた。

(11) 支払基金本部役員来訪

8月17日(月) 県薬

(亀谷会長)

就任の挨拶であった。

(12) 地域保健開局委員会

8月17日(月) 県薬 <資料配布>

(笠原理事)

協議事項は、①平成27年度事業計画について、②薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業について(血糖測定器の購入について)、③平成27年度一般用医薬品等担当者全国会議の開催について、④医薬品の販売状況に関する実態調査について、であった。②は、8月から9月頃に開始予定の同事業に向けて測定器の選定をしていくことが話し合われた。③は、9月10日に東京都大手町のホテルで開催されることになっており、内容は主に「平成26年度医薬品販売制度実態把握調査」の結果を受けての今後の対応等について協議される予定となっている。一般用医薬品を多く取り扱っている盛本委員と私の2名を派遣することになった。

(13) 管理薬剤師兼務についての打ち合わせ

8月17日(月) 会営薬局とよみ <資料配布>

報告(53)に記載。

(14) 平成27年度第1回健康づくり(福寿うちな〜)推進協議会

<資料配布>

8月18日(火) 全国健康保険協会沖縄支部

(我喜屋理事)

協議会の議題は、①特定健診受診率、②特定保健指導実施率、③重症化予防事業、④福寿う

ちな～運動、⑤おきなわ診療ネットワーク、⑥妊婦の食習慣栄養調査などであった。①について、受診対象者数（平成26年度60.7%）は増えているが、目標値の64.4%には至っていないとのことである。

(15) 平成27年度第1回災害対策委員会

8月18日(火) 県薬 <資料配布>

(吉田理事)

最初に、委員長、副委員長、書記の選出が行われ、委員長は私、副委員長は姫野耕一氏、書記は事務局が担当することになった。次に委員会の職務内容とこれまでの活動内容の確認を行った。新型インフルエンザ対策については、沖縄県薬剤師会版新型インフルエンザ対策業務継続計画を10月頃までに作成することになった。災害対策については、沖縄県薬剤師会版災害対策業務継続計画（BCP）を他府県のものを参考に作成していきたい。これは、新型インフルエンザ対策業務継続計画を作成後に取り組む。備えるべき防災用品等については、災害ベストを20着購入済みであるが、他に、最低限必要なものは灯りとラジオで、災害対策本部となる事務局には、自家発電機を準備すべきではないか、4師会が集まる医療ゾーンでまとめて発電システム等は設置できないか、拠点薬局となる会営薬局には最低限まかなえる自家発電機を準備すべきではないか、との意見も出た。沖縄県薬務疾病対策課の新城委員からは、沖縄県の状況として8月12日に沖縄県と沖縄県医薬品卸業協会との間で「災害時における医薬品等の供給に関する協定」を締結した。沖縄県における備蓄医薬品の状況、災害時における薬事コーディネーターの育成およびそれらに関する沖縄県と沖縄県薬剤師会との間で協定を結びたいことなどが述べられた。

(16) 豊見城薬局との打ち合わせ

8月19日(水) 会営薬局とよみ

報告(53)に記載。

(17) 琉薬表敬訪問及び会報取材事前打合せ

8月20日(木) 琉薬

(亀谷会長)

広報委員会が卸会社を初めて取材することを聞いた。この日は取材ではなく、取材のための事前打ち合わせ会議で、石川理事と大城係長が琉薬担当者から説明を受けた。新社屋であること、また会長に就任して初めての訪問でもあるので、改めて稲嶺侃社長、神谷朝雄会長に表敬訪問をしてきた。

(18) 平成27年度第2回医薬分業対策委員会

8月20日(木) 県薬 <資料配布>

(江夏副会長)

医薬分業対策会議を9月27日に「おきなわ津梁ネットワークを活用した地域連携」をテーマに開催する。DEM事業については前回と同様、沖縄県の報告件数が極端に少ないことから委員は地区へ持ち帰って参加協力を促す。高度管理医療機器継続研修会は、本島での開催が12月20日で担当は吉田副委員長に決定した。医薬分業対策委員会主催研修会（SGD研修会）は、平成28年2月7日に開催することに決定した。

(19) 禁煙協議会

8月21日(金) 沖縄都ホテル

(笠原理事)

禁煙サポート薬局の更新をしていると報告してきた。市町村との連携や防煙活動が話題となっていた。

(20) 平成27年度女性薬剤師部会総会・講演会

8月23日(日) 県薬

(村田常務理事)

参加人数が少なかったことが残念である。作成した部会規定の承認を得た。規定は8月24日

に施行した。特別講演には、薬剤師で株式会社ソムノクエスト代表取締役の江口直美氏に「沖縄の野菜“クワンソウ”の効果と商品開発の意義～眠りの問題解決から社会を健康に～」と題して講演いただいた。莫大な事業費がかかったが、行政も非常に協力的で事業展開しやすかったとのこと。機能性成分を多く含む沖縄野菜の中で、特に睡眠改善効果が高いと言われてきたクワンソウに着眼し、これを活用して沖縄の健康産業を活性化させた江口氏の講話をもっと多くの会員に聞いてもらいたかった。睡眠改善素材開発の社会的背景と条件、今後の課題についても興味深い内容であった。

(21) 日本コミュニティーファーマシー協会監事来訪 8月25日(火) 県薬
(大城係長)

来訪された日本コミュニティーファーマシー協会の監事である高見澤秀幸氏は、薬剤師・薬学生向け情報誌「MIL」の編集長をされている頃から数年来、当会広報委員会と情報交換をしてきた。今回は、その「MIL」に沖縄特集を組みたいとのことで情報交換の来訪であった。

(22) 琉球大学医学部附属病院 薬剤部長へ表敬訪問 8月25日(火) 琉大
(亀谷会長)

薬剤部長に就任して間もない中村克徳氏に、江夏・前濱両副会長と共に表敬訪問をしてきた。副薬剤部長の外間副会長にも同席いただいた。若くて、非常に温和で素晴らしい薬剤部長が就任したことを皆で喜んだ。当会へ早速入会もしていただいた。

(23) 豊見城中央病院 薬剤科長訪問 8月26日(水) 豊見城中央病院
(亀谷会長)

橋本薬剤科長を訪問。会営薬局とよみの件もあり、今後の協力体制の強化についても話してきた。

(24) 会計監査 8月27日(木)・9月2日(水) 県薬

(25) 平成27年度第1回沖縄県自殺対策連絡協議会 8月27日(木) 県庁 <資料配布>
(村田常務理事)

同協議会における事業は平成29年度までとなっている。当会は、ゲートキーパースキルアップ研修会を毎年開催していることを報告してきた。

(26) 平成27年度くすり教育研究会 8月28日(金) スクワール麹町 <資料配布>
(前濱副会長)

学校薬剤師部会の村田成夫部会長と知名博樹氏が参加した。保健体育教諭、保健主事、養護教諭、学校薬剤師を対象に、「学習指導要領の周知・徹底に向けた支援体制の整備」や「学校保健を巡る最近の話題への対応」等を内容とした研修会で、基調講演ならびに事例報告・パネルディスカッションが行われたとの報告があった。

(27) 平成27年度 学校環境衛生検査技術講習会 8月29・30日(土・日) スクワール麹町 <資料配布>
(前濱副会長)

報告(26)と同じく村田成夫部会長と知名博樹氏が参加。この研修会は、学校環境衛生検査技術と法的根拠を学んだリーダー的存在の薬剤師を育成し、地域の学校薬剤師への伝達を推進することを目的とし、その活動を支援するために毎年開催されている。

(28) 第2回 薬剤師のための症例検討入門研修会 8月29日(土) 県薬
(外間副会長)

この研修会は、去る5月31日に開催された第1回の症例検討入門研修会「臨床力をつけよう

入門編「高血圧」の内容を踏まえ、スモールグループディスカッションを行うという内容で、39名の参加があったとの報告を受けている。

- (29) 健康とおくすり相談会（那覇地区） 8月30日（日）サンエー那覇メインプレイス
（姫野理事）

相談員8名で40名の相談者が訪れた。

- (30) BLS講習会 8月30日（日）おきなわクリニカルシミュレーションセンター
（笠原理事）

今回は初心者のための講習会であった。

- (31) 会長就任あいさつ（八重山地区） 8月31日（月）大濱信泉記念館
（亀谷会長）

八重山地区で開催の調剤報酬請求業務講習会に同行して会長就任の挨拶をしてきた。

- (32) 調剤報酬請求業務講習会（八重山地区開催） 8月31日（月）大濱信泉記念館
（幸地理事）

約60名の参加があった。

- (33) 沖縄県医療審議会法人部会 9月1日（火）県庁 <資料配布>
（亀谷会長）

主に、医療法人設立認可の可否について話し合われた。

- (34) 平成27年度医療安全講習会に関する打ち合わせ会議 9月1日（火）県薬 <資料配布>
（吉富理事）

医療安全対策委員会において、医療安全講習会の講師案を募っていたところ、数名の講師案が委員から寄せられたため、講師の依頼をする順位を同会議にて決めた。大城係長が順位通りに講師依頼をすることになった。後日、大城係長から一押しの講師である中村建氏（日本薬剤師会医薬品情報評価検討委員会）から承諾を得たとの報告があり、早速、配布資料のごとく正式に講師依頼をした。

- (35) 平成27年度第7回定例幹事会 9月1日（火）県薬

- (36) 第1回沖縄県地域医療構想検討会議 9月3日（木）県庁
（亀谷会長）

参加者は主要病院院長で、傍聴一般席もあった。

- (37) 平成27年度第1回学術研修委員会 9月3日（木）県薬 <資料配布>
（外間副会長）

来る11月1日開催の第29回沖縄県薬剤師会学術大会のランチョンセミナー講師と特別講演講師が決定したので会員へ配布資料のとおりFAX一斉同報にて参加案内の呼びかけを行った。会員発表の演題募集締め切り日が間近かになっているが、申し出が少ないことから、配布資料のとおり改めてFAX一斉同報にて演題募集の案内を行った。地区、部会の代表理事は持ち帰って発表者を募っていただきたい。

- (38) 調剤報酬請求業務講習会（宮古地区） 9月4日（金）宮古地区薬剤師会事務所

- (39) 会長就任あいさつ（宮古地区） 9月4日（金）宮古地区薬剤師会事務所
（下地理事）

報告（31）（32）と同様である。

- (40) 平成27年度沖縄県総合防災訓練 9月5日(土) 北中城村熱田漁港 <資料配布>
(山城課長)

事務局として参加した。訓練の目的、訓練基本想定(概要)、参加機関・団体、訓練進行表は配布資料のとおりである。時系列の進行表のとおり訓練内容が大変詰まったプログラムであった。

- (41) 学校薬剤師部会九州ブロック連絡会議 9月5日(土) コンフォートホテル長崎<資料配布>
(前濱副会長)

日本薬剤師会常務理事の村松章伊氏から学校薬剤師活動の充実等に向けての基調講話があり、そのあと九州ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議が行われ、主な議題に、学校薬剤師の不足問題と認定こども園の環境衛生検査問題が取り上げられた。

- (42) 第2期薬学生実務実習開始 9月7日(月)～11月22日(日) 県内 各薬局

- (43) 実務実習オリエンテーション 9月7日(月) 県薬 <資料配布>
(我喜屋理事)

報告(42)と同時に報告。第2期薬局実務実習薬学生は11名である。例年通り「薬局実務実習の11週間」と「トラブルのない実習」の2講義を行い、実習施設には実習施設証の授与を行った。今回3薬局が新たに実務実習受入薬局になってくれた。

- (44) 琉球放送「すくすくあかちゃんねる」取材収録 9月8日(火) 会営薬局医療センター前
<資料配布>

(大城係長)

琉球放送(RBC)では平成25年1月より、妊娠・出産・育児の情報番組「すくすくあかちゃんねる」を毎週土曜日の午前11時25分から3分程放送している。今般、赤ちゃんへの薬の飲ませ方など、乳幼児向けの処方薬の基礎知識についての情報提供を同番組で放送したいとのことで、去る7月29日、琉球放送フリーディレクターの比嘉チハル氏から依頼があった。早速、8月12日に同氏と当会薬事情報センターの吉田典子氏と同放送の内容や撮影場所等の調整を行った。出演薬剤師については、当会の名義が出ること、育児経験のある母親、やる気とビジュアル等も考慮し、会営薬局とよみに勤務している勝連貴子氏に決定した。VTR展開は、撮影を9月8日の午後1時30分から会営薬局医療センター前で行う。これに宮城敦子広報担当理事、吉田典子氏、城間盛光薬局長が立ち会う。10月10日と10月17日の2回にわたって放送される予定である。

- (45) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 <資料配布>

9月9日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(亀谷会長)

神村前会長に代わって参加することになった。

- (46) 平成27年度一般用医薬品等担当者全国会議 9月10日(木) フクラシア東京ステーション
(笠原理事) <資料配布>

地域保健開局委員会として、盛本直也委員と参加してきた。平成26年度医薬品販売制度実施把握調査結果を受けて、販売制度の実効性の確保のための活動について地域で取り組みされている事例を確認し、今後の薬剤師会の対応についても話し合われた。

- (47) 沖縄県医療事故調査等支援団体連絡協議会(仮称) 9月10日(木) 沖縄県医師会館
(吉富理事)

来る10月1日から医療事故調査制度が施行されるにあたり、沖縄県医師会から同協議会への参加要請があり、亀谷会長と事務局として大城係長も参加した。支援委員会立ち上げの説明な

どがあった。亀谷会長が支援委員会に薬剤師が含まれていないことを指摘し、医薬品による医療事故も多いことを述べ、薬剤師を構成員にするよう要請の発言をした。

- (48) 在宅医療委員会 9月10日(木) 県薬 <資料配布>
(荒井理事)

在宅医療教育セミナーを10月25日、11月19日、11月26日、12月3日の4回にわたって開催する。テーマは、第1回目を小児在宅医療とし、2回目以後は無菌調整 (TPN、医療用麻薬、抗がん剤) とする。セミナーでは資材の準備もあるため、参加者は、当会ホームページに掲載されている訪問服薬指導実施薬局に勤務する薬剤師に限定する。また、現在当会ホームページに掲載されている訪問服薬指導実施薬局の情報項目などが簡易過ぎるため、改めて見直しをし、より具体的な情報をホームページ上で提供することにした。

- (49) 平成27年度第2回沖縄県自然環境保全審議会 9月11日(金) 県庁 <資料配布>
(宮城常務理事)

沖縄県指定鳥獣保護区特別保護地区の再指定、西表石垣国立公園の一部変更について話し合われた。

- (50) 薬と健康の週間について <資料配布>
(大城係長)

「薬と健康の週間」の調整会議が那覇市保健所で開催され、週間中に開催される「くすりと健康フェア・県民公開講演会」の役割分担や広報活動について話し合われた。

- (51) 沖縄タイムスの新聞紙面に掲載された一般投稿に対する投稿について <資料配布>
(亀谷会長)

沖縄タイムスの紙面に「薬の院内処方が嬉しかった」との内容で一般投稿が掲載されていた。これに対して当会としては、読者(県民)に医薬分業の本質を理解していただくため、同紙の論壇コーナーに会長として投稿し掲載していただいた。当会会報誌に転載の許可も得たので、改めて医薬分業について見直していただき、患者(県民)への啓発も続けてほしいので、一読していただきたい。

- (52) 琉球新報子ども新聞に会員が紹介される <資料配布>
(大城係長)

琉球新報社は1998年から毎年9月に「こども新聞」を発行している。今年で15回目。今年53人のこども記者(小学5、6年生)が「守ろう暮らし つなげよう未来」をテーマに暮らしや政治、経済、スポーツ、芸能、地域の問題など多くの分野を、こども記者の目線で取材している。その中の一人、沖縄市立室川小学校六年生の比嘉隆靖君は、「自分は薬剤師を取材したい」とこども記者に応募した。吉田理事が琉球新報のコラム「南風」に執筆している薬剤師に関連する記事を読んだのがきっかけとのこと。隆靖君は早くに父親を亡くし、姉は薬剤師になることを希望していたが家庭の事情であきらめて看護大学に進んだとのこと。隆靖君が理想とする薬剤師は、沖縄市で吉原東洋堂薬局を開局している島袋勇先生で、この取材に広報委員会の池間記世委員と同行して広報委員会としても取材を行った。島袋先生は小さい頃から隆靖君の事をよく知っていて、とても和やかな雰囲気取材を受けていた。新聞に掲載されている写真も隆靖君が撮影したものである。終始ほのぼのとした雰囲気の中での取材であった。

- (53) 会営薬局薬剤師の状況について <資料配布>
(我喜屋理事)

会営薬局において管理薬剤師兼務が許可されたことによる協力管理薬剤師の募集を、会員へ

FAX一斉同報したところ、多くの登録申請がきた。勤務は日曜・祝祭日の9時から18時の間と限られているが、今後の連休にうまく調整し充足させることによって、現職薬剤師が休暇をとれることが期待できる。引き続き募集をしていき、勤務体制等を整備していく。

報告（薬連）

(1) 全国薬剤師フォーラム2015

8月8日(土) クロスウェーブ船橋 <資料配布>

(山城課長)

青年部会から上原卓朗氏が参加した。配布資料は報告原稿で、会報誌に掲載する。

(2) 沖縄県薬剤師連盟全体会議並びに全国藤井もとゆき薬剤師後援会活動報告会

8月12日(水) 県薬

(亀谷会長)

藤井議員を招いての会となった。得票数の目標が出されている。今後、どのように獲得していくか模索し、連盟の強化を図っていきたい。

(3) 衆議院議員 ミヤザキ政久 激励の集い

8月31日(月) ラグナガーデンホテル

吉田久子幹事長が参加した。

(4) 衆議院議員 ニシメ恒三郎 国政報告・懇話会

9月5日(土) パシフィックホテル沖縄

亀谷会長と吉田久子幹事長が参加した。

お知らせ

*** 表紙に掲載の写真『世界の薬局』を大募集! ***

本会報誌おきなわ薬剤師会報の表紙は、『世界の薬局』シリーズとなっています。会員の皆様、海外へ行かれた際は是非その地の薬局を撮影して、本誌へご投稿下さい。

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい!

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します!

平成27年度 第8回定例理事会 議事概要

日時：平成27年10月10日(土) 19:00～21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子

理 事：山里 勇、宮城敦子、川満直紀、荒井千春、新垣秀幸、笠原大吾、幸地良信
佐藤雅美、下地 仁、成川賢一、吉田洋史

事 務 局：山城英人、松堂恵美

<欠席者>

理 事：村田美智子、我喜屋美香、吉富弓江、石川恵市

議題

(1) 平成27年度沖縄県薬剤師会会長表彰について

<資料配布>

(事務局)

10月1日に表彰選考諮問委員会を開催し、地区、部会から推薦された中から7名が選出された。確認頂きたい。

沖縄県薬剤師会会長表彰は原則5名枠だが推薦内容を尊重し、今回は7名授賞することで承認された。

(2) 慶弔規程について(継続議題)

<資料配布>

(亀谷会長)

前回理事会からの継続議題で、3つの改正案を作成した。どれがよいかご検討頂きたい。検討した結果、案1で承認された。

(1) 役員・会員・職員

新聞広告、香典5,000円(三役10,000円)、生花1対

(2) 役員・会員・職員の配偶者および実父母子、~~生計を一にしている子~~(文言変更)

香典5,000円、生花1対

(3) (1)以外の新聞広告については希望により喪主側の経費負担で掲載することができる。

但し配偶者および一親等の範囲とする(項目追加)

~~(4)~~(4) 関係団体・元正副会長・顧問・相談役等については会長が決める。(項目番号変更)

慶弔規程自体会員にあまり周知されていないようなので、これを機会に周知徹底することとした。

(3) シミュレーター購入について

<資料配布>

(笠原理事)

県薬では大人用モデルを3体所有しており、主に離島でのBLS講習会で使用している(本島で開催する場合はおきなわクリニカルシミュレーションセンターを借用)。BLS講習会ではアドバンスコース(大人対応)、ベーシックコース(子供対応)があり、今後ベーシックコースの講習会を開催するうえで必要な為、子供用モデルを購入したい。

検討した結果、購入が承認された。

(4) 沖縄県薬剤師会新型インフルエンザ等対策業務計画について

<資料配布>

(吉田理事)

沖縄県薬剤師会は指定地方公共機関に認定されている。そこで県より「新型インフルエンザ等対策業務計画」の提出を求められている。発生段階ごとの対応をまとめており、各地区薬剤師会や卸等各関係団体の連絡先も記載もあるが、これでよいかご検討頂きたい。

検討した結果、承認された。また関係団体の連絡先が代表のみの為、担当者携帯等も必要ではないかとの意見もあったが、内部資料として別途作成することとした。

(5) その他

(成川理事)

北部地区薬剤師会会長より要望したい。現在北部地区では、地域医療構想検討会議に参加している。そこで2025年問題（団塊の世代が後期高齢者に達し、医療費等社会保障費の急増が懸念される問題）についても話し合われている。北部地区では一人薬剤師の薬局が多く、薬剤師の高齢化も進むことから、2025年以降薬局運営にも影響が出て、患者の受入困難が予想される。地域医療構想検討会議は県レベルでも行われており、会長が参加されていると思うので、そこで沖縄県の薬剤師不足について訴えてきて欲しい。そうすると地区レベルでの会議でも話を出しやすくなる。

(亀谷会長)

状況をみながら、発言していきたい。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

<資料配布>

(2) 健康展（相談会12時半～）

9月15日（火）イオン南風原

(新垣理事)

南部保健所より依頼があり、お薬相談及び禁煙相談を行った。薬剤師会では動脈硬化測定機による測定を行った。またCOチェック機器による測定も行われており、測定者は計100名で多かったが相談者は少なかった。

(3) 会長就任あいさつ（北部地区）

9月15日（火）北部地区薬剤師会

(亀谷会長)

北部地区薬剤師会理事会にて会長就任あいさつを行った。

(4) 沖縄県医師会医療事故調査制度に関する講習会

<資料配布>

9月16日（水）パシフィックホテル沖縄

担当理事欠席の為、次回報告。

(5) なごみ会主催県民健康フェア反省会

9月16日（水）沖縄県医師会館 <資料配布>

(笠原理事)

県民健康フェアでの各団体負担金について、薬剤師会はほぼ例年通りである。県民健康フェア当日は大変盛況であった。来年も開催されるので、ご協力をお願いしたい。

(6) 豊見城中央病院理事長・院長訪問

9月17日（木）豊見城中央病院

(亀谷会長)

神村県薬連盟顧問、江夏副会長と3人で訪問した。

(7) 個別指導

9月17・24日/10月8日（木）県庁・那覇第一地方合同庁舎

- (8) 沖縄県薬業連合会 代表者会議 9月18日(金) 沖縄都ホテル <資料配布>
(亀谷会長)

薬と健康の週間について、例年の街頭キャンペーンの会場のパレット久茂地前の通行人は、ほとんど観光客であるため、今回は街頭キャンペーンを行わず、新しい試みとして那覇市役所ロビーでパネル展示を行うことになった。また、今年度の薬事功労者合同祝賀会(平成28年1月17日(日)午後6時より沖縄都ホテルにて開催)について話し合った。

- (9) グッジョブにしはら☆わくわくワーク 9月23日(水) 西原町町民交流センター <資料配布>
(宮城常務理事)

当会より薬剤師6名がスタッフとして参加し、子供達に薬剤師の仕事を体験してもらった。薬剤師ブースは好評で、定員40名のところ46名を受け入れた。

- (10) 平成27年度新型インフルエンザ等対策訓練等に係る説明会 9月24日(木) 県庁 <資料配布>
(吉田理事)

「沖縄県薬剤師会新型インフルエンザ等対策業務計画」作成に関する説明会であった。

- (11) 第2回沖縄県地域医療構想検討会議 9月24日(木) 県庁 <資料配布>
(亀谷会長)

会議では病床数について慎重に検討される。現時点では中南部では不足し、北部では余っている。余剰分を中南部へとの意見もあるが、北部には設備の良い病院が無いことで患者は中南部で受診しなければならない状態である。稼働率だけで考えず設備を整えることが先決との意見もあった。

- (12) 平成27年度第2回地区調整機構委員会 9月26日(土) 福岡県薬 <資料配布>
担当理事欠席の為、次回報告。

- (13) 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会 9月26日(土) 福岡県薬 <資料配布>
担当者理事の為、次回報告。

- (14) 平成27年度第1回地区薬剤師会会長会議 9月26日(土) 県薬 <資料配布>
(亀谷会長)

地区薬剤師会と県薬との情報交換の場として開催している。薬と健康の週間と県薬学術大会への協力依頼やマイナンバー制度の説明そして各地区からの現況報告がされた。

- (15) 平成27年度医薬分業対策会議 9月27日(日) 県薬 <資料配布>
(江夏副会長)

広域病院薬局長、各地区会長及び分業担当者を集めて年1回会議を行っている。今回は「おきなわ津梁ネットワークの取り組みについて」をテーマとして、沖縄県医師会理事の比嘉靖先生とワタキュー薬局の砂川香先生のご講演頂いたほか、ディスカッション等も行った。今後も薬剤師会として「おきなわ津梁ネットワーク」に協力していく。

- (16) BLS講習会(初心者講習) 9月27日(日) おきなわクリニカルシミュレーションセンター
(笠原理事)

13名の参加者であった。講師は多くの先生方に交代でお願いしている。講師陣も育ってきている。

- (17) 薬と健康の週間(フェア)打ち合わせ会議 9月28日(月) 県庁・パレット市民劇場 <資料配布>
(事務局)

ポスターやチラシ等を昨日、各薬局宛に発送した。ご協力をお願いしたい。

- |||||
- (18) 会計監査 9月29日(火) 県薬
- (19) 表彰選考諮問委員会 10月1日(木) 県薬
議題1にて報告。
- (20) 平成27年度第2回学術研修委員会 10月1日(木) 県薬 <資料配布>
(外間副会長)
今年度の県薬学術大会について話し合った。大会テーマは「チャーがんじゅー沖縄の実現に向けて ～薬剤師の貢献と他職種連携～」に決定。会員発表は18演題の申込みがあった。狭間研至氏を特別講演にお招きし、「薬局・薬剤師が変われば地域医療が変わる」のタイトルでご講演頂くことになった。
- (21) 未来の産業人材育成事業における講話 10月2日(金) 首里中学校 <資料配布>
(亀谷会長)
DI室の吉田典子先生が首里中学校にて講演を行い、好評であった。
- (22) 県民健康フェアPR活動(那覇市自治会)
10月2日(金) 首里・小禄支所/10月7日(水) 真和志支所・なは市民協働プラザ
10月9日(金) なは市民協働プラザ
(亀谷会長)
県民健康フェアのPR活動のため、那覇市自治会の各自治会長会を訪問した。広報委員会と協力して行うことになっている。
- (23) 赤嶺氏訪問(会営薬局とよみ地主) 10月5日(月)
(亀谷会長)
会長就任のあいさつのため、訪問した。
- (24) 平成27年度第3回広報委員会 10月5日(月) 県薬 <資料配布>
(宮城常務理事)
今年の薬と健康の週間に係る地元紙の投稿は、川満常務理事(かかりつけ薬剤師について)と荒井理事(在宅医療について)が執筆することになった。また県薬会報で橋の下氏が長年執筆してきた「一包一話」を編纂したいと考えている。
- (25) 「薬剤の知識を学ぶ(介護ヘルパー向け講習会)」(講師派遣)
10月6・8日(火・水) ているる <資料配布>
(亀谷会長)
ヘルパー事業所より介護ヘルパー向けの講師派遣依頼があり、とくりん薬局の兼城崇先生にお願いした。今後も薬剤師を必要とする活動には積極的に協力していきたい。地区での対応が難しい依頼があれば、県薬へ相談してほしい。
- (26) 平成27年度第3回地域保健開局委員会 10月6日(火) 県薬 <資料配布>
(笠原理事)
10月に「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会」があり、委員2名で参加する。後日に伝達講習会を予定している。また自殺対策予防に関して、薬局から医療機関等へ情報を提供するための情報提供書(書式)を作成し、現在委員会で添削中である。
- (27) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会
10月7日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 <資料配布>
- (28) 管理者会議 10月8日(木) 県薬

(29) 平成27年度くらしのサポート講座（講師派遣）

10月8日(木) 沖縄県三重城合同庁舎 <資料配布>

(亀谷会長)

沖縄県消費生活センターより講師派遣依頼があり、神谷朝斗志先生にお願いした。今後は人材育成のため、多くの先生方に講師依頼をしていきたいと考えている。

(30) おきなわ津梁ネットワークに関する説明会

10月8日(木) 県薬

(江夏副会長)

沖縄県医師会主催の説明会で、60名以上の参加があった。説明の他、実際に活用している薬局からの報告もあり参考になった。「おきなわ津梁ネットワーク」は、データを他職種間で共有して患者の為に活用していく。後々は在宅への連携、そして最終的には沖縄県の長寿県復活を目指している。ぜひ多くの薬局がおきなわ津梁ネットワークに参加して欲しい。

(31) 沖縄県・ハワイ姉妹提携30周年記念式典・祝賀会

10月9日(金) ロワジールホテル&スパタワー那覇 <資料配布>

(亀谷会長)

キャロライン・ケネディ駐日米国大使も参加し、盛大な会であった。

(32) 平成27年度薬事功労者知事表彰受賞者について

<資料配布>

(事務局)

今年は川満正啓氏（県薬推薦）、外間惟夫氏（県病薬推薦）と、行政より1名が受賞した。

(33) 在宅医療に関する研修会について

(荒井理事)

在宅医療支援薬局（県薬HP掲載）を対象に無菌調整についての研修会を予定している。そこで使用する資材等で購入が必要なものがある為、参加費の必要性について検討している。

(成川理事)

北部地区で以前同様の研修会を開催した際、メーカーの協力もあったが、参加費も徴収した。今回はとりあえず見積もりを取り、検討することとした。

(34) 沖縄県薬剤師会学術大会懇親会について

<資料配布>

(事務局)

懇親会には県薬会長表彰受賞者を始め22名の来賓を予定している。

(35) 委員会の職務分担変更について

<資料配布>

報告22にて説明。

(36) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

(事務局)

とよみに関しては、7～8名/1日必要なところ、現在協力薬剤師を含め概ね5.5～6.5人/1日でシフトを組んでいる。まだまだ厳しい状況である。理事の皆さまにも薬剤師の紹介をお願いしたい。日曜、祝日の輪番勤務については、約10人の管理薬剤師から応募があった。

(37) その他

(新垣理事)

10月3日に南部地区医師会館にて南部地区在宅医療連携協議会主催の勉強会があり、約55名の参加があった。豊見城中央病院や沖縄協同病院の地域連携室からも参加があった。連携協議会では11月5日に南部地区医師会館にて市民公開講座を行うので、ぜひ参加して欲しい。

報告（薬連）

- (1) 平成27年度日本薬剤師連盟臨時評議員会 9月16日(水) スクワール麴町
(2) 衆議院議員比嘉なつみを囲む集い 10月1日(木) NBC

(江夏副会長)

吉田久子幹事長、神村顧問、新城光枝氏とともに参加した。

- (3) 宜野湾市長佐喜真氏訪問 10月8日(木) 宜野湾市庁舎

(亀谷会長)

神村顧問とともに訪問した。琉大病院の西普天間地区への移転が予定されており、それに伴う会営薬局うえはらの移転も踏まえた上で、挨拶をしてきた。

- (4) 藤井もとゆき後援会入会状況 <資料配布>

(亀谷会長)

会員数を元に各地区へ目標入会者数を割り振っている。県薬会館入口に地区ごとの入会者数・達成率を張り出しているのので、来館の際は見てほしい。

- (5) その他

(事務局)

マイナンバー制度について。各理事への役員報酬支払い等の為、マイナンバーの把握が必要になる。住民登録している市町村から通知カードが届き次第、県薬への報告をお願いしたい。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書(その1)	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書(その2)	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

(国保(本人・家族) 青色)
(社保(本人) 白色)
(社保(家族) 桃色)

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色(薄青色) 14ページ 価格 税抜き 12円

【現行リニューアル版】表紙色(薄黄色) 34ページ 価格 税抜き 22円

平成27年度 第9回定例理事会 議事概要

日時：平成27年11月14日(土) 19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子

理 事：山里 勇、村田美智子、我喜屋美香、宮城敦子、荒井千春、幸地良信、新垣秀幸
笠原大吾、吉田洋史、吉富弓江、川満直紀、石川恵市、成川賢一、普久原隆（代理）
古謝真己（代理）

監 事：

欠 席：姫野耕一

事 務 局：山城英人、稲福文隆

亀谷会長が所用で一時遅れるため、前濱副会長が議事を進めた。

議題

(1) 臨時総会開催【H28.3.27(日) 13:00～】について

(山城課長)

臨時総会を平成28年3月27日(日)に開催したいと提案し、異議なく承認された。

(2) 平成28年度事業計画案提出について（お願い）

<資料配布>

(山城課長)

臨時総会に向けて、各部会、各委員会は事業計画を提出いただきたい。提出期限は平成28年1月20日(水)とする。2月の理事会に提出。3月の理事会では承認いただくと提案した。以上のとおり了承された。

(3) 渡米心臓移植のための募金協力（のあちゃんを救う会）について

<資料配布>

(亀谷会長)

小児人工心臓を装着している「のあちゃん」の渡米にはチャーター機が必要となることから、募金目標額が国内でも過去最高額となっており、目標到達は困難な状況である。そこで薬剤師会も募金活動に協力したい。沖縄県医薬品卸業協会のご協力を得て、各薬局へ募金箱を配り、募金へのご協力と、12月20日までに薬剤師会指定口座へ振込をお願いしたい。以上のとおり承認された。

(4) 1月幹事会、理事会の開催日及び会場の変更について

【幹事会 1/12(火) 19時半～ 理事会 1/16(土) 19時～ 於：県薬会議室】

(山城課長)

幹事会は毎月第1火曜日に開催しているが、1月は年始早々のため第2火曜日に変更したい。理事会は通常第2土曜日の開催であるが、当日は沖縄県医師会新年会と重なり、亀谷会長が出席するため第3土曜日に変更したいと提案した。以上のとおり了承された。

(5) その他

(我喜屋常務理事)

麻薬適正使用講習会での医師からの質問で、夜間・休日の麻薬の取扱いはどのように対処しているかとあった。

(山里常務理事・吉富理事)

各卸業者の方針は多少異なるが、夜間は譲渡してない。休日は麻薬管理者が不在もあることから譲渡には慎重に対応している。

(成川理事)

北部地区地域医療構想検討会議に出席し、北部地区での薬剤師不足の現状を報告した。北部の拠点病院でも薬剤師不足との報告を受けている。沖縄県で開催している地域医療構想検討会議の委員である亀谷会長から薬剤師不足の現状を継続して訴えていただきたいと要望した。

(山城課長)

神村先生の退任激励会を12月13日(日) 13:00から沖縄都ホテルで開催する。各地区へも呼び掛けて、多くの参加をいただきたいとの説明をした。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

<資料配布>

(2) 平成27年度第2回地区調整機構委員会

9月26日(土) 福岡県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

協議事項 1) 第一薬科大学が「漢方薬学科」を新設した。2) Webシステムについて、各大学(九州9県)は共通システムにすることを希望があった。3) 改訂コア・カリキュラムに基づくガイドラインに対応するための事前調査について、11月に九州山口地区で予定されており、調査内容としては、代表的な疾患、終末期、緩和ケア、在宅医療、OTC、学校薬剤師の可否等について。4) 認定実務実習指導薬剤師の更新について、沖縄県は28年1月17日予定。5) 調整機構会計のあり方について、機構長の不適切な事例があったので監査員を4人に増員。

(3) 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会

9月26日(土) 福岡県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

1) 実務実習でのトラブル・問題点について、学生の疾病による実習中止、指導薬剤師の不適切な言動、薬剤師の口調が強くて気後れし、顔を見られない等が起きている。厳しい薬剤師と弱い学生がマッチングすると必ずトラブルが起こる。厳しい薬剤師の把握を要望。2) 改訂モデル・コアカリキュラムが平成29年から試行錯誤を行い平成31年に開始する。3) 認定実務実習指導薬剤師の更新時は日薬会長の講義も加えたいとの要望があった。4) 疾患についての実習は偏りのないよう病院側と薬局側で連携を取っていただきたいと大学側から要望があった。

(4) 日本薬剤師会災害対策委員会

10月2日(金) 日薬 <資料配布>

(吉田理事)

各県の取り組み状況等の意見交換を交わした。

(5) くすりと健康フェアPR活動

10月14日(水) 琉球新報社・沖縄タイムス社

(宮城常務理事)

琉球新報社と沖縄タイムス社へ出向きPR活動を行った。

- (6) 個別指導 10月15・22日(木) 県庁/11月5・6日(木・金) 宮古/11月12・13日(木・金)
八重山集团的個別指導 11月6日(金) 宮古

- (7) 日本薬剤師会研究倫理に関する担当者全国会議 10月16日(金) 日薬 <資料配布>
(外間副会長)

薬局薬剤師においては調査研究論文の不足という指摘もあるが、臨床・疫学研究の世界では倫理審査は常識であり、今後、論文を投稿する場合、各県の薬剤師会にも研究倫理審査委員会の設置が望ましいとされている。今年作成された統合指針に基づいて県薬に倫理審査体制を整備する場合、審査規定の作成、委員会の設置、事務局担当者の選任、さらに委員の研修、事務的管理体制の確保など高いハードルをクリアする必要がある。本件については設置の是非を含め今後さらに検討する予定である。

- (8) 災害対策に関する打合せ会議 10月19日(月) 県庁
(吉田理事)

県薬剤師会が指定地方公共機関に指定されたのを受け、公用車を緊急車両として登録を行う。業務疾病対策課が県警と調整して登録申請を進めていく事となった。

- (9) 薬祖祭 10月19日(月) 波之上本殿
(江夏副会長)

毎年の「薬と健康の週間」で沖縄県、医薬品卸業協会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、沖縄県薬剤師会の5団体で薬に対する安全祈願を開催。

- (10) 平成27年度第1回沖縄県医療保健連合(なごみ会)幹事会・懇親会 <資料配布>
10月19日(月) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー
(江夏副会長)

平成28年度の「県民健康フェア」は8月21日(日)に沖縄コンベンションセンターにて開催予定。看護協会報告で、看護師の喫煙者を全国で調査したところ喫煙率が高いとの結果だった。幹事会終了後は懇親会にて意見交換を行った。

- (11) 会計監査 10月20日(火) 県薬

- (12) 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業に関する会議
10月20日(火)・11月4日(水) 県薬 <資料配布>
(笠原理事)

昨年のおくすりバッグ活用事業に引き続き、今年も参加薬局を募り、グリコヘモグロビン測定機器を用いた健康チェックと食生活(食品・健康食品)、運動習慣などに関する健康サポートならびに特定健診等の受診勧奨を行う。当初事業の開始は8月を予定していたが、国からの通達が遅れて12月開始の予定で進めている。来年3月末日までの事業のため、早々に各薬局への説明会を11月25日(水)に開催する。広島大学の森川則文教授にご指導いただく。

来年2月に那覇地区薬剤師会が開催するお薬相談会において、グリコヘモグロビン測定機器も使用する予定である。

- (13) 南風原町教育委員会主催「学校応援隊はえばる・キャリア学習会」 <資料配布>
10月21日(水) 南風原小学校
(山城課長)

南風原小学校の学校薬剤師である野崎真敏先生が、職業(薬剤師)をテーマに講演した。

- (14) くすりと健康フェア健康とおくすり相談会 10月22日(木) パレット市民劇場ロビー
(新垣理事)

約30名の方が健康チェック、お薬に対する相談に訪れ、混乱もなくスムーズに対応できた。
相談薬剤師4名、実習生7名の参加であった。

- (15) くすりと健康フェア県民公開講演会 10月22日(木) パレット市民劇場 <資料配布>
(江夏副会長)

「薬と健康の週間」にあたり、県内両紙面への論壇を掲載した。(琉球新報：荒井千春理事、
沖縄タイムス：川満直紀常務理事)。また、県民公開講演会では特別講師に、あがりはまクリニッ
クの吉田貞夫院長が講演されて大絶賛であった。反省点として、開催案内ポスター、チラシ作
成の遅れがあった。県と連携をとって適切な時期までに作成すること。

- (16) 沖縄県薬事功労者知事表彰式 10月23日(金) 県庁 <資料配布>
(江夏副会長)

沖縄県薬剤師会推薦の川満正啓氏(宮古地区会長)、沖縄県病院薬剤師会推薦の外間惟夫氏(病
薬会長・県薬副会長)、行政推薦の上里林氏(衛生環境研究所長)が受賞した。

- (17) 薬学生実務実習(学薬) 10月23日(金) 県薬
(笠原理事)

2期生11名が受講した。先に各学校での実務実習(騒音、照度測定)を実施した。

- (18) 薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第4回) <資料配布>
10月25日(日) 北里大学薬学部

(笠原理事)

薬剤師の臨床判断「症候学とトリアージを学ぼう」と題して、昭和大学薬学部の木内祐二教
授が講演。後日、DVDが送られることになっており、伝達講習会を開催する。

- (19) 沖縄県薬剤師会第1回薬剤師のための在宅医療教育セミナー <資料配布>
10月25日(日) 県薬

(荒井理事)

「小児在宅医療について」沖縄県南部医療センター・こども医療センターの松岡孝先生が講
演された。参加人数は63名であった。

- (20) 九州厚生局局長来訪 10月26日(月) 県薬

- (21) 九州地方社会保険医療協議会 10月27日(火) 沖縄県合同庁舎
(江夏副会長)

前任の松山朝雄氏より引き継いで協議会に参加した。協議会とは病院、薬局等の開設又は更
新、移転等に伴う遡求など審査する機関である。

- (22) 南風原町立南星中学校主催職場体験学習 10月28・29日(水・木) 会営薬局とよみ
<資料配布>

(山城課長)

会営薬局とよみで、朝礼から児童生徒ら4名が参加して模擬調剤、医療事務の体験をした。

- (23) 未来の産業人材育成事業平成27年度合同会議 10月28日(水) 沖縄県立博物館講座室
<資料配布>

(山城課長)

「みんなでグッジョブ運動」の関連会議で、大城恭子氏が出席。未来の産業人材育成事業(体
験学習)に賛同されている各企業・団体との意見交換会であった。

- (24) 第3回沖縄県地域医療構想検討会議 10月29日(木) 県庁 <資料配布>
 (江夏副会長)
 亀谷会長が出席した。1) 圏域間流入の状況、2) 各医療機能の病床の基準の考え方、3) 各医療機関が担う機能と役割について協議された。沖縄県薬剤師会からも疾病予防対策として、各地区で取り組んでいると報告した。
- (25) 第47回沖縄県公衆衛生大会 10月30日(金) 沖縄産業支援センター <資料配布>
 (前濱副会長)
 沖縄県公衆衛生大会会長表彰に中部地区薬剤師会の佐次田 正氏が受賞された。
- (26) 石垣市長への陳情 10月30日(金) 石垣市役所 <資料配布>
 (江夏副会長)
 石垣市長へ、医薬品卸会社の誘致を要請している所ではあるが、亀谷会長の就任で、改めて出向き要請した。
- (27) 第29回沖縄県薬剤師会学術大会 11月1日(日) 県薬 <資料配布>
 (外間副会長)
 参加総人数267名であった。内訳として、県薬会員147人、病薬会員108人、薬学生12人。当初は参加申込み人数が290名を超えていたので、対応策として椅子のみを設置した。年々参加人数が増えると予想されるので会場の検討も必要である。
- (28) 薬務疾病対策課訪問 11月2日(月) 県庁
 (江夏副会長)
 薬剤師の確保事業で(全国薬科大学へ出向き沖縄県をPR) 来年3月末日の事業となっている。今年も国からの補助金支給が決まっているが、未だに決定通知がきてない、亀谷会長が出向き、早急の配慮をお願いした。補助金支給額の1/3は県薬が負担。次年度からは1/2負担となる。
- (29) 未来の産業人材育成事業・職業人講話「薬剤師の仕事」
 11月5日(木) 久米島町立美崎小学校
 (山城課長)
 久米島で薬局を開局している山城晶氏が児童生徒に対する講話を行った。
- (30) 在宅医療委員会 11月5日(木) 県薬
 (荒井理事)
 無菌調製実践講座を11月19日から3回シリーズで開催する。講座に向けて、医療機器メーカー、講師等との打ち合わせを行った。
- (31) 薬学生実務実習(夜間救急) 11月6日(金) 会営薬局医療センター前
 (我喜屋常務理事)
 会営薬局医療センター前にて、城間薬局長の指導で実務実習を行った。
- (32) 第3回 薬剤師のための症例検討入門研修会 11月7日(土) 県薬 <資料配布>
 (外間副会長)
 テーマに「臨床力をつけよう 心不全 入門編」を開催。次回は実践編(スモールディスカッション)を平成28年2月6日開催する。
- (33) 県薬会館ホール舞台補修 11月8日(日) 県薬
 (山城課長)
 6月に新しく舞台を設置したが、不具合が生じて補修工事を行った。
 薬剤師会館入口側道路の側溝を覆っている鉄骨網が金属疲労で欠落していたので、併せて補修工事を行った。

- (34) 第126回健康とおくすり相談会 11月8日(日) 宮古島市民球場屋内練習場 <資料配布>
(古謝真己代理)

「産業まつり」と同時開催。相談薬剤師11名で、来場者約90名が訪れた。

- (35) 平成27年度女性薬剤師部会漢方講座 11月8日(日) 県薬 <資料配布>
(村田常務理事)

女性薬剤師部会主催の漢方講座は、今回から県薬の単独開催になったため、経費捻出に苦心している。参加費1,000円を徴収することになった。講演「かぜの漢方 なぜ治り、なぜ治らないのか」と題して、講師に佐賀県清水医院院長清水正彦先生、前半は基礎講座、後半は応用講座と2部に分けて開催した。参加人数39名であった。

- (36) 新型インフルエンザ対応に関する訓練 11月10日(火) 県薬 <資料配布>
(吉田理事)

当会は地方公共団体であるため訓練を行うよう努めなければならないとされている。

訓練では県からメール、電話、FAX等で新型インフルエンザが発生したと告げられ、沖縄県基本的対処方針に沿って実施した。

- (37) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会
11月11日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

- (38) 平成27年度第3回沖縄県がん診療連携協議会
11月13日(金) 琉球大学医学部管理棟 <資料配布>

- (39) 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会(講師派遣)
11月13日(金) 北部生涯学習推進センター <資料配布>
(我喜屋常務理事)

全国健康保険協会より、ジェネリック医薬品の使用促進事業として講師依頼があった。講演は名護市終了、浦添市、那覇市で予定している。

- (40) 平成27年度沖縄県薬事功労受賞者について <資料配布>
(山城課長)

平成27年度の薬事功労受賞者名簿を資料として添付している。持ち帰って漏れがないか確認を頂きたい。祝賀会・新年会は来年1月17日(日) 都ホテルで開催する。

- (41) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について <資料配布>
(我喜屋常務理事)

「会営薬局とよみ」は輪番薬剤師のご協力があって、以前に比べると休みが取れるようになり、各研修会へ参加する薬剤師も増えてきた。しかし輪番薬剤師の確保が不安定で、厳しい状況もある。

- (42) その他

- 平成27年度沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金の交付申請について
(吉田理事)

会営薬局医療センター前において、休日・夜間の薬局体制整備事業として、休日や夜間に受診した患者さんに対し、安定的なお薬の提供体制を確保するため、輪番制で薬剤師を配置しているところであるが、その薬剤師の確保対策に係る経費に対して、県から補助金が支給される。支給された補助金は当会規程の給与に増額して輪番薬剤師に支給する。ぜひ多くの薬剤師が輪番薬剤師として登録いただきたい。

報告（薬連）

(1) 佐喜真アツシ市長を支援する会 宜野湾市の未来を創る市民の会事務所開き

10月12日（月） 宜野湾市の未来を創る市民の会本部事務所

（山城課長）

来年1月に宜野湾市長選挙があるということで、事務所開きに参加した。

(2) 平成27年度第2回全国会長・幹事長拡大会議

<資料配布>

10月13日（火） ANAインターコンチネンタルホテル東京

（亀谷会長）

平成27年度九州ブロック協議会を28年1月24日（日） 福岡県で開催。

沖縄及び北方対策担当大臣に島尻安伊子氏、厚生労働副大臣に渡嘉敷奈緒美氏が就任報告があった。日薬から政府に対しての要望報告があった。

(3) 全国藤井もとゆき薬剤師後援会第2回役員会

<資料配布>

10月13日（火） ANAインターコンチネンタルホテル東京

（亀谷会長）

継続して後援会名簿獲得に協力いただきたいとの報告があった。

(4) 藤井もとゆき君と語る会

10月13日（火） ANAインターコンチネンタルホテル東京

（亀谷会長）

藤井先生を激励する会で、多くの参加者があった。

(5) 組織強化に関する担当者全国会議

10月29日（木） 主婦会館プラザエフ

<資料配布>

（石川理事）

後援会名簿の獲得に向けてのグループディスカッションに参加し、問題点について話し合われた。

(6) 医薬品卸業社訪問（琉薬、ダイコー沖縄、スズケン沖縄薬品）

11月2日（月） 各社

（亀谷会長）

後援会名簿獲得のお願いのため、藤井先生共に問屋3社を訪問した。

上記以外の問屋へは後日、お願いに伺う。

(7) 自由民主党「平和安全法制セミナー」

11月3日（火） 自治会館

（亀谷会長）

高村正彦副総裁による安保法制について、理解いただくセミナーが開催された。

(8) 沖縄県薬剤師連盟総務会

11月11日（水） 県薬

（山城課長）

来年1月に宜野湾市長選挙での佐喜真アツシ現市長を支援することになり、推薦状を交付する。藤井もとゆき後援会入会目標進捗状況（各地区ごと）を薬剤師会玄関入口に掲載しているので、状況の把握をしていただきたい。

(9) その他

平成28年2月

- 2火○平成27年度東日本大震災支援協力会議総会 県庁 亀谷会長
 ○薬事情報センター委員会 県薬会議室
 ○北部地区薬剤師会学術研修会（地域医療における薬剤師の薬学的管理とは）ホテルゆがふ
 いんおきなわ（名護市）
- 3水○平成27年度日本薬剤師会農林水産薬事薬剤師部会動物薬事研修会 全国町村会館ホール
 （東京） 司会：我喜屋啓氏
- 4木○平成27年度九州山口各県薬剤師会事務局職員研修会（5日迄） ホテルビアントス（佐賀県）
 稲福・大城両係長
 ○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 川満常務理事
 ○沖縄県慢性期医療協会薬剤師部会研修会 沖縄県医師会館 共催：第一三共(株)
- 5金○第15回沖縄県健康教育研究大会 うるま市民芸術劇場（受賞者）小波蔵廣美氏・渡慶次
 美保子氏・宮里暁子氏
 ○平成27年度薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会 日薬 薬事情報センター吉田
 典子
 ○平成27年度第4回沖縄県自然環境保全審議会 県庁 宮城常務理事
 ○平成27年度第2回沖縄県自殺対策連絡協議会 県庁 村田常務理事
- 6土○**第4回薬剤師のための症例検討入門研修会** 県薬ホール 講師：大澤友二氏、チューター：
 潮平英郎氏・中尾滋久氏・玉城武範氏・伊差川サヤカ氏・古謝さなえ氏
 ○沖縄県立南部医療センター・こども医療センター開院10周年記念祝賀会及び地域医療連携
 懇親会 ホテル日航那覇グランドキャッスル 亀谷会長
- 7日○那覇地区薬剤師会医療安全講習会 県薬ホール
 ○**医薬分業対策委員会主催研修会** 県薬ホール
 ○**第129回健康とおくすり相談会** 竹富町立小浜公民館 担当：八重山地区薬剤師会
- 9火○平成27年度薬物乱用対策研修会 沖縄県自治研修所 亀谷会長
 ○沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課より来訪 県薬会議室 山城課長
 ○八重瀬町教育委員会「職業インタビュー」 八重瀬町立東風平小学校体育館 講師：玉寄
 睦子氏
 ○平成27年度第12回定例幹事会 県薬会議室
- 10水○平成27年度薬物関連相談窓口担当者意見交換会 沖縄県総合福祉センター 亀谷会長
 ○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
- 11木○**平成27年度高度管理医療機器等継続研修会（宮古地区）** 宮古地区薬剤師会事務所 講師：
 吉田理事
 ○**青年部会主催在沖米軍基地内海軍病院視察** 米軍基地内海軍病院
 ○生涯学習担当者全国会議 日薬 外間副会長
- 12金○平成27年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会 ヒルトン沖縄北谷リゾート
 ○薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会 県薬研修室 講師：笠原理事
- 13土○平成27年度第1回薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議 ANAクラウンプラ
 ザホテル沖縄ハーバービュー 亀谷会長、我喜屋常務理事
- 14日○**第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会** 沖縄県小児保健協会館
 ○**第130回健康とおくすり相談会** 糸満市役所 担当：南部地区薬剤師会

- 14日○平成27年度医療安全講習会 県薬ホール
- 15月○未来の産業人材育成事業「職業人講話」久米島町立清水小学校 講師：山城晶氏
○平成27年度第2回災害対策委員会 県薬会議室
- 16火○第七回沖縄動脈硬化予防研究会 ザ・ナハテラス 共催：バイエル薬品(株)
- 17水○学校薬剤師部会担当者全国会議 日薬 前濱副会長、村田成夫学薬部会長
- 18木○地域医療・地域保健担当者全国会議 TKP赤坂駅カンファレンスセンター（東京都） 笠原理事
○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：宮城幸枝氏
○第74回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
○中部地区薬剤師会臨床薬剤師育成研修会 (株)ダイコー沖縄
○財務委員会 県薬会議室
- 19金○平成27年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部管理棟 亀谷会長
○薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会 宮古地区薬剤師事務所 講師：笠原理事・西川裕氏
- 20土○平成27年度第12回定例理事会 県薬研修室
- 21日○平成27年度薬剤師継続学習通信教育講座・スクーリング 県薬ホール
○第131回健康とおくすり相談会 サンエー経塚シティ（浦添市） 担当：那覇地区薬剤師会
- 22月○沖縄県Uターン希望薬学生病院・薬局見学 沖縄県立北部病院、北部地区医師会病院、勝山病院、宮里病院、北部地区薬剤師会会営薬局 名城大学3年生、大城係長
○九州ブロック日薬代議員予備会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、吉田理事、神村武之前会長
- 23火○沖縄県Uターン希望薬学生病院・薬局見学 会営薬局うえはら、琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院 北陸大学5年生、名城大学3年生、大城係長
○平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会 ちゃたんニライセンター・カナイホール 講師：我喜屋常務理事
○沖縄県看護協会より来訪（「小児救急電話相談事業#8000」の件） 県薬会長室 亀谷会長、山城課長
- 24水○沖縄県Uターン希望薬学生病院・薬局見学 浦添総合病院、沖縄赤十字病院、沖縄県立南部医療センターこども医療センター、会営薬局医療センター前、会営薬局とよみ 亀谷会長、北陸大学5年生、大城係長
○薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会 大濱信泉記念館 講師：笠原理事・中尾滋久氏
- 25木○健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」 那覇市鏡水ふれあい会館 講師：具志堅興信氏・鈴木一徳氏、大城係長
○国頭地区養護教諭研修会 名護市中央公民館 講師：村上市子氏（学校薬剤師部会）
○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 吉田理事
○日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第4回）」の伝達研修会開催のための打合会議 県薬会議室 地域保健開局委員会：笠原委員長・松本圭五委員、大城係長
○平成27年度第3回地域医療支援病院運営委員会・登録医総会・記念講演会・地域連携懇親会 ロワジールホテル&スパタワー那覇 亀谷会長

- 25木○ 医業経営セミナー (株)琉薬 共催：(株)琉薬
○ 肝性浮腫学術講演会 ホテル日航那覇グランドキャッスル 共催：大塚製薬(株)
- 26金○ 医薬分業指導者協議会 厚生労働省講堂 川満常務理事、西川裕 (医薬分業対策委員会)
- 27土○ 歯科医師・薬剤師認知症対応力向上研修伝達講習会 フクラシア品川クリスタルスクエア (東京都) 中尾滋久氏 (地域保健開局委員会)
- 28日○ 北部地区薬剤師会無菌調剤室共同利用研修会 北部地区薬剤師会館
○ 日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会 (第4回)」の伝達研修会 県薬研修室 講師：地域保健開局委員会：笠原委員長、松本委員
- 29月○ 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会第9回在宅医療連携システム構築に係る小委員会 沖縄県医師会館 笠原・吉田両理事

平成28年3月

- 1火○ 平成27年度第13回定例幹事会 県薬会議室
- 2水○ 日本医師会医療事故調査制度研修会 (3日迄) 日本医師会館 薬事情報センター吉田典子
○ 沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式 琉球新報社 亀谷会長、大城係長
○ 第12回沖縄リウマチ薬研究会 ザ・ナハテラス 共催：ファイザー (株)
○ 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会 県薬研修室 講師：笠原理事・中尾滋久氏
- 3木○ 糖尿病療養支援実践セミナー第11回コメディカル勉強会 ちばなクリニック 共催：日本イーライリリー (株)
- 5土○ 平成28年度調剤報酬改定等説明会 航空会館 (東京都) 吉田理事、社会保険医療担当：仲真良重氏
- 6日○ 平成27年度自殺予防対策事業ゲートキーパースキルアップ研修会 県薬研修室
○ 新制度における幼保連携型認定こども園等の学校 (園) 薬剤師の研修会 県薬研修室 講師：小泉試験検査センター主任検査技師
- 7月○ 「小児救急電話相談事業 #8000」に関する協議会 沖縄県医師会館 亀谷会長、吉田理事、山城課長
- 8火○ 医療介護総合確保促進法に基づく都道府県計画の変更に対する地域の関係者意見聴取 県庁 前濱副会長
○ 平成27年度第2回健康づくり (福寿うちな〜) 推進協議会 全国健康保険協会沖縄支部 我喜屋常務理事
○ 平成27年度南部徳洲会病院第1回地域連携懇親会 ロワジールホテル&スパタワー那覇 亀谷会長
- 9水○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
○ 第9回美ら島ネットワーク 沖縄県医師会館 共催：持田製薬(株)
- 10木○ 日本医師会医療事故調査制度研修会 日本医師会館 亀谷会長、吉富理事
○ 平成27年度NST分科会～肝臓栄養に関する薬剤について～ 県薬研修室 共催：大塚製薬(株)
○ 医療保険委員会 県薬会議室
○ 第5回沖縄県在宅医療連携体制推進委員会 沖縄県医師会館 笠原理事
- 11金○ 会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局上原、前原
○ 第14回OCEAN研究会 ザ・ナハテラス 共催：大日本住友製薬(株)

- 11金○パーキンソン病講演会 国立病院機構沖縄病院 共催：大塚製薬(株)
- 12土○第86回日本薬剤師会臨時総会(13日迄) ホテルイースト21東京 吉田理事、神村武之前会長
 ○第1回妊婦・授乳婦薬物療法講習会 豊見城中央病院 共催：妊婦・授乳婦薬物療法分科会
 ○平成27年度第12回定例理事会 県薬ホール
- 13日○第86回日本薬剤師会臨時総会 ホテルイースト21東京 吉田理事・神村武之前会長
- 14月○平成27年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 吉田久子氏
 ○健康食品・サプリメント関連研修会の企画・運営に関する会議 県薬会議室 亀谷会長、盛本直也氏、名嘉紀勝氏、玉城武範氏、阪本崇彰氏、大城係長
- 15火○平成27年度沖縄県献血推進協議会 県庁 前濱副会長
 ○宮古地区研修会DEPRESSION Meeting in MIYAKOJIMA 沖縄県立宮古病院
- 16水○沖縄県医療審議会法人部会 県庁 亀谷会長
- 17木○第6回沖縄県地域医療構想検討会議 県庁 亀谷会長
 ○地域保健開局委員会 県薬研修室
- 18金○糖尿病治療学術講演会2016 ザ・ナハテラス 共催：小野薬品工業(株)
- 19土○中部徳洲会病院竣工祝賀会・内覧会 中部徳洲会病院新病院 江夏副会長
- 20日○第2回薬剤師のための在宅医療教育セミナー 県薬ホール
- 21月○平成28年度調剤報酬改定等説明会 浦添市てだこホール
- 22火○那覇市福祉部より来訪 県薬会長室 亀谷会長、山城課長
- 23水○なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会 笠原理事、稲福係長
- 24木○平成27年度第2回沖縄県薬物乱用防止協会理事会 県庁 前濱副会長
 ○中部地区研修会臨床薬剤師育成研修会 (株)琉薬
- 26土○第5回沖縄リハビリテーション栄養研究会 沖縄県総合福祉センター 共催：沖縄リハビリテーション栄養研究会
- 27日○第73回臨時総会 県薬ホール
- 28月○九州厚生局沖縄事務所との連絡協議会 県薬会議室 亀谷会長、吉田理事、仲真良重社会保険医療担当、事務局松堂
- 29火○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局上原、前原
 ○一包一話集制作会議 県薬会議室 新垣顧問、城間盛光氏、鈴木一徳氏、大城係長
- 30水○沖縄県保健医療部保健医療政策課より来訪 県薬会長室 前濱副会長
 ○平成28年度調剤報酬改定等説明会(八重山地区) 大濱信泉記念館 講師：仲真良重氏
- 31木○平成28年度調剤報酬改定等説明会(宮古地区) 宮古地区薬剤師会事務所 講師：仲真良重氏

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成28年2月

- 3水○ 沖縄県薬剤師連盟全体会議 県薬ホール
- 10水○ 全国藤井もとゆき薬剤師後援会事務担当者連絡会議 スクワール麹町（東京都） 山城・前原（事務局）
- 17水○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い （株）薬正堂 亀谷会長、石川副幹事長、山城（事務局）
- 23火○ 沖縄県歯科医師連盟訪問 沖縄県歯科医師会館 亀谷会長、山城（事務局）
- 24水○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い 浦添総合病院、沖縄赤十字病院、りんご調剤薬局、アシスト薬局 亀谷会長、大城（事務局）
 - 藤井もとゆき後援会名簿協力願い 平仲ボクシングジム 亀谷会長、山城（事務局）
- 29月○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い 豊見城中央病院 亀谷会長、山城（事務局）

平成28年3月

- 4金○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い （株）東和薬品沖縄販売 亀谷会長、稲福（事務局）
- 5土○ 全国会長・幹事長・女性役員連絡協議会 クロスウェーブ船橋（千葉県） 亀谷会長、吉田久子幹事長、前濱総務
- 8火○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い （株）レ・ネット 亀谷会長、石川副幹事長、山城（事務局）
- 11金○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い （株）ふく薬品 亀谷会長、山城（事務局）
- 25金○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い ハートライフ病院 亀谷会長、山城（事務局）
- 30水○ 藤井もとゆき後援会名簿協力願い （株）トーショー 石川副幹事長、山城（事務局）
 - 平成27年度定時評議員会 スクワール麹町（東京都） 亀谷会長

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

池間 啓 先生（享年88歳） 平成28年3月28日ご逝去

古謝 紀和 先生（享年74歳） 平成28年4月17日ご逝去



会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願ひします。

【連絡先】 県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

第30回沖縄県薬剤師会学術大会の演題の募集について

会 員
部 会 長 各 位
地区支部長

沖 縄 県 薬 剤 師 会
学 術 大 会 実 行 委 員 会

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の学術大会を来る平成28年11月6日(日) 沖縄県薬剤師会館に於いて開催することになりました。

つきましては、下記により演題を募集致しますので、多数の申込を頂きますようお願い申し上げます。
但し、原則として1施設1演題とします。

記

- 演題募集部門名：①保険薬局部門 ②学校薬剤師部会 ③女性薬剤師部会 ④公衆衛生部門
⑤行政薬剤師部会 ⑥病院診療所部会 ⑦卸勤務薬剤師部会 ⑧青年薬剤師部会
⑨OTC・健康食品部門 ⑩医薬品情報部門 ⑪試験検査部門 ⑫地区・支部・他職種連携
- 発 表 時 間：一題 10分（発表8分、質疑応答2分）
①発表は口演（パワーポイント）発表を主とします。
②演題の応募状況によっては、発表時間を調整させていただくことがあります。
- 演題申込締切：平成28年9月9日(金)
- 講 演 要 旨：A4版縦用紙1枚程度（1200字以内）にまとめ郵送またはメールで送付下さい。
（作成要領は裏面をご参照下さい。）
- 要 旨 締 切：平成28年10月7日(金)
- 申 込 先：〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 沖縄県薬剤師会館内
第30回沖縄県薬剤師会学術大会準備委員会
TEL (098) 963-8930 FAX (098) 963-8932
E-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
***大会プログラム及び大会参加申込書は、後日お知らせ致します。**

平成28年 月 日

第30回沖縄県薬剤師会学術大会 演題申込書

発表施設名 or 地区・支部・委員会・部会名

演 題

所 属

電話番号

発表者（フリガナ）

（連名のとき演者に○印を）

所要器具（必要なものに○印を）

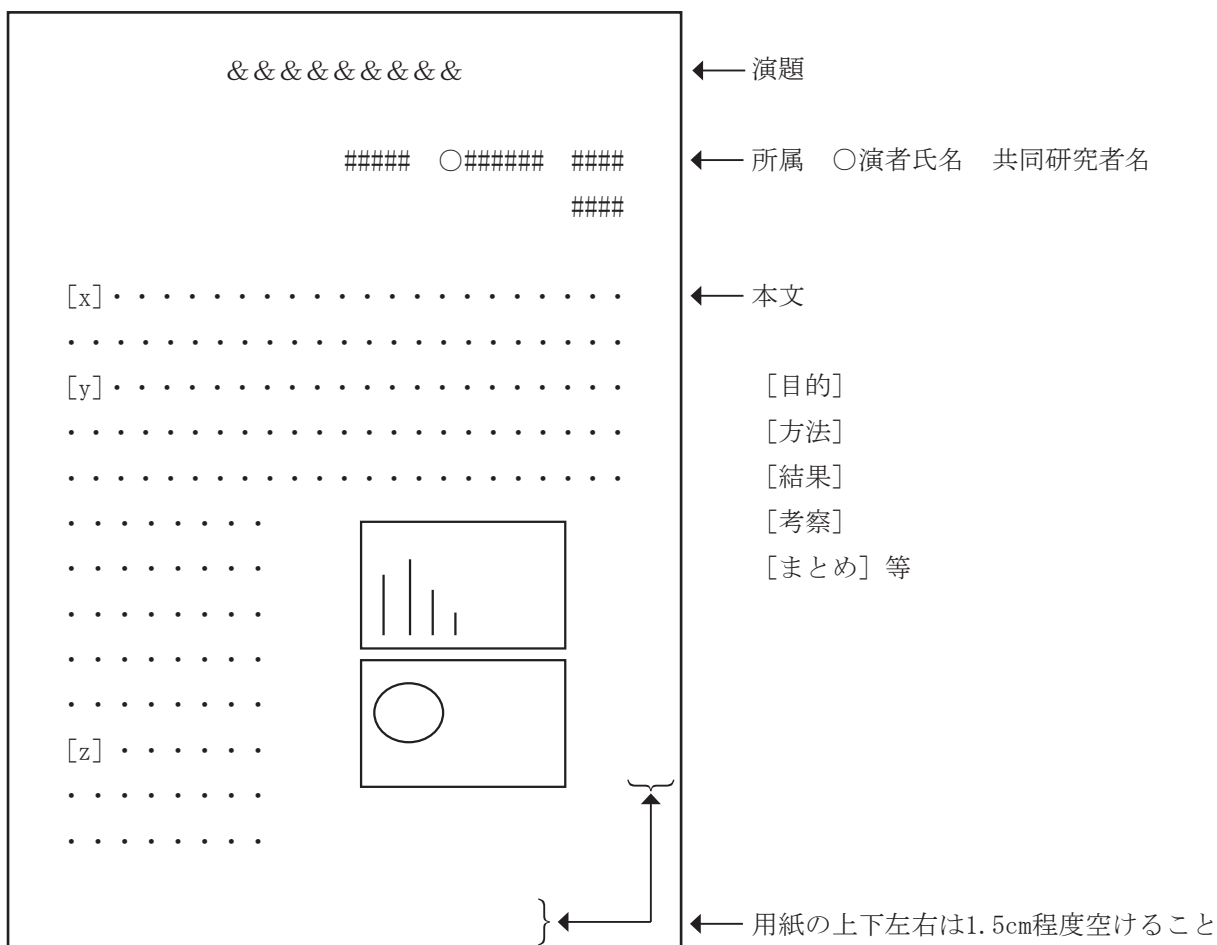
- Power Point（パソコンプロジェクターは1台用意）
- その他

※講演要旨作成要領は裏面に記載されています。

講演要旨作成要領

沖縄県薬剤師会学術大会実行委員会

1. 原稿をそのままオフセット印刷にかけて学術大会要旨集を作成しますので、次の要領で原稿を作成して下さい。
2. 講演要旨はA4版用紙を使用し、ワードで作成して下さい。(A4用紙1枚にまとめて下さい。)
3. 演題、所属、氏名は下記の「作成見本」を参照して下さい。
4. 文字書体はMS明朝、文字大きさは11ポイント、英数字は半角でお願いします。
5. 演題、所属、発表者氏名の欄は写植印刷致します。最上部の行から記入して下さい。演者の氏名には、先頭に○印を付けて下さい。
6. 作成見本



社保だより

平成28年度における診療報酬等の納入期日及び支払日予定表

	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
平成28年4月 注1			納入期日	支払日		土	日
5月 注2		納入期日	支払日	土	日		
6月 注1	土	日	納入期日	支払日			
7月 注1	祝日		納入期日	支払日		土	日
8月 注3		納入期日	土	日	支払日		
9月 注1	日	祝日	納入期日	支払日	祝日		土
10月 注1			納入期日	支払日	土	日	
11月 注4		土	日	納入期日	支払日	祝日	
12月 注1	日		納入期日	支払日		祝日	土
平成29年1月 注2		納入期日	支払日	土	日		
2月 注1	土	日	納入期日	支払日			
3月 注4	土	日	祝日	納入期日	支払日		

※ 診療報酬等には、特定健診・特定保健指導費及び出産育児一時金等に係る費用も含まれます。

注1 納入期日20日・支払日21日

注2 納入期日19日・支払日20日（21日・22日が銀行の休日）

注3 納入期日19日・支払日22日（20日・21日が銀行の休日）

注4 納入期日21日・支払日22日（19日・20日が銀行の休日）

友、一香くんを思う

患者さんの名前を呼ぶ。中国風の名前である。ここではCさんと呼ぶことにする。

一通りの説明をして投薬が済むと、後ろを振り返って話しかけてきた。やはり語尾に特徴のあるアクセントであるが正確な日本語である。「あの水槽の魚は鯉ですか」と言う。小生の薬局にはグッピーの入った小さい水槽と90センチの水槽があり、時間待ちの患者さんには好評である。90センチの水槽の中には鯉がいるのだが、大きくなり過ぎた。50センチくらいになったので窮屈そうに泳いでいるのだ。これを指差して、「鯉ですか？」と言う。「そうです、鱗の少ない鏡鯉です。」「口をパクパクして砂利を吸い込んでいますようですが大丈夫ですか?」「大丈夫です、これは鯉の習性ですよ。」と言ってから魚が好きなんですかと聞くと、見ているうちに鯉を俳句の中に取り込みたいと思いましたとのことである。小生もつい言葉尻に乗ってしまった。「俳句をなさるんですか、私の同期の友人にも俳句をやるのがおりましたが、昨年9月9日に亡くなりました玉城一香というんですが」とすると、「一香先生ですか、一香先生は沖縄俳句会では一番の方でした。私は13年前から先生の沖縄俳句研究会で勉強してきました。近々追悼俳句会もあります。」次の患者さんが来るまでの短い時間、早口で話す。一香さんが福岡学芸大学の時から俳句を始めたこと、本土の中央俳壇の『寒雷』の同人であること、沖縄タイムス俳壇の選者を長年務めたことなどを話す。「同級生なら一緒に俳句やりましょう。2週間後にまた来ますので、その時に自分の俳句集持って来ます」と言った。そこまではどうもと思ったものである。

玉城一香さんとは小学校六年の時のクラスメートである。一香さんは盛一のひとと奥さんの静香の香の一文字づつを取ったものである。小生とは頻りに、時に少し遠のいたりを繰り返しながら、良きにつけ悪きにつけいわゆる仲間として友情を温めたものである。

特に30代の頃は他の友人なども交えて桜坂に繰り出したものである。彼は高校教師として歴史を教えていた。教育畑も他の社会と同じく、人の数ほどの思いや意見があり、時にぶつかる事もある。一香氏は『坊ちゃん』に登場する山嵐のような気持ちを持ち合わせる熱血教師であるから、そういう事にもたびたびあったようである。生徒指導も熱心で成果を上げたが、なかにはウーマク^{*1}がいてルール違反を繰り返すとそれには強く接したので「あの先生は難しいグッ^{*2}」と陰口を叩く人もいたようだ。もうその頃はすでに沖縄俳句界では第一人者となっていたようである。彼の作品とか俳句界のリーダーとしての業績などについては共に歩んできた俳句研究会の皆さんの発言に委ねたいと思う。

五、七、五の十七文字の最も短いポエムの世界に飛び込む人達が多い。ブームと言うのだろうか。或る日、「これあげるよ」と箱に入った分厚い本を手渡された。俳句集である。初めての俳句集だったのだろう。表題は『地蟲^{じむし}』である。その中にこの句がある。『地蟲出て すぐ戦いの 姿なり (一香)』である。すごいと思った。三月の啓蟄の頃に寒い地中で耐えてきた虫達が、春の息吹に誘われて一斉に地上に這い出してくる。この地上は花が咲き、日が燦々と降りそそいで楽園のようであるが、ここはまた喰うか喰われるか生存競争の厳しい世界なのだ。この虫達も大自然の移り変わり、営みの一構成員であるのだ。十七文字の中にダイナミックに、見事に詠み込んだと大いに感心しているのである。また、こんな一句がある。『飛ぶは自在 休むは並びて つばくらめ (一香)』である。小生が40代の始めの頃、同期生の模合の幹事をしていたがこの一句を拝借して、案内文を送った。我々の今の年代は、家庭を守り、特に仕事の上ではトップを狙う立場でもあるから、そこで自在に頑張ってくれ、この会は次の次会だと思って良い!と、どのように受け止めたの

だろうか、だんだん出席率が下がってきたようである。当時リーダー的存在だった一級建築士のT君に「ホラあんな事言うから欠席者が多くなったぞ、どうする」とお叱りを受けたものだ。この句の意は充分理解していると思うが、引用の仕方をミスったのだと大いに反省したものだ。『飛ぶは自在 休むは並びて つばくらめ (一香)』昨年9月9日訃報に接した時、呆然としながら彼との共有した色々の場面が思い出されるのである。俳句という素晴らしいライフワークを持った心の友を失った消失感が深まる。また、首里公民館での彼の沖縄俳句研究会で活動した同人の皆さんの落胆している様も想像に難くないのである。

あれから2週間が過ぎた。Cさんが60日分の処方箋を持ってやってきた。投薬が済んでから「約束ですから持って来ました。」とカウンターに3冊の本を並べた。1冊は俳句随筆作品集である『向日葵』。さらに、夫婦の名から一字ずつ取った『昭來集』という、琉球新

報の南風などに投稿したエッセーを集録した1冊である。もう1冊は自身で書いた『台湾情 沖縄世』という単行本である。本を書くような人物だったんだ。びっくりぽんである。経歴を拝見すると、台湾の大学を卒業後、台湾沖縄友好の機関でトップの秘書、通訳、翻訳を数多く仕事とした。また、琉球大学法学研究科修士課程を終了した沖縄通でもある。しかも、壺屋町出身の米留経験のある方と結婚しているからもうウチナンチュー^{※3}なのであると思った。玉城一香の名前を出したのが縁となったのだろうか。「これは差し上げます。また60日後に来ます。」と帰っていった・・が、始めに「俳句一緒にやりましょうよ」という言葉が気にかかるのである。

今年も高齢者の学ぶ『かりゆし大学校』の入学式があった。小生ももう一つの『かりゆし大学校』に引っ張り込まれるのか・・・そんな気がしてならない。 橋の下

※1 やんちゃ坊主 ※2 難しい人 ※3 沖縄県人

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいませようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp



誌上ギャラリー（裏表紙）について

左上：「シエナ大聖堂」 photo by 廣川 直子（ハイジア薬局） 撮影地：イタリア

【訂正とお詫び】 当会報誌279号（平成27年11・12月号）のリレー随筆（廣川直子先生執筆）に掲載した写真です。

「イタリアミラノのドゥオーモ」と誤記しました。廣川先生、読者へお詫びと訂正を申し上げます。（広報委員会）

右上：「学優文麗至通也」 太田 節子 書 学優に文麗なるは至通なり。

下：「栗国の塩 採かん風景」 photo by 笠原 大吾（福寿薬局） 撮影地：栗国島

塩を製作する採かんタワーの内部を撮影。竹が何本も吊されており、ポンプで汲み上げられた海水を何度も竹に流して循環させて採取される。

編 集 後 記

新年度を迎えて、気持ちを新たにやる気モードの毎日です。いろんな意味で理想と現実の狭間でもがいているけど、、、今年度も頑張ります。さて先日、何気に読んでいた本で「2：7：1のバランス」というものに遭遇しました。この数字、なんだと思いますか？これは、読みやすく伝わりやすい文章の「文字のバランス」で、「漢字：ひらがな：カタカナ＝2：7：1」とのことです。たしかに、漢字が多い文章だと堅苦しくて読みにくい。しかし漢字がなく、ひらがなばかりなのも困る。カタカナも多すぎるとやっかいです。（苦笑）う～ん、「なにごとにもバランスが大切」。以前、アナザーフェイスの取材で伺った武内尚子先生の言葉がリフレインしました。今回は取材記事がありませんが、バランスよく取材をこなして情報提供できたらと意気込んでいます。（クララ）

今年の会報誌の表紙は海外の薬局がテーマです。私の思い付きを委員長のクララ先生が汲み取ってくださったことで始まったこの企画。たまに会員で海外が大好きな方から「今号の写真、よかった！」と言われると自分が撮影したわけでもないのに、得意気になってしまいます。写真を見ながら世界の医療を思ったり、夏休みの行き先を考えたり。先生方からの投稿もお待ちしております。（いさ吉）

今回の調剤報酬改定は施設基準の届出項目が多く、煩雑で、期日はせまっているし、パニックになりそうであった。大手の調剤薬局チェーンでは3月の時点から着々と準備を重ね、粛々と手順を踏んで届け出をこなし、4月からは即実行らしいと聞き、ますます焦ってくる。昔ながらのマンパワー依存の薬局としては、調剤基本料・後発医薬品調剤体制加算・かかりつけ薬剤師指導料の三つを期日までにやっとの事で届出をして、基準調剤加算については、限りなくハードルが高いのでおいおい考えることにした。「かかりつけ薬剤師」の必須項目に「医療に係わる地域活動の取り組みに参画していること」というのがある。これまで人集めに苦労していた「学校薬剤師」「お薬相談会」広報委員が頑張ってお手伝いしている「仕事ミュージアム」「グッジョブ」等々は、薬剤師職能の啓蒙活動として今後は、老いも（？）若きもたくさんの薬剤師が参加してくれるのではないかと大いに期待している。薬剤師職能をアピールする絶好のチャンスなので、県薬でも「医療に係わる地域活動」の新しいイベントを開催して頂けたらと思う。（ピアナ）

急に暑くなりましたね。春を飛び越して夏になったような陽気です。春眠暁を覚えず…ではなく、早くもエアコンフル稼働です。沖縄っぽいといえばそうですが春が恋しいです。春よ戻ってこいっ、カムバック！（みつなり）

突然ですが、思い込みで恥ずかしい思いをしちゃいました。おなじみ全日空寄席の司会者「講談師（こうだんし）：神田紅」さんのことを好男子（こうだんし）と思い、最近まで男性だと思っていました。また、750ccのバイクのことをさすナナハン（7半）「700+50（100の半分）」を「ナハハン」とよんでいました。さらには、素晴らしい演奏や演技、プレーに感動した観客による最大限の賛辞である「スタンディングオベーション」のことを「スタンディングオ~~ベ~~レーション」と思っていました。みなさんも思い込み話ありませんか？（三郎）

新年度です。毎年のことながらあわただしい年度の始まりです。子供もまた一つ大きくなり、薬局は再び診療報酬改定に悩まされる…。今年の改定はついに薬剤師個人への点数がつくようになりました。今後はこの点数を大事にしていきたいものです。はたして自分は地域に必要な薬剤師なのか、悩ましい問題ですがまずは一步、踏み出していこうと思います。最近体重が増加の一途です。ストレスと言いつつ続けてきましたが、そろそろ生活習慣病レベル、と妻。実際はただの食べ過ぎなんですけどね(笑)。(松)

ひょんなことから今月末、初の特定健診を受けることになった。今までビビってたせいもあって、何かと理由をつけて胃と大腸カメラ検査を避けていたのだが、職場の門前医療機関が消化器内科という関わりもあり、院長から「もういい歳なんだから、胃・大腸カメラやってた方がいいよ～」と勧められ…今回重い腰を上げる経緯となったのである。これまでは若さでどうにかカバー出来ていたのが、40代に突入してからは急に体力が落ちて代謝も悪くなった感がある。まず体重がなかなか落ちない！更には翌日の酒の抜けも悪くなっている…（これは単に飲み過ぎだろうけど…笑）ここは自分の為だけではなく、大切な家族を守る為にも現状をしっかりと把握することが重要だ。にしても、上下から管の一斉オンパレード！どうあがいても受け身にならざるを得ないだろう…いい加減に覚悟を決めないと！いや、やっぱり怖いもんは怖いんだな～とほほ…（ごり）



沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
 ■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
 ■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
 ■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
 ■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第281号 平成28年4月28日発行

◇次号は、平成28年6月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 亀谷浩昌

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
 石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 Skill



誌上ギャラリー
(会員作品)
お気軽にご投稿下さい。